令和５年度

弘前大学地域創生本部年報

国立大学法人
弘前大学
HIROSAKI UNIVERSITY

目　次

はじめに（ご挨拶）
弘前大学地域創生本部長・弘前大学長　　福田　眞作 …… 1

Ⅰ．地域創生本部の体制 …… 2
１．地域創生本部について …… 2
２．地域創生本部 構成員名簿 …… 3

Ⅱ．地域創生本部の活動 …… 6
１．地域創生本部事業 …… 6
（１）青森県における科学的根拠に基づくがん検診推進事業 …… 6
（２）包括連携協定を締結している青森県内自治体と連携した学生支援事業
「地元産品で地域と弘大生をつなぐプロジェクト」 …… 8
（３）広報活動 …… 10
２．地域連携推進部門事業 …… 11
（１）青森創生人財育成・定着推進協議会における取組 …… 11
（２）青森版地域連携プラットフォーム設立に向けた取組 …… 14
（３）青森県内自治体等との包括連携協定の締結 …… 15
（４）青森県内自治体等との連携調査研究事業 …… 16
（５）青森県内自治体首長及び企業経営者等を講師とした講演会の開催 …… 18
（６）地方創生ネットワーク会議 …… 18
（７）大学コンソーシアム学都ひろさき …… 19
３．地域創生人材育成部門事業 …… 24
（１）弘前大学地域創生本部連携推進員 …… 24
（２）弘大じょっぱり起業家塾 …… 27
（３）地域創生本部主催の生涯学習事業 …… 29
４．ボランティアセンター事業 …… 33
（１）ボランティア登録者数、ボランティア活動参画者数 …… 34
（２）ボランティアセンターの活動 …… 34

Ⅲ．サテライト …… 39
１．八戸サテライト …… 39
２．青森サテライト …… 40
３．サテライトキャンパス …… 40

Ⅳ．各学部・研究科等における公開講座等の実施状況 …… 43
１．実施件数・参加人数 …… 43
２．公開講座等一覧 …… 44

Ⅴ．各学部・研究科等の地域連携・地域貢献に関する取組事例 …… 82

はじめに

弘前大学地域創生本部では2022（令和４）年度より、地域創生本部及びその下で事業を推進するために設置された地域連携推進部門、地域創生人材育成部門、ボランティアセンターの施策や事業実績等をまとめた「弘前大学地域創生本部年報」を発行しております。

本年報は、本学各学部・研究科等の協力も得て、地域創生本部以外の公開講座や地域連携・地域貢献に関する取組の実施状況も収録して、本学全体の地域連携・地域貢献活動を紹介していますので、本学の取組に対する理解を深めていただければ幸いです。

令和５年度は、本学の第４期中期目標期間の２年目にあたります。社会に大きな影響をもたらした新型コロナウイルス感染症は、感染症法上の位置付けが令和５年５月８日から「５類」に移行し、本学の各種活動も徐々にコロナ前に戻ってきました。そのような状況の中、本学の教育・研究成果を活かした地域課題解決に向けた地域と連携した取組や、地域を牽引するリーダーなどの人材育成、県内自治体・企業等とのネットワーク強化の取組などを中心として、地域の中核的拠点である大学の役割を果たすために様々な活動を展開することができたと考えております。

弘前大学は以前から、「世界に発信し、地域と共に創造する」とのスローガンの下に、高等教育機関としての役割を追求してきました。これからも地域活性化の中核拠点としての機能充実・強化を促進し、「地域を支え、地域から支えられる大学」の形成を目指すとともに、今まで培ってきた強固な地域連携を基盤として、しっかりと地域貢献を実現しつつ、得られた教育研究の成果を全国、そして世界に広げていく所存です。引き続きご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

弘前大学地域創生本部長
弘前大学長
福　田　眞　作

Ⅰ．地域創生本部の体制

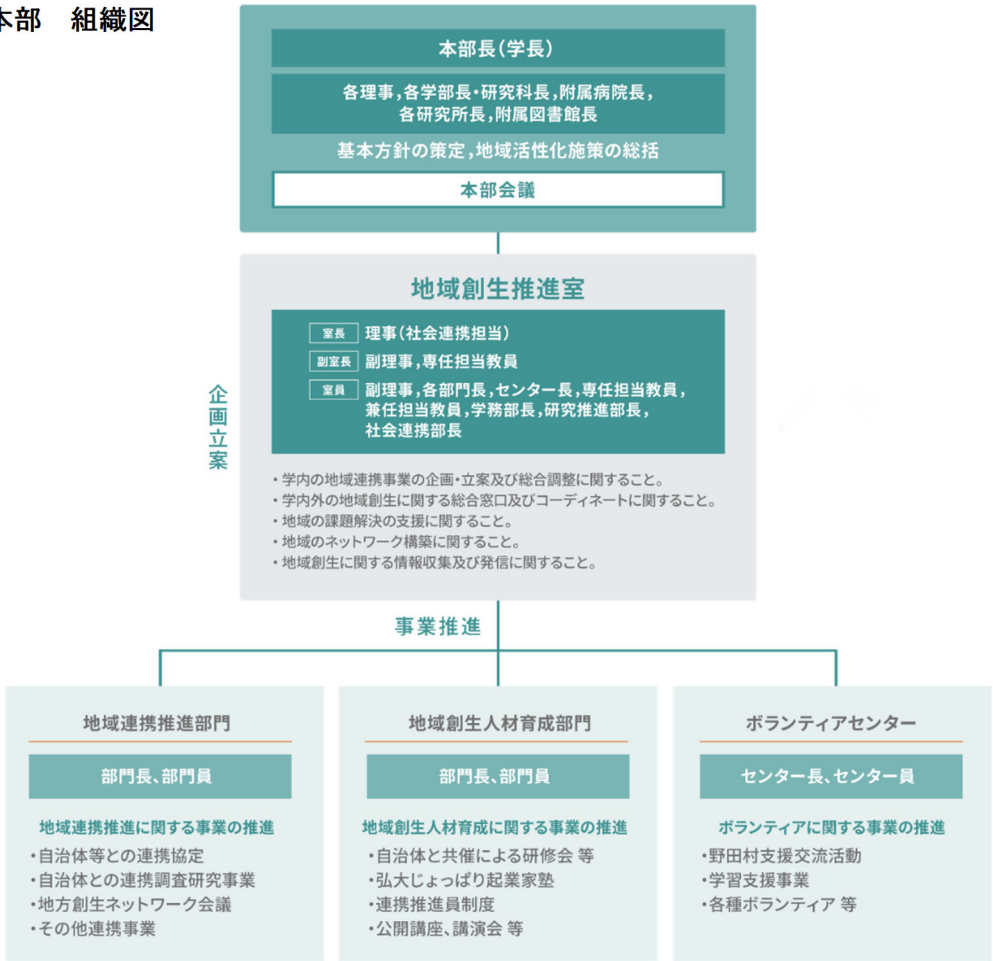
１．地域創生本部について

地域活性化の中核的拠点としての機能の充実・強化に向けて、地域の特性を活かした地域活性化施策を大学一体となって総合的かつ計画的に推進するため、理事（社会連携担当）を機構長として設置していた全学組織「弘前大学社会連携推進機構」を発展的に改組して、平成30年10月、学長を本部長とする「弘前大学地域創生本部」を新たに設置し、全学的な推進体制を整備。

組織のトップを学長が務め、全ての理事、学部長・研究科長等を構成員とする本部は、地域活性化に関する施策の基本方針を策定し、地域活性化の観点で学内組織を横断的に総括する役割を担う。平成31年４月には「地域活性化に関する施策の基本方針」を策定。

本部内に設置する「地域創生推進室」は、基本方針を踏まえた本部の運営、地域活性化施策の企画・立案や総合調整を行うとともに、総合窓口機能の強化に取り組む。推進室には、地域社会の情勢等に精通する専任の実務家教員１名（准教授）を副室長として配置し、さらに、地域からの要請に基づく地域課題解決やイノベーション創出の一層の促進、また、青森県全域で取り組む人材育成・地元定着に向けた取組を重点的に進めていくため、専任教員１名（助教）を配置している。また、事業推進のため、本部内に「地域連携推進部門」「地域創生人材育成部門」「ボランティアセンター」の３部門を設置している。

地域創生本部　組織図



地域活性化に関する施策の基本方針（平成31年４月24日策定）

１．地域活性化に寄与する研究や教育を通じて、自治体や企業、地域の団体等と連携し、地域課題の解決に取り組む。

２．地域課題を取り入れた教育を展開するとともに、グローバルな視点を持ち地域を牽引するリーダーやコーディネーターなどの地域活性化に貢献する人材育成に取り組む。

３．地域との連携を推進するための企画・調整を一元的に行うとともに、ネットワーク形成の強化を図りつつ、積極的に情報発信する。

２．地域創生本部　構成員名簿

地域創生本部　　令和５年４月１日現在

所属・職名	氏　名	備　考
学長	福田　眞作	本部長
理事（社会連携担当）	橋本　恭男	副本部長
理事（企画担当）	若林　孝一	
理事（総務担当）	岡本　和久	
理事（教育担当）	郡　千寿子	
理事（研究担当）	曽我　亨	
理事（特命担当）	佐野　輝男	
人文社会科学部長	飯島　裕胤	
教育学部長	福島　裕敏	
農学生命科学部長	東　信行	
大学院医学研究科長	廣田　和美	
大学院保健学研究科長	齋藤　陽子	
大学院理工学研究科長	岡﨑　雅明	
大学院地域社会研究科長	森　樹男	
大学院地域共創科学研究科長	片岡　俊一	
医学部附属病院長	袴田　健一	
被ばく医療総合研究所長	床次　眞司	
地域戦略研究所長	本田　明弘	
附属図書館長	羽渕　一代	

地域創生推進室　　令和５年４月１日現在

所属・職名	氏　名	備　考
理事（社会連携担当）	橋本　恭男	室長

所属・職名	氏　名	備　考
副理事 ／ 人文社会科学部　教授	森　樹男	副室長
－	（欠員）	副室長、専任教員
副理事	小野　厚志	
人文社会科学部　教授	李　永俊	
教育学部　准教授	佐藤　光輝	
農学生命科学部　教授	石塚　哉史	
農学生命科学部　准教授	前多　隼人	
大学院医学研究科　助教	沢田　かほり	
大学院保健学研究科　教授	高見　彰淑	
大学院理工学研究科　教授	片岡　俊一	
大学院理工学研究科　教授	佐々木　一哉	
大学院地域社会研究科　教授	平井　太郎	
大学院地域社会研究科　准教授	土井　良浩	
地域戦略研究所　准教授	永長　一茂	
男女共同参画推進室　助教	山下　梓	
地域創生本部　助教	辻本　侑生	専任教員
学務部長	山口　敬一	
研究推進部長　（兼）社会連携部長	古舘　賢樹	

地域連携推進部門　　令和５年４月１日現在

所属・職名	氏　名	備　考
副理事 ／ 人文社会科学部　教授	森　樹男	部門長
大学院理工学研究科　教授	佐々木　一哉	副部門長
教育学部　准教授	佐藤　光輝	
農学生命科学部　准教授	前多　隼人	
大学院地域社会研究科　准教授	土井　良浩	
地域戦略研究所　准教授	永長　一茂	
研究推進部長　（兼）社会連携部長	古舘　賢樹	

地域創生人材育成部門　　令和５年４月１日現在

所属・職名	氏　名	備　考
大学院理工学研究科　教授	片岡　俊一	部門長
農学生命科学部　教授	石塚　哉史	副部門長
教育学部　講師	深作　拓郎	令和5.5.31まで（後任：無）
大学院医学研究科　助教	沢田　かほり	
大学院保健学研究科　教授	高見　彰淑	
研究推進部長　（兼）社会連携部長	古舘　賢樹	

ボランティアセンター　　令和５年４月１日現在

所属・職名	氏　名	備　考
人文社会科学部　教授	李　永俊	センター長
人文社会科学部　教授	平野　潔	副センター長
教育学部　准教授	高橋　俊哉	副センター長
農学生命科学部　助教	矢田谷　健一	
大学院医学研究科　准教授	冨田　哲	
大学院保健学研究科　准教授	扇野　綾子	
大学院理工学研究科　准教授	藤﨑　和弘	
大学院地域社会研究科　教授	平井　太郎	
男女共同参画推進室　助教	山下　梓	
学務部長	山口　敬一	
研究推進部長　（兼）社会連携部長	古舘　賢樹	

Ⅱ．地域創生本部の活動

１．地域創生本部事業

（１）青森県における科学的根拠に基づくがん検診推進事業

本事業は、青森県の地域課題である「短命県返上」に向けて、新たな施策の提案を行い、がん検診受診率が高いにも関わらず、がんの年齢調整死亡率が全国的に下位となっている本県の状況を脱却することを目的として、本学学長の提案を機に、青森県と連携して令和３年３月から取り組んでいる事業。

事業実施にあたっては、本学学長をはじめとして、青森県医師会長、青森県市長会・町村会の各代表者、青森県総合健診センターの代表者、青森県保健所長会の会長、市町村保健師の代表者、青森県健康福祉部長、がん検診・がん医療の有識者で構成される会議体「青森県における科学的根拠に基づくがん検診推進委員会」を新たに設置。青森県一丸となって、地域課題の解決に向けて取り組みを推進していくため、様々な方向から検討が重ねられた。令和３年11月、会議体によって「青森県における科学的根拠に基づいたがん検診の要綱案」がまとめられ、青森県知事に提言書を提出。青森県は、この提言を受け、令和４年３月、「青森県におけるがん検診事業の実施に関する要綱」を策定した。

この要綱により、今後、関係機関が共通認識の下で、県民に対して科学的根拠に基づく適切で質の高いがん検診事業を提供することにより、がんの死亡率を減少させることを目指す。また、より多くの県民に対して科学的根拠に基づく適切で質の高いがん検診事業を提供する機会を高めることにより、がんの死亡率減少につなげていくことを目指す。

①令和５年度　青森県における科学的根拠に基づくがん検診推進委員会　名簿

所属・職名	氏　名	備　考
弘前大学長	福田　眞作	委員長
青森県医師会　会長	高木　伸也	青森県医師会の代表者
－	（欠員）	市町村（市部）の代表者
深浦町長	吉田　満	市町村（町村部）の代表者
青森県総合健診センター　常務理事	下山　克	青森県総合健診センターの代表者
青森県保健所長会　会長	齋藤　和子	青森県保健所長会の代表者
むつ市健康づくり推進部 健康づくり推進課長	高橋　嘉美	市町村保健師の代表者
青森県がん検診管理指導監	斎藤　博	有識者（がん検診・県内）
－	（欠員）	有識者（がん検診・県外）
弘前大学医学部附属病院 臨床試験管理センター　准教授	松坂　方士	有識者（疫学）
弘前大学大学院医学研究科 産科婦人科学講座　教授	横山　良仁	有識者（がん医療）
弘前大学大学院医学研究科 呼吸器内科学講座　教授	田坂　定智	有識者（がん医療）
青森県健康福祉部長	永田　翔	

②有識者等による座談会（令和４年４月20日）

令和４年度は、科学的根拠に基づくがん検診を推進することの目的・必要性について、医療機関・検診実施機関をはじめ、より多くの県民に理解してもらうことを目的として、有識者等による座談会を開催し、その内容を新聞広告に掲載した。また、市町村等でがん検診事業に従事している方を対象として研修会を開催した。

がん死亡率改善へ 検診向上を

科学的根拠に基づくがん検診

弘大と本県一丸で推進

青森で座談会

県民の主体的参画重要

精度管理に資源集中を

医療機関が同じ方向を

首長や現場の理解必要

従事者研修の充実図る

「東奥日報 2022年5月27日掲載」

③がん対策連携シンポジウム（令和６年１月21日）

令和５年度は、科学的根拠に基づくがん検診を推進することの必要性について、医療機関・検診実施機関をはじめ、より多くの県民に理解してもらうことを目的として、「青森県と弘前大学のがん対策連携シンポジウムー青森県からの日本一のがん対策・がん検診を目指してー」を開催した。

シンポジウム当日は、青森県内の医療機関及び検診実施機関の医療従事者、行政のがん検診担当者、がん検診に関心のある県民等が多数参加し、宮下青森県知事や本学学長をはじめとする有識者の講演やディスカッション、知事・有識者とフロアとの意見交換により、「科学的根拠に基づくがん検診」の必要性について理解を深めた。

（２）包括連携協定を締結している青森県内自治体と連携した学生支援事業「地元産品で地域と弘大生をつなぐプロジェクト」

本事業は、弘前大学と包括連携協定を締結している県内自治体と連携し、弘前大学の寄附金（弘前大学基金）と参加自治体からの拠出金を活用した学生支援事業。

令和２年度・３年度は、コロナ禍において経済的に困窮する弘大生への食支援を目的とした「地元産品を活用した食支援プロジェクト」として、産品パッケージ（詰め合わせ）配布による提供と、学生食堂を通じたメニュー提供の２パターンで実施。令和４年度・５年度は、地元産品や観光資源など各自治体の魅力を伝え、産品の消費拡大や旅行者の増加、将来的な関係人口の増加につなげることを目的とした「地元産品で地域と弘大生をつなぐプロジェクト」として、学生食堂でのメニュー提供と、売店等での販売の２パターンで実施。

令和５年度「地元産品で地域と弘大生をつなぐプロジェクト」は、前年度からの継続事業として、７月に「第２弾」を、12月に「第３弾」を実施。令和５年度プロジェクトには、包括連携協定を締結している県内自治体（17市町村：令和４年度末日現在）から11市町村が参加し、参加自治体からは、選りすぐりの地元産品が提供された（参加自治体及び提供された地元産品等は、以下①及び②を参照）。提供された産品は、一定時間営業している学生食堂や売店等での提供とすることで、学生が「食べたいとき」「買いたいとき」に行くことができる状況とし、また、いずれも「低価格」での提供とすることで、各自治体の産品や提供メニューを学生自身が「見て」「選択」することにより、参加自治体及び自治体の地元産品の「価値」「魅力」の認知・向上を図る狙いとした。

実施期間中は多くの弘大生が学生食堂や売店等を訪れ、提供メニューの食事や産品の購入を楽しんでいた。実施後のアンケートでは、弘大生から、参加自治体への多くの感謝の声や、「今度は、街中で販売されている地元産品を自ら購入して地域の支援に役立ちたい」「地元産品を提供してくれた市町村を訪れてみたい」「将来は地域貢献したい」などの声が挙がった。本プロジェクトは報道機関にも大きく取り上げられ、弘前大学及び参加自治体のPRにも大きく貢献した。

（第２弾：URL）https://chiiki.hirosaki-u.ac.jp/202309-10414/
（第３弾：URL）https://chiiki.hirosaki-u.ac.jp/202401-11158/

①地元産品で地域と弘大生をつなぐプロジェクト（第２弾）【令和５年７月実施】

ｉ）参加自治体（３市村）から提供された地元産品及び食堂でのメニュー提供

市村名	提供された地元産品	提供メニュー（価格：税込）
青森市	八甲田牛	八甲田牛の焼肉丼（１食 297円）
むつ市	大湊海軍コロッケ	大湊海軍コロッケ（１個 110円）
蓬田村	トマト（桃太郎） ミニトマト（キャロル10）	トマトサラダ（１食 110円） ミニトマト（１食(３個入）33円）

ⅱ）Photo Gallery（期間中の様子）

②地元産品で地域と弘大生をつなぐプロジェクト（第３弾）【令和５年12月実施】

ｉ）参加自治体（８市町村）から提供された地元産品及び提供方法等

市町村名	提供された地元産品	提供メニュー（価格：税込）	提供店舗
平川市	平川サガリ（牛）	平川サガリ丼 （１食 330円）	文京食堂Horest
田子町	ムキにんにく	田子にんにくの揚げ焼き （１パック30円）	文京食堂Horest 医学部食堂Pomme
東通村	タレ漬け焼肉（牛）	スタミナ牛焼肉（皿） （１食 110円）	文京食堂Horest 医学部食堂Pomme
中泊町	メバルの刺身（1人当たり8切）	中泊町メバル丼 （１食 330円）	文京食堂Horest
鰺ヶ沢町	ケーキ・ド・大福（深谷の栗） マロンパイ 栗どら焼き 深谷の栗エクレア	(100円) (100円) (100円) (100円)	文京食堂Horest 医学部食堂Pomme
黒石市	南八甲田の水で育った黒石産毛豆のクリーミーポタージュ	（１食 110円）	文京食堂Scorum

市町村名	提供された地元産品	提供メニュー（価格：税込）	提供店舗
深浦町	雪人参スムージー（180g・パウチタイプ）　（100円）		文京コンビニCerisier 医学部店FERIO 保健学科内Clover
板柳町	・「完熟」アップルジュース(180ml)　（100円） ・スパークリングアップルジュース　クールアップル(230ml)（100円） ・アップルファイバークッキー果肉チップ(130g)　（100円）		文京コンビニCerisier 医学部店FERIO 保健.学科内Clover

ⅱ）Photo Gallery（期間中の様子）

（３）広報活動

①地域創生本部パンフレット

地域創生本部の情報発信活動の一環として、地域創生本部パンフレットを作成し、広く配布するとともに、地域創生本部ホームページに掲載している。パンフレットは、毎年、内容を更新し発行している。

（URL）https://chiiki.hirosaki-u.ac.jp/about/

②地域創生本部Ｘ（旧Twitter）公式アカウント開設

地域創生本部の情報発信活動の一環として、令和４年２月に公式アカウントを開設し、主に地域創生本部の活動を発信している。

２．地域連携推進部門事業

（１）青森創生人財育成・定着推進協議会における取組

国からの補助事業として令和元年度まで実施していたCOC+事業（オール青森で取り組む「地域創生人財」育成・定着事業）の取り組みを令和２年度以降も継続して実施していくため、弘前大学が主導して新たな枠組みの構築や青森県内高等教育機関への参画要請を行い、COC+事業に参画していた10校に３校を加え13校を構成員とする「青森創生人財育成・定着推進協議会」を令和２年９月に新たに設置。同年10月には３校を追加して16校となり、県内全ての高等教育機関が参画する組織体として、青森県内全域で地域人財の育成と学生の県内定着に資する取組を実施するための体制を確立した。青森県内に４つのブロック（青森、弘前、八戸、むつ）を置き、ブロック毎に学生の地元定着に資する事業を展開している。

また、本協議会の設置（令和２年９月）に併せ、協議会の下に、高等教育機関・自治体・経済団体等の実務担当者で構成される「産官学情報交換会」を設置し、県内地域の若者定着促進に向けた各種事業の実施について意見交換及び協議を行うなど、地域課題の認識等について産官学間で情報共有を図っている。

①青森創生人財育成・定着推進協議会

ｉ）構成員（16校）　　令和５年４月１日現在

所属・職	氏　名	備 考
弘前大学長	福田　眞作	会長
青森公立大学長	－	（代行）神山　博
青森県立保健大学長	吉池　信男	
柴田学園大学長	－	（代行）荒城　英子
八戸工業大学長	坂本　禎智	
青森大学長	澁谷　泰秀	
弘前学院大学長	藁科　勝之	
八戸学院大学長	水野　眞佐夫	
青森中央学院大学長	佐藤　敬	
弘前医療福祉大学長	下田　肇	
柴田学園短期大学部長	島内　智秋	
青森明の星短期大学長	花田　慎	
青森中央短期大学長	佐藤　敬	
八戸学院大学短期大学部学長	杉山　幸子	
弘前医療福祉大学短期大学部学長	下田　肇	

所属・職	氏　名	備 考
八戸工業高等専門学校長	土屋　範芳	

ⅱ）令和５年度青森創生人財育成・定着推進協議会の開催

令和５年７月５日、ウェディングプラザアラスカ（青森市）において「令和５年度第１回青森創生人財育成・定着推進協議会」を開催、16校から学長等が出席し、以下について報告及び協議がなされた。

議事　１．令和４年度における事業実績および令和５年度における事業計画について
　　２．オンライン1/8DAYワークショップ～青森で就活～について
　　３．就職に関する「学生の声」と学生の県内定着に向けた「産官学の取組」について
　　４．あおもり創生☆Newsについて
　　５．その他

協議会終了後、「若者の県内定着及び県内企業の人財確保に向けた県の施策について」と題して、青森県商工労働部労政・能力開発課産業人材確保支援グループマネージャーによる講演を実施。講演後、学生の県内定着に関して活発な質疑応答が行われ、今後の同事業実施に向けた議論を進める上で有意義な講演となった。

（URL）https://chiiki.hirosaki-u.ac.jp/202307-9899/

②産官学情報交換会

ⅰ）構成員　　令和５年４月１日現在

所属・職	氏　名	備 考
弘前大学副理事	森　樹男	会長 弘前大学選出
青森中央学院大学地域連携センター長	成田　昌造	弘前大学以外の高等教育機関選出
八戸工業高等専門学校副校長	南　將人	同上
青森県企画政策部企画調整課長	奥田　昌範	自治体等選出
青森県商工労働部労政・能力開発課長	野田　保	同上
青森県市長会事務局長	小鹿　継仁	同上
青森県町村会常務理事・事務局長	原田　啓一	同上
青森県商工会議所連合会常任幹事	葛西　崇	経済団体等選出
青森県中小企業団体中央会専務理事	田中　泰宏	同上
青森県商工会連合会専務理事	前多　正博	同上

ⅱ）令和５年度産官学情報交換会の開催

令和５年８月10日、青森県観光物産館アスパム（青森市）において「令和５年度第１回産官学情報交換会」を開催し、以下について情報交換がなされた。

議事　１．学生の県内定着に向けた方策について 　　２．「オンライン1/8 DAYワークショップ～青森で就活～」について 　　３．その他

情報交換会終了後、『「地域の人事部」でなにができるか、なにをするか』と題して、NPO法人プラットフォームあおもり理事長による講演を実施、その中で青森創生人財育成・定着推進協議会への要望が示され、引き続き、学生の県内定着に関して活発な質疑応答が行われた。

③学生の地元定着に向けた取組

ⅰ）ホスピタルカフェ

本取組は、県外流出が著しい看護・医療系の学生の県内定着が大きな課題となっている青森県の現状を踏まえ、県内病院の看護師等の若手スタッフと学生が交流し、学生が県内病院や就職後の働き方等を知ることを出発点に、インターンシップや就職に繋げていくことを目的として実施。

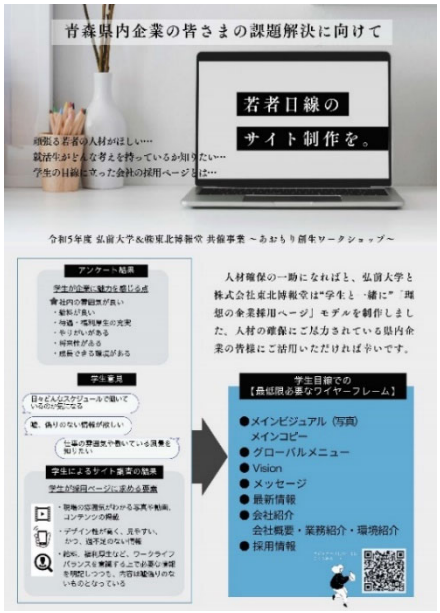
令和５年度は、「ホスピタルカフェ2023」と題して令和６年２月に開催し、学生５人と本学医学部附属病院の若手看護師が交流した。

（URL）https://chiiki.hirosaki-u.ac.jp/project/hospital-cafe/

ⅱ）あおもり創生ワークショップ

本取組は、学生の就活支援や県内企業の採用力向上に資するため、「人財の受け皿となる県内企業が就活学生に向けて適切な情報を発信しているか」を中心テーマに、県内企業の情報発信や学生の企業情報取得の実情を把握し、学生の目を引く企業情報発信のモデルケースを制作することを目的として実施。

令和５年９月から令和６年３月までの間、(株)東北博報堂青森支社の主導のもと、弘前大学を含む県内４大学から学生６人が参加、計３回のワークショップをオンラインで実施し、就活・企業情報に関するアンケートの作成・実施、実際の企業ホームページの調査・評価、ディスカッションにより、学生が求める理想のリクルートホームページのフレームワーク及びチェックリスト案を作成した。



（URL）https://chiiki.hirosaki-u.ac.jp/project/ideal-recruitment/

ⅲ）あおもり創生☆News（ニュースレター）の発信

青森創生人財育成・定着推進協議会を構成する県内16高等教育機関の担当者間で、各大学の地元定着に向けた取組や、協議会の様子などを共有することを目的として、令和３年５月に「あおもり創生☆News」と称したニュースレターの配信をスタート。これまで２ヶ月に１回程度の頻度で配信しており、令和５年度はNo.10～No.12を配信した。

また、令和５年度から、各ブロック構成校（青森中央学院大学、弘前大学、弘前学院大学、八戸工業高等専門学校、八戸工業大学、青森県立保健大学）に原稿執筆を依頼。No.12からは、読みやすさ、わかりやすさを重視したスタイルに一新した。ニュースレターの内容は弘前大学地域創生本部ホームページでも公開している。

（URL）https://chiiki.hirosaki-u.ac.jp/others/ended-initiatives/newsletter/

ⅳ）起業支援事業の実施

学生等の県内における起業支援事業として、ホップ・ステップ・ジャンプの３段階による教育プログラムのうち、弘前大学地域創生本部において「ジャンプ」にあたる事業を実施した。ホップとしては、教養教育科目で初年次学生を対象に、アイデア出しに関する様々な手法をワークショップ形式で学習する「発想筋を120%にアップ」を、ステップとしては、弘前大学人文社会科学部で高年次学生を対象に、実務家の指導のもと、地域企業から提示された経営課題に対して企画提案を考える「事業計画演習」及び「ビジネス戦略演習」を実施している。地域創生本部ではジャンプの段階の事業として、将来地域で活躍したい社会人や学生を対象に、「弘大じょっぱり起業家塾（基礎・実践コース）」を６月から12月にかけて講義と演習を計９回実施した。

（２）青森版地域連携プラットフォーム設立に向けた取組

本プラットフォームの構築については、本学の第４期中期計画において中期目標を達成するための具体的な計画として記載している事項。令和元年度まで実施していたCOC+事業の取組を継続して実施していくため、県内16高等教育機関による「青森創生人財育成・定着推進協議会」を令和２年度に設立し、地域の課題を解決できる人材の育成や、学生の地元定着を目指した取組を推進してきた。

しかし、これら課題解決のため、自治体や経済団体等を含めた新たな組織への移行が必要となったため、令和５年度、本学理事（社会連携担当）のもと、新たな組織の在り方や方向性等について検討し、青森県及び関係団体と協議・調整を進めた結果、青森版地域連携プラットフ

ォームである「あおもり人材育成・県内定着促進協議会」が令和６年度に青森県により設立されることが決定した。

設立後は、県内の大学・自治体・産業界の密接な連携のもと、地域の課題を解決できる人材の育成や学生の地元定着の促進を目指した取組をより一層推進していく。

（３）青森県内自治体等との包括連携協定の締結

複雑化する地域課題の解決やイノベーション創出を大学・自治体・産業界が一体となって実現していくことを目指して、弘前大学は、県内自治体や金融機関等と包括連携協定を締結し、地域連携体制の一層の充実を図っている。

令和５年度は、令和５年４月に五戸町、５月に今別町、12月に大鰐町、令和６年１月に鶴田町と包括連携協定を締結した。これにより、包括連携協定締結数は累計42件となった。このうち、県内自治体との包括連携協定について、令和５年度は２件の協定締結を目標としていたところ、目標を上回る４件の協定締結となった（詳細は以下①～④を参照）。これにより、県内自治体との包括連携協定締結数は累計23件となった。

①五戸町と包括連携協定を締結

令和５年４月14日、五戸町との包括的な連携協定を締結した。県内自治体との包括連携協定は20件目。協定締結式は五戸町役場にて執り行われ、五戸町からは若宮町長ら４人、弘前大学からは福田学長ら４人が出席した。

本協定を契機として、具体的な連携事業を行う。その一例として、「五戸町所有の歴史資料等調査研究」では、旧圓子家（まるこけ）等の古文書調査に取り組むこととしている。

（URL）https://chiiki.hirosaki-u.ac.jp/202304-9256/

②今別町と包括連携協定を締結

令和５年５月11日、今別町との包括的な連携協定を締結した。県内自治体との包括連携協定は21件目。協定締結式は今別町役場にて執り行われ、今別町からは阿部町長ら６人、弘前大学からは福田学長ら７人が出席した。

本協定を契機として、具体的な連携事業を行う。その一例として、「いまべつ牛のブランド化に関する調査研究」では、畜産農家及び農業団体、流通業者等を対象とした訪問面接調査又はアンケート調査、中小規模牛肉産地の先進事例における産地自治体・農業団体を対象としたブランド管理・運営に係る訪問面接調査を行うこととしている。

（URL）https://chiiki.hirosaki-u.ac.jp/202305-9467/

③大鰐町と包括連携協定を締結

令和５年12月15日、大鰐町との包括的な連携協定を締結した。県内自治体との包括連携協定は22件目。協定締結式は大鰐町役場にて執り行われ、大鰐町からは山田町長ら８人、弘前大学からは福田学長ら13人が出席した。

協定締結式に併せて、大鰐町からは、これまで大鰐町と弘前大学の学生が協働し構築した「大鰐町公式LINE（通称：わにLINE）」の公開式が開催され、構築に携わった学生から「町の良さが探しやすくなるような町公式LINEを構築した」旨の報告がなされた。

（URL）https://chiiki.hirosaki-u.ac.jp/202312-11013/

④鶴田町と包括連携協定を締結

令和６年１月26日、鶴田町との包括的な連携協定を締結した。県内自治体との包括連携協定は23件目。協定締結式は鶴田町役場にて執り行われ、鶴田町からは相川町長ら３人、弘前大学からは福田学長ら３人が出席した。

協定締結式に併せて、鶴田町からは、弘前大学と鶴田町が共同で開催してきた「放課後児童支援員等研修」について、「個人のスキルアップはもとより、学童保育の運営や指導方法についても全体的な向上が図られた」との成果報告がなされた。

（URL）https://chiiki.hirosaki-u.ac.jp/202402-11299/

（４）青森県内自治体等との連携調査研究事業

包括連携協定を締結した県内自治体等との特色ある連携事業として、本学が有する研究シーズを活用して各自治体等が直面している地域課題を解決することを目的とした「連携調査研究事業」を平成28年度から展開している。

本事業の件数は、事業をスタートさせた平成28年度の４件から、令和５年度は25件と６倍強の水準に増加している。これまでの成果として、平川市との連携事業では市所蔵文化財の整理・データベース化及び適切な保管や展示方法を本学の知見を活用して進め、平川市郷土資料館のリニューアルオープンにつなげたこと、また、田子町では、地元産品のニンニクについてDNA情報を用いた品種識別方法の特許出願を行ったことなど、地域課題の解決に向けた各自治体の取組に本学が大きく貢献している。

令和５年度　連携調査研究事業一覧

No.	市町村等	事業名・事業概要	担当教員
1	鰺ヶ沢町	「鰺ヶ沢町“にぎわい”創出プロジェクト」に関する調査研究	教育学部　特任教授　北原　啓司 地域社会研究科　准教授　土井　良浩
2	鰺ヶ沢町	「鰺ヶ沢町“漁師町魅力発見”プロジェクト」に関する調査研究	教育学部　特任教授　北原　啓司 地域社会研究科　准教授　土井　良浩
3	鰺ヶ沢町	「浸水被害を受けた舞戸正八幡宮蔵史資料」に関する保存科学的研究	人文社会科学部　准教授　片岡　太郎
4	平川市	市有財産の利活用に関する調査研究	地域社会研究科　准教授　土井　良浩 教育学部　特任教授　北原　啓司
5	田子町	田子町特産ニンニクの低環境負荷型栽培法の開発	農学生命科学部　准教授　高田　晃

No.	市町村等	事業名・事業概要	担当教員
6	田子町	田子町の第１次産業の担い手と労働力確保に向けた受援力向上対策	農学生命科学部　助教　　高野　涼
7	田子町	四川キュウリの栽培試験	農学生命科学部　教授　　前田　智雄
8	南部町	ジュノハートのマーケティング戦略の構築に関する調査研究	農学生命科学部　教授　　石塚　哉史
9	南部町	SNSの試験的運用を通じた南部町の認知度向上に関する調査研究	人文社会科学部　准教授　大倉　邦夫
10	蓬田村	高収益野菜（玉ねぎ等）の栽培調査研究	農学生命科学部　教授　　前田　智雄
11	東通村	東通村農業施策調査研究事業	農学生命科学部　助教　　吉仲　怜
12	東通村	尻屋地域活性化調査研究事業	地域社会研究科　教授　　内山　大史 同　　教授　佐々木純一郎
13	階上町	階上早生そばの地域ブランド推進事業	農学生命科学部　教授　　石塚　哉史 同　　教授　　泉谷　真実 同　　准教授　　前多　隼人
14	三戸町	青森県三戸町における中長期的な気候変動と作物の育成	農学生命科学部　教授　　伊藤　大雄 理工学研究科　准教授　　石田　祐宣
15	黒石市	IoTシステムによる礫耕栽培メロンの栽培環境・生育状態の可視化	農学生命科学部　教授　　張　樹鬼
16	黒石市	産学官連携新家畜導入研究	農学生命科学部　教授　　松崎　正敏
17	黒石市	黒石市内におけるりんご関連産品販売状況の把握と可視化に関する調査研究	人文社会科学部　助教　　松井　歩 地域創生本部　助教　　辻本　侑生
18	中泊町	宮越家資料調査研究	人文社会科学部　准教授　原　克昭 同　　助教　佐々木あすか 同　　助教　　中野　顕正 同　　非常勤講師　尾崎名津子 同　　客員研究員　植木　久行
19	藤崎町	堰神社関係資料解析研究	人文社会科学部　准教授　原　克昭
20	青森県 信用保証協会	地域経済の活性化に向けた創業・起業支援の在り方について	人文社会科学部　助教　　林　彦櫻
21	七戸町	七戸町特産作物開発のための再エネ活用調査研究	地域戦略研究所　教授　　本田　明弘 同　　教授　　伊高　健治 同　　准教授　久保田　健 同　　助教　　若狭　幸
22	七戸町	史跡二ッ森貝塚出土資料の研究	人文社会科学部　教授　　上條　信彦
23	五戸町	五戸町有古文書調査	人文社会科学部　助教　　古川　祐貴
24	今別町	いまべつ牛のブランド化に関する調査研究	農学生命科学部　教授　　石塚　哉史 同　　教授　　松崎　正敏
25	深浦町	深浦町旧温泉施設の利活用についての調査研究	地域戦略研究所　准教授　若狭　幸

（５）青森県内自治体首長及び企業経営者等を講師とした講演会の開催

弘前大学の幹部職員が、県内自治体や企業等の地域を志向した事業展開や、地方企業としての経営ノウハウに対する見識を深め、大学の地域活性化に向けた取組をさらに推進していくことを目的として、県内自治体首長や企業経営者等を講師とした講演会を開催している。

①青森県知事による講演会

令和６年１月16日、弘前大学創立50周年記念会館みちのくホールにおいて、宮下　宗一郎　青森県知事を講師とする講演会を開催した。

宮下知事からは、「青森県基本計画『青森新時代』への架け橋」と題して、青森県基本計画の基本理念「AX（Aomori Transfomation）～青森大変革～」や、「しごと・健康・こども・環境・交流・地域社会・社会資本」の７つの政策テーマに沿って2040年のめざす姿「若者が、未来を自由に描き、実現できる社会」の具体像と政策・施策について説明があり、将来への明るい兆しと立ち向かうべき課題の両方を理解しながら、「挑戦・対話・DX」を基盤に「青森新時代」を実現していきたいとの熱い想いが語られた。また、県民に参画してもらえるような行政にするため、伝わるような情報発信をしていきたいこと等も述べられた。

講演会には、会場・オンライン合わせて480名が参加し、福田学長をはじめ、本学学生・職員が耳を傾けた。

（URL）https://chiiki.hirosaki-u.ac.jp/202401-11256/

講演する宮下知事

会場には多くの来場者

（６）地方創生ネットワーク会議

弘前大学と包括連携協定を締結している青森県内の自治体や金融機関、経済団体等が連携して地方創生を推進することを目的として、「弘前大学地方創生ネットワーク会議」を開催し、連携機関間の地方創生に関する課題共有及び課題解決に向けての意見交換を実施している。

令和５年度は「若者の青森県定着」をテーマとして、対面形式とオンラインのハイブリッド形式により２回実施、年間延べ参加者数は173人に達した。いずれの回も、外部講師による情報提供やパネルディスカッションを通じて、青森県内の就職の現状や課題、青森県の産業の情報発信やイメージ改善の必要性などについて活発な意見交換がなされた。

（URL）https://chiiki.hirosaki-u.ac.jp/cooperation/cooperation03/

令和５年度　地方創生ネットワーク会議（全２回）

実施日	内　容	参加者
10月24日	テーマ：2050年の青森県を担う仕事づくり・人づくり～若者の青森県定着を目指して～ ［基調講演］「若者人材の獲得・育成・定着・戦力化」 講　師　NPO法人プラットフォームあおもり　理事長　米田　大吉 ［パネルディスカッション］ モデレーター　弘前大学副理事・人文社会科学部教授　森　樹男 パネリスト　NPO法人プラットフォームあおもり　理事長　米田　大吉 (株)池田介護研究所　代表取締役　池田　右文 (株)ORANDO PLUS　代表取締役　石山　紗希 (株)青森銀行ビジネスパートナー部ビジネス企画課 (R5連携推進員)　工藤　華子 (株)みちのく銀行地域創生部（R5連携推進員）　三浦　賢人 講演する米田氏 パネルディスカッションの様子	90人
３月13日	テーマ：青森での仕事・生活を考える～若者の青森県定着を目指して～ ［話題提供］ 講　師　(株)東北博報堂青森支社　支社長代理 兼　ビジネスデザイン部長　安保　隆史 ［パネルディスカッション］ ・モデレーター　弘前大学副理事・人文社会科学部教授　森　樹男 ・パネリスト　(株)コンシス　クリエイティブ事業部　太田　真季 弘前航空電子(株)　生産管理部　千葉　桐生 (株)東北博報堂青森支社　ビジネスデザイン部　清藤　範子 紅屋商事(株)カブセンター弘前支店　青果部門チーフ　太田　真帆 話題提供する安保氏 パネルディスカッションの様子	83人

（７）大学コンソーシアム学都ひろさき

弘前市内に設置されている６大学（弘前大学、弘前学院大学、弘前医療福祉大学、東北女子大学、東北女子短期大学、放送大学青森学習センター）が協力・連携して、高等教育機関が有する教育・学術研究機能の充実を図り、その成果を地域社会に還元することにより教育・文化の向上や地域振興に貢献し、併せて学園都市としての弘前市の更なる向上に

寄与することを目的として、平成19年度に「学園都市ひろさき高等教育機関コンソーシアム」が設立された。

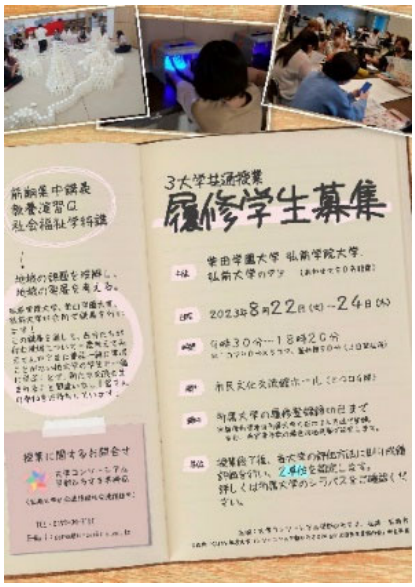
平成29年度に設立10周年を迎え、組織名称を「大学コンソーシアム学都ひろさき」に改称。また、令和３年度に東北女子大学と東北女子短期大学が統合し「柴田学園大学」となったことにより、現在の構成機関は５大学（弘前大学、弘前学院大学、弘前医療福祉大学、柴田学園大学、放送大学青森学習センター）となっている。

コンソーシアムにおける具体的な取組として、「３大学共通授業」「学生地域活動支援事業」「各大学公開講座等助成事業」等を実施している。

①３大学共通授業

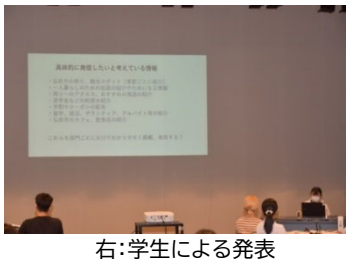
「地域の課題を理解し、地域の発展を考える」をテーマとして、地域の課題を具体的に理解しその解決について自ら考えることができる人材を育成することを目的として、オムニバス形式で開講している。

本共通授業は平成25年度に開講し、令和５年度で11年目。平成28年度からは、弘前学院大学、柴田学園大学、弘前大学の３大学において単位として認定している。



令和５年度　共通授業　（会場：ヒロロ４階　市民文化交流館ホール（弘前市））

実施日	内　容	受講者
８月22日	テーマ：学校と地域社会が連携した健康づくりを考える ～弘前市の児童生徒の健康診断結果と健康課題から～ ［概要］児童生徒の健康診断を体験し、学校の健康教育取組事例を知ることで、自身を含めた弘前市民の健康課題に興味・関心を高める。子ども時代から始める健康教育・健康づくりの取組について、大学生として主体的に考える機会を設ける。 ［担当教員］弘前大学教育学部　准教授　新谷　ますみ ［協力教職員等］弘前大学人文社会科学部　教授　森　樹男 健康診断の実習体験 会場の様子	53人

実施日	内　容	受講者
８月23日	テーマ：地域の健康課題と食生活 ［概要］地域の健康課題と食生活について学ぶ。また、受講者自らの食生活について考える機会を設けて、改善するために必要なことを考える。最後に、グループでの活動のまとめとして、地域の健康作りにおける「あったらいいな」と思うサービスについて考えて発表する。 ［担当教員］柴田学園大学生活創生学部　教授　前田　朝美 ［ゲストスピーカー］弘前市企画部企画課　参事　櫻庭　智之 ［協力教職員等］弘前大学人文社会科学部　教授　　森　樹男 柴田学園大学生活創生学部　助手　齋藤　望 左:グループワークの様子 右:食材の塩分濃度測定	53人
８月24日	テーマ：地域の情報発信について ［概要］地域の情報発信をベースにして、実際に発信されている情報やその手段などについて学び、意識的に考え、工夫して情報発信するということを考える。そして情報発信に対する理解を深めるとともに、言語使用について考える力を身につけるための機会を設ける。 ［担当教員］弘前学院大学文学部　講師　齋藤　章吾 ［ゲストスピーカー］弘前市広聴広報課　太田　耕介 ［協力教職員等］弘前大学人文社会科学部　教授　森　樹男 左:グループワークの様子  右:学生による発表	52人

②学生地域活動支援事業

学生が企画立案したまちづくり、地域づくりの活動に係る経費の一部を支援する公募型の事業。地域課題の解決や地域の活性化につながる学生の活動を支援し、学生による魅力あるまちづくりの推進を図ること、また、地域活動を通じて、学生が地域の一員としての社会的力量を形成することを目的として実施。

事業公募要項の概要

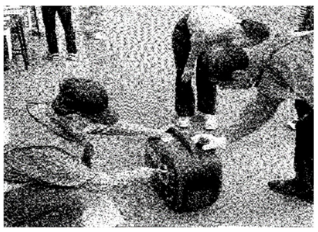
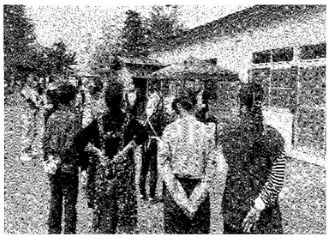
○応募できる団体
学生で構成される団体(ゼミ、研究室、課外活動団体等)で、次の要件の全てに該当するもの
・学生の活動を教員が実質的に指導していること
・構成員が概ね５人以上であること
・コンソーシアム構成大学の学生で組織された団体であること

○対象事業
弘前市の地域活性化や地域課題の解決を目的に実施する事業で、次の要件全てに該当するもの
・弘前市内で実施される事業であること
・弘前市民を対象にした事業であること

○補助金額
・単一の団体が事業を行う場合　　：上限　100,000円
・異なる大学の団体が連携して事業を行う場合：上限　200,000円

○事業審査及び審査基準
応募書類及び申請団体へのヒアリング等を実施し、次の10項目で審査し、決定する。
・適格性　・効果性　・適切性　・自主性　・実現性　・公益性　・地域性
・費用妥当性　・将来性　・独創性

令和５年度　学生地域活動支援事業　採択事業（６件）

採択団体	事業名称/事業実施の様子
地域活性化サークル （弘前学院大学）	大学キャンパスを使用した稔町町内会との合同イベントの開催
弘大囃子組 （弘前大学）	ねぷた囃子で弘前を盛り上げよう！
To save lives （弘前大学）	釜石市出身の大学生が提案する防災教育  
弘前医療福祉大学救急救命研究会 （弘前医療福祉大学短期大学部）	弘前市内の小学生親子を対象とした防災救急教室

採択団体	事業名称/事業実施の様子
Waku waku club （弘前医療福祉大学）	小比内健康生き生きプロジェクト～つなげよう！健康リレー～
ヒロガクインクルージョンネットワーク （弘前学院大学）	多世代交流を通して家でも職場でもないもう一つの「居場所」を創ろう～縁（えん）でね。「わ」と「な」が繋がる「ヒロイン」だはんで～

③各大学公開講座等助成事業

各大学の特色を活かしながら、蓄積する知を広く弘前市民に発信・還元して、本コンソーシアム及び大学を身近な存在として感じてもらうことを目的として、構成機関が行う公開講座等事業の実施を助成している。

令和５年度　各大学公開講座等助成事業（３件）

実施日	実施大学	会　場	公開講座名	受講者
８月26日	放送大学	弘前大学創立50周年記念会館みちのくホール	放送大学青森学習センター開設30周年記念公開講演会 「芸術・日本・ヨーロッパ」	68人
12月８日	柴田学園大学短期大学部	柴田学園大学短期大学部	つまみ細工をしてみませんか ～クリスマスリースを作りましょう～	20人
２月23日	弘前医療福祉大学短期大学部	土手町コミュニケーションプラザ	青森県産食材を使った料理作品展	107人

④学生団体シンポジウム

弘前市民に対して、学生の活動を広く公開すること、また、大学の枠を超えた学生同士の交流の場をつくり、学生活動の更なる活性化を図ることを目的として、例年、学生団体シンポジウムを開催している。

令和５年度は、令和６年２月25日に土手町コミュニティパーク多目的ホール（弘前市）で開催し、会場には約50人の市民、学生、関係者が参加、LIVE配信では約150名が聴講した。

⑤ひろさき移動キャンパス

「大学コンソーシアム学都ひろさき」の魅力を県外にアピールして、弘前で学びたいという学生の増加、他地域のコンソーシアムとの交流を深めて本コンソーシアムの充実を図ることを目的として、北海道函館市のキャンパス・コンソーシアム函館が主催する「HAKODATEアカデミックリンク（令和５年11月３日開催）」に、本コンソーシアム学生委員会「いしてまい」がブース展示を行い、「飲食店企画」「衣類回収ボックス設置」「伝統文化企画」など、地域で取り組んでいる活動を紹介した。

３．地域創生人材育成部門事業

（１）弘前大学地域創生本部連携推進員

青森県内自治体等との連携体制をより一層強化するとともに、地域の人材育成に寄与することを目的として、弘前大学と包括連携協定を締結している機関の職員を「連携推進員」として受け入れている。

連携推進員は、本学の地域連携に関する業務に関わりながら、大学教員との関係を深め、具体的な地域課題解決等の事案を通じて、地域社会との連携を活性化させることを目的として活動する。

令和５年度連携推進員受入式

（URL）https://chiiki.hirosaki-u.ac.jp/training/training04/

①令和５年度連携推進員名簿（19機関19人）

所属機関・部署	氏　名
鰺ヶ沢町　政策推進課	工藤　啓晃
弘前市　企画部広報広聴課	工藤　理香
㈱青森銀行　ビジネスパートナー部ビジネス企画課	工藤　華子
㈱みちのく銀行　地域創生部	三浦　賢人
西目屋村　産業課	平田　凌
弘前商工会議所　地域・産業振興課	高橋　優
深浦町　総合戦略課	間山　聖也
藤崎町　農政課	柴田　直樹
平川市　市民課	工藤　将人
板柳町　産業振興課	松山　亜由武
青い森信用金庫　西地区本部	山田　遼介
青森県信用組合	川村　香織
㈱商工組合中央金庫　青森支店営業課	丸林　大悟
青森県信用保証協会　企業支援部保証業務課	福島　朋也

所属機関・部署		氏　名
農林中央金庫	青森支店営業第二班	工藤　健斗
黒石市	企画財政部企画課	木村　祐紀
中泊町	総合戦略課	吉田　拓
七戸町	企画調整課	鳥谷部　啓徳
今別町	総合企画課	坂本　柊太

②令和５年度連携推進員定例ミーティングの実施状況

実施日	内　容
４月21日	○令和５年度受入式（連携推進員へ受入通知書の交付） ○第１回定例ミーティング ・講義及びワーク：本学の地域連携と連携推進員制度の趣旨、年間の流れ、自己紹介（現在の仕事内容、関心等） ・講師：弘前大学地域創生本部　助教　辻本　侑生
５月18日	○第２回定例ミーティング ・講義及びワーク：2050年の青森県に向けた人材像を考えるには（昨年の振り返りと今年度の活動方針の確認） ・講師：弘前大学地域創生本部　助教　辻本　侑生
６月15日	○第３回定例ミーティング ・講義及びワーク：大学地域連携の現状と課題 ・講師：弘前大学地域創生本部　助教　辻本　侑生
７月20日	○第４回定例ミーティング ・講義及びワーク：多様性を理解し、活かすことのできる人材の育成に必要なものは何か ・講師：弘前大学男女共同参画推進室　助教　山下　梓
８月17日	○第５回定例ミーティング ・講義及びワーク：異なる組織をつなぐコーディネート能力とはどのようなものか ・講師：弘前大学研究・イノベーション推進機構　工藤　重光、山科　則之
９月21日	○第６回定例ミーティング ・講義及びワーク：ワークショップの参加者から自由に多様な意見を引き出すために必要なことは何か ・講師：弘前大学大学院地域社会研究科　准教授　土井　良浩
10月19日	○第７回定例ミーティング ・講義：不確かな現在と将来を見据えるデータ分析能力とはどのようなものか ・講師：弘前大学大学院医学研究科　助教　沢田　かほり
11月10日	○第８回定例ミーティング（学外実地研修） ・学外実地研修（詳細は下記を参照）
12月21日	○第９回定例ミーティング（学外実地研修） ・学外実地研修（詳細は下記を参照）
(R6) １月18日	○第10回定例ミーティング ・講義：本学の地域共創科学研究科について ・講師：弘前大学大学院地域共創科学研究科長　片岡　俊一
２月15日	○第11回定例ミーティング ・ワーク：報告書案及び成果報告の地域への発信方法について議論 ・講師：弘前大学地域創生本部　助教　辻本　侑生
３月21日	○第12回定例ミーティング ・クロージング：１年間の活動を振り返るとともに、成果報告に向けた準備等 ・講師：弘前大学地域創生本部　助教　辻本　侑生

実施日	内　容
４月19日	○令和５年度成果報告会 ・活動成果報告 ・各機関個別の連携の成果報告

③令和５年度連携推進員学外実地研修

ⅰ）学外実地研修（１回目）：岩手大学（盛岡市）

令和５年11月10日、連携推進員第８回定例ミーティングは「学外実地研修」として岩手大学上田キャンパス（盛岡市）で実施した。本研修には６人の連携推進員等と本学教員等の計９人が参加、岩手県における大学地域連携について学んだ上で、今後の連携推進員事業に活かし得る情報を収集することを目指した。

最初に、岩手大学研究支援・産学連携センター　今井　潤教授から、岩手大学における地域連携の取り組みについてご説明いただいた後、岩手県内の自治体（盛岡市、釜石市、奥州市）から今年度（令和５年度）岩手大学に派遣されている共同研究員から、大学において具体的にどのようなコーディネート活動を進めているか、事例を交えて紹介いただいた。本学の連携推進員からは、企業から大学への相談対応の手法や、学生の県内定着との関わりなど、様々な観点から質問するなど、活発な意見交換が行われた。

講義と事例紹介の後は、岩手大学キャンパス内に盛岡市が設置し大学発ベンチャー企業等を支援している「盛岡市産学官連携研究センター」の施設を見学した。

ⅱ）学外実地研修（２回目）：板柳町

令和５年12月21日、連携推進員第９回定例ミーティングは前回に引き続き「学外実地研修」を実施した。今回は板柳町役場を会場として、「連携推進員全員で地域課題を考えてみる」をテーマとして実施した。

ミーティングでは、板柳町においてまちづくり上の地域課題となっている「アップルモール（再整備された遊歩道）」の活用手法について、連携推進員全員で現場をフィールドワークし、アイデアを出し合って考えることを目指した。

まず、今年度（令和５年度）板柳町から派遣されている松山　亜由武　連携推進員から、アップルモールの概要と課題について説明があった。その後、参加者全員でアップルモールを実際にフィールドワークし、ミーティング会場に戻ってからフィールドワークで気づいた内容を「KJ法」を用いて整理した。

グループワークを通して、既にアップルモールに設置されている設備や展示物、周辺環境（川・住宅・雪等）との調和・相乗効果を図る方策や、アップルモールを有効活用するために考えられるイベントのアイデア、イベントを実施する

上での費用対効果、住民を「場」に巻き込み消費を生み出すための仕組みなど、様々な観点から議論がなされた。

④令和５年度連携推進員成果報告会

令和６年４月19日、弘前大学創立50周年記念会館岩木ホールにおいて、令和５年度連携推進員成果報告会を開催した。成果報告会には、弘前大学教職員、自治体・金融機関職員など約40人が参加した。

まず、令和５年度連携推進員定例ミーティングの活動報告として、福嶋　朋也　連携推進員（青森県信用保証協会）から「学外研修（岩手大学視察）」について、松山　亜由武　連携推進員（板柳町）から「板柳町でのフィールドワーク」についてそれぞれ発表され、続いて、各機関個別の連携の報告として、工藤　健斗　連携推進員（農林中央金庫）から「弘前大学の授業への出講」について、工藤　華子　連携推進員（青森銀行）から「令和５年度第１回地方創生ネットワーク会議への登壇」について、間山　聖也　連携推進員（深浦町）から「空き家をテーマとした大学地域連携プロジェクトの創出」についてそれぞれ発表された。

（２）弘大じょっぱり起業家塾

地域活性化に向けた人材育成の取り組みの一環として、学生や研究者、一般市民等を対象に、起業家による講演や事業計画の策定・演習等を通して、柔軟な発想力や高い企画提案力を身につけることを狙いとした教育プログラム「弘大じょっぱり起業家塾」を開講している。

2023（令和５）年度は「食」と「観光」をテーマに、各々のビジネスプランを掲げる28人が受講（基礎コース４回、実践コース５回の計９回）、このうち、修了要件を満たした６人を地域で活躍できる起業家マインドを持つ「じょっぱり起業家」として認定した。このうちの１人は既に起業している。

（URL）https://chiiki.hirosaki-u.ac.jp/training/training02/

①プログラム内容

ｉ）基礎コース　地域ビジネス論（座学）＋先進事例研究（e-learning）

実施日	講義内容等	講　師
６月22日	開講式 基調講演「自分らしく起業する」	講師：USAGI SG pte ltd　Co-founder 重野　由佳

実施日	講義内容等	講　師
７月６日	第１回講義 ・起業のための基礎 ・ディスカッション	講師：㈱日本政策金融公庫弘前支店長 古屋　洋樹
７月20日	第２回講義　起業事例 ・自営業レベルで始める小さな起業 ・弘前忍者屋敷の創業と営業 ・ディスカッション	講師：sekka代表　土屋　牧子 講師：弘前忍者屋敷オーナー　佐藤　光麿
８月31日	第３回講義 ・コンセプトの作り方 ・ディスカッション	講師：わかる事務所　代表　玉樹　真一郎
９月14日	第４回講義 ・マーケティング志向の事業計画 ・ディスカッション	講師：㈱ノイエ　代表取締役　熊谷　淳一

令和5年度開講式

受講の様子

受講の様子

ⅱ）実践コース　食・観光ビジネス演習

実施日	講義内容等	講　師
10月５日	実践コース　イントロダクション ①観光ビジネス概論【講義】 ②食品ビジネス概論【講義】	弘前大学大学院地域共創科学研究科 教授　森　樹男 教授　石塚　哉史
10月19日	第１回演習 アイデアの創出とコンセプトづくり	弘前大学大学院地域共創科学研究科 教授　森　樹男
10月26日	第２回演習 市場ポジションの確認	弘前大学大学院地域共創科学研究科 教授　石塚　哉史
11月16日	第３回演習 ターゲット顧客の設定	弘前大学大学院地域共創科学研究科 教授　石塚　哉史
11月30日	第４回演習 事業計画のブラッシュアップ	㈱日本政策金融公庫
12月21日	成果発表会 修了式	

②成果発表会の開催

令和５年12月21日、弘前大学創立50周年記念会館において、弘大じょっぱり起業家塾2023の成果発表会を開催した。

令和５年６月から11月にわたり基礎・実践コースを履修し、各々のビジネスプランを練り上げてきた受講生のうち事前審査を通過した４人が、これまで学習してきた成果をもとに作成したビジネスプランを発表した。審査は「理念・意義・目標」「優位性」「実現可能性」「市場性・収益性」の４つの観点から行われ、受講生は限られた時間の

なかで、プラッシュアップを重ねた自らのビジネスプランを熱心にアピール、審査員からはプランの実現に向けた多くの意見やアドバイスが相次いだ。

審査の結果、ローカルフードとホテル利用者を繋ぐフードデリバリーサービスを提案した弘前大学医学部医学科４年　佐々木　慎一朗　さんのビジネスプラン「UMASHIーローカルフードデリバリーサービスー」と、リンゴや桜の枝から作った和紙を活用した事業計画を提案した弘前大学研究・イノベーション推進機構　山科　則之　さんのビジネスプラン「りんご/さくら和紙　創業事業計画」がそれぞれ優秀賞を受賞した。

（３）地域創生本部主催の生涯学習事業

弘前大学は『地域に開かれた大学』を目指し、ライフステージや地域課題の克服を目指した学習機会提供の一助となるべく、青森県内各地で各種事業（公開講座、ワークショップ等）を開催している。

令和５年度は、青森県内自治体との共催により、以下の事業を実施した。

①弘前市公民館関係職員研修会（弘前市教育委員会との共催）

現代社会においては、人口減少に伴う少子高齢化、人と人との関係性の希薄化などの現代的課題がますますクローズアップされており、必然的に社会教育、公民館もこの状況に対応することが求められている。大きく変革し続ける社会における多種多様な学習ニーズ、現代的課題等に的確に対応するため、公民館関係職員の資質向上を図る。

実施日	内　容	受講者
５月26日	【第１回】社会教育と公民館の基本を確認しよう 会　場：弘前市中央公民館相馬館　長慶閣（弘前市） 講　師：千葉大学　名誉教授　長澤　成次 コーディネーター：弘前大学教育学部　准教授　越村　康英 弘前市公民館活動等活性化アドバイザー　野口　拓郎 	84人
10月６日	【第２回】地域事情に合わせて実際にやってみよう！～中間報告会～ 会　場：弘前市中央公民館相馬館　長慶閣（弘前市） 講　師：弘前大学教育学部　准教授　越村　康英 弘前市公民館活動等活性化アドバイザー　野口　拓郎	83人

実施日	内　容	受講者
１月25日	【第３回】地域事情に合わせて実際にやってみよう！～報告会～ 会　場：弘前市 中央公民館相馬館　長慶閣（弘前市） 講　師：帝京大学教育学部　准教授　生島　美和 コーディネーター：弘前大学教育学部　准教授　越村　康英 弘前市公民館活動等活性化アドバイザー　野口　拓郎 	83人

②放課後の子どもの居場所づくりを考える研修会（弘前市との共催）

利用児童が増加している学童保育に従事するスタッフや児童館に勤務する児童厚生員を主な対象として、子どもたちにとって居心地のよい居場所や環境について考え、学ぶ。講義や実践研修に取り組むことで、子どもの発達課題や遊びの意義、適切な関わり方について考える機会とし、学童保育に従事するスタッフの資質向上を図り、子どもたちにとって居心地のよい居場所づくりを目指す。

実施日	内　容	受講者
６月19日	【第１回】地域とつながった児童館と児童クラブ ～岩木児童センター ドラマ・ちっく・タイムの事例紹介～ 会　場：弘前市民文化交流館ホール（弘前市） 講　師：弘前市岩木地区地域おこし協力隊　太田　歩 (福)真会　岩木児童センター　館長　竹内　佐智子 同　岩木児童センター　高橋　絵理 京都市修徳児童館　館長　木戸　玲子 全体コーディネーター：岩手大学教育学部　准教授　深作　拓郎 	33人
８月22日	【第２回】講師訪問型研修　野あそび 会　場：みやぞの児童センター（弘前市） 講　師：愛媛県えひめこどもの城　児童厚生員　上木　秀美 全体コーディネーター：岩手大学教育学部　准教授　深作　拓郎	100人

実施日	内　容	受講者
９月９日	【第３回】講師訪問型研修　運動あそび 会　場：西部児童センター（弘前市） 講　師：宮城県名取市下増田児童センター　館長　渡邊　由貴 全体コーディネーター：岩手大学教育学部　准教授　深作　拓郎 	45人
10月14日	【第４回】講師訪問型研修　感覚・造形あそび 会　場：裾野なかよし会（弘前市立裾野小学校） 講　師：愛知県東郷町兵庫児童館　館長　髙阪　麻子 全体コーディネーター：岩手大学教育学部　准教授　深作　拓郎 	35人
２月13日	【第５回】児童館・児童クラブでのあそびの実践研究発表 会　場：弘前市民文化交流館ホール（弘前市） 講　評：全国児童厚生員研究協議会　会長 京都市修徳児童館　館長　木戸　玲子 宮城県名取市下増田児童センター　館長　渡邊　由貴 全体コーディネーター：岩手大学教育学部　准教授　深作　拓郎 	33人

③むつ市子どもの学び応援隊育成研修会（むつ市教育委員会との共催）

子どもたちを取り巻く環境の変化に伴い、子どもたちを見守る立場である大人たちにも、変わりゆく時代や状況に即した対応力が求められている。これまで培ったスキルのブラッシュアップと、更なる地域の教育力の向上を図る。

実施日	内　容	受講者
６月10日	【タイトル】放課後の子どもの居場所づくりのために 会　場：むつ市下北文化会館（むつ市）	21人

実施日	内　容	受講者
	講　師：岩手大学教育学部　准教授　深作　拓郎 	

④パパラボ遊び研究所（弘前市こども家庭課との共催）

育児中の父親とこれから育児を予定している男性を対象として、父親が得意な子どもとの関わり方を知り、父親・母親ともに承認欲求が満たされるようなしかけづくりを行うことで、父親が子育てを「楽しい」と感じてもらうなど、自信を持って主体的に子育てに関わる意識を啓発する。

実施日	内　容	受講者
11月23日	【テーマ】パパとからだをうごかしてあそんじゃおう！ 会　場：弘前市駅前こどもの広場（交流エリアイベントスペース） 講　師：運動あそび研究サークル　きんにく～ず　代表　前田　高幸 運動あそび研究サークル　きんにく～ず　久松　史奈 	38人

⑤鶴田町放課後児童支援員研修会（鶴田町教育委員会との共催）

鶴田町の放課後児童支援員等を対象として、子どもたちの心地よい放課後環境をどのように作り出すかを学ぶことで、各支援員等の資質向上と意識改革を図る。

実施日	内　容	受講者
４月26日	【テーマ】子どもにとって適切な児童クラブの運営と環境の在り方について 会　場：鶴田町学童保育施設サンシャインスクール（鶴田町） 講　師：弘前大学教育学部　講師　深作　拓郎 	45人
７月８日	【テーマ】児童クラブでのあそびの実践～運動あそび～ 会　場：鶴田町立鶴田小学校　体育館（鶴田町） 講　師：岩手大学教育学部　准教授　深作　拓郎 宮城県名取市下増田児童センター　館長　渡邊　由貴	58人

実施日	内　容	受講者
12月15日	【テーマ】子どもとの関係性について 会　場：鶴田町学童保育施設サンシャインスクール（鶴田町） 講　師：岩手大学教育学部　准教授　深作　拓郎 岩手県立児童館　いわて子どもの森 チーフプレーリーダー　長﨑　由紀 	45人

⑥児童館職員・放課後児童支援員等研修会（青森県社会福祉協議会との共催）

放課後児童健全育成事業に携わる関係者が、発達障害などの配慮を必要とする子どもに対して適切な対応を行うためのの方法を学習するとともに、意見・情報交換により、今後の子どもの放課後支援について考え、現場での円滑な活動に活かす。

実施日	内　容	受講者
11月７日	【テーマ】人と地域をつむぐ ― 千葉県君津市・清和地区の挑戦 会　場：青森県総合社会教育センター（青森市）とオンラインのハイブリッド形式 講　師：岩手大学教育学部　准教授　深作　拓郎 東北福祉大学総合福祉学部福祉心理学科　講師　柴田　理瑛 青森中央短期大学　非常勤講師　松浦　淳 宮城県名取市下増田児童センター　館長　渡邊　由貴 	48人

４．ボランティアセンター事業

東日本大震災によって甚大な被害を受けた地域へのボランティア活動を円滑に展開するために設立された「弘前大学人文学部ボランティアセンター」を発展的に改組し、ボランティア活動の推進及び支援を図るため、平成24年10月、

全学組織として「弘前大学ボランティアセンター」が設置された。その後、令和２年４月の組織再編により弘前大学地域創生本部に統合され、現在は「弘前大学地域創生本部ボランティアセンター」として、学生が主体となり、各種ボランティア活動を実施している。

主な活動として、災害復興支援、学習支援、除雪、サイバー防犯など、多様な地域課題解決に資する取組を行っているほか、地域からの要請により学生ボランティアの派遣や、市民向けの講座・報告会なども実施している。

（弘前大学地域創生本部ボランティアセンターURL）https://huvc.net/

（１）ボランティア登録者数、ボランティア活動参画者数

①ボランティア登録者数

所属学部等	登録者数（人）							
	１年次	２年次	３年次	４年次	５年次	６年次	その他	計
人文社会科学部	11	34	46	46	－	－	1	138
教育学部	22	22	31	37	－	－	－	112
医学部医学科	22	4	24	6	3	3	－	62
医学部保健学科	2	62	24	13	－	－	－	101
医学部心理支援学科	1	0	0	0	－	－	－	1
理工学部	15	25	27	31	－	－	－	98
農学生命科学部	15	16	15	25	－	－	－	71
その他（大学院生等）	－	－	－	－	－	－	1	1
計	88	163	167	158	3	3	2	584

②ボランティア活動参画者数

区　分	活動回数	参画者数（人）					
		教職員	学生	一般	講師等	児童	計
学外からの周知要請	1回	－	1	4	1	－	6
学外からの派遣要請	49回	－	95	92	114	215	516
野田村支援交流活動	4回	4	38	21	4	18	85
講座・報告会	3回	16	4	－	22	52	94
学習支援活動	46回	28	140	－	53	132	353
オンライン学習支援	44回	48	104	－	－	298	450
募金活動	5回	6	14	－	－	－	20
災害支援活動	2回	3	19	－	－	－	22
除雪ボランティア	1回	1	10	－	－	－	11
その他	1回	4	7	－	－	15	26
計	156回	110	432	117	194	730	1,583

（２）ボランティアセンターの活動

①野田村支援交流活動

東日本大震災によって甚大な被害を受けた岩手県九戸郡野田村へ、震災直後から支援活動を開始したことを機として、現在も継続して支援交流活動を行っており、野田村での夏祭り運営補助や学習支援事業、クリスマス会、東日本大震災追悼行事に、本学の教員・学生が参加している。

ⅰ）野田村夏祭り

令和５年７月30日、野田村新町地区コミュニティセンターで開催された「新町地区夏祭り」に、弘前市民13人、本学学生17人、本学教員１人の計31人が参加し、夏祭り会場で棒パンづくりの実施や、縁日コーナー、盆踊り大会の運営補助運営補助を行った。

夏祭り会場には、野田村のたくさんの子どもたちや親子連れが訪れ、盛り上がりを見せていた。

棒パンづくりの様子

ⅱ）野田村宿泊学習支援事業

令和５年８月11日・12日、野田村において「野田村宿泊学習支援事業」を実施し、本学学生11人、本学教員１人の計12人が参加した。

１日目は、野田村保健センター内復興展示室、野田村港、ほたてんぼうだいの他、野田村の街並みを通して、東日本大震災の被害状況や教訓、被災地の災害発生後からの歩み、現在の様子について視察を行った。２日目は「野田村プレーパーク」を実施し、野田村児童８人が参加、おわんつみあげリレーやボッチャなどのスポーツを行った後、参加者全員で野田村の食材を取り入れた食事を楽しんだ。

野田村プレーパークの様子

ⅲ）野田村クリスマス会

令和５年12月23日、野田村生涯学習センターで開催された「野田村クリスマス会」に、野田村児童11人、本学学生８人、本学教員１人の計20人が参加した。

弘前市内のストリートダンススタジオFUNKY STADIUMのインストラクターによるダンスレッスンや、本学学生との写真立てづくりが行われ、参加した野田村の児童は実際にダンスや工作にチャレンジするなど交流を図った。

写真立て作りに挑戦する児童

ⅳ）東日本大震災追悼行事

令和６年３月11日、野田村で開催された「野田村３.11ミーティング」及び「東日本大震災追悼行事」に、弘前市民８人、本学学生６人、本学教員１人の計15人が参加した。

ミーティングでは、これまでの野田村復興の経過を振り返るとともに、令和６年能登半島地震の災害支援活動の情

追悼行事会場の様子

報共有を行い、今後の展開について考えた。その後、野田村ほたてんぼうだいで開催された追悼行事に参加し、会場では黙とうが行われた。

②市民ボランティア講座・活動報告会

弘前市民や弘前大学の学生・教職員を対象として、様々なテーマによるボランティア講座を年に数回開催している。また、毎年３月にはボランティアセンターの活動を振り返り、市民の方々と来年度の活動や今後必要となる活動、地域課題について意見交換を行う活動報告会を開催している。

ⅰ）第１回市民ボランティア講座

令和５年９月21日、弘前大学人文社会科学部多目的ホールにおいて、「学習支援の輪を広げるために」をテーマとして開催し、子ども食堂の運営者や行政関係者、大学生など約30人が参加した。

前半は、認定NPO法人八王子つばめ塾　小宮　位之　理事長より「無料学習支援の必要性と可能性～八王子つばめ塾の実践をとおして～」をテーマに、家庭環境や経済状況と子どもの進学状況との関係についての基調講演が行われた。後半は、まず青森家庭少年問題研究会共同代表兼青森明の星短期大学　最上　和幸　教授から、大学生が児童へ学習支援を行う「青森サタディ☆くらぶ」の活動に関する報告、続いてよこうちキッズぷれいす　小野　康一郎　代表から、学習や遊びに共に取り組むことで児童の居場所作りを行う「よこうちキッズぷれいす」の活動に関する報告があった。最後に、李ボランティアセンター長をコーディネーターとして、講師３人によるパネルディスカッションが行われ、パネリスト・参加者双方でよりよい子どもの居場所をつくるために必要なことを真剣に考える時間となった。

ⅱ）第２回市民ボランティア講座

令和５年11月26日、弘前大学大学会館大集会室において、「避難所運営訓練」をテーマとして開催し、弘前市民・学生など計42人が参加した。

講座は３部構成で行われ、第１部のオリエンテーションでは、(一社)男女共同参画地域みらいねっと　小山内　世喜子　代表理事から、男女共同参画の視点からの避難所運営に関する説明があった。第２部では、班別に訓練を行い、実際に避難所づくりに使われるテントやパーテーション、段ボールベッド等を組み立て、避難所運営のためのスペースづくりを体験した。第３部では、設営された各スペースの見学と各班による設営の感想発表を行った。

ⅲ）弘前大学地域創生本部ボランティアセンター活動報告会

令和６年３月10日、弘前市民文化交流館ホール（弘前市）及びオンライン配信のハイブリッド形式により開催し、弘前市民・学生など計16人が参加した。報告会は、令和６

年能登半島地震に関する被害状況及び今後の支援に関する講演と、ボランティアセンター活動報告の２部構成で実施した。

第１部では、福知山公立大学地域経営学部　大門　大朗准教授より、能登半島地震被害状況や今後必要となる支援及び弘前市から出来る支援についての講演があった。第２部では、弘前大学地域創生本部ボランティアセンターの学生４名が、令和５年度の活動についてそれぞれ発表した。

③学習支援活動（あっぷる～む）

生活困窮世帯の中学生・高校生を対象として、弘前大学大学会館及び弘前市内会場において、毎週水曜日（16:45～19:00）に対面式で学習支援を実施した。各回３人程度の中学生を対象に、弘前大学地域創生本部ボランティアセンターの学生１～４人が学習支援を行った。

④オンライン学習支援（Zoomおんらin）

大学生と一緒に勉強がしてみたい小・中学生を主な対象として、Zoomを用いてオンライン上で一緒に勉強を行う「Zoomおんらin」を毎週水曜日（16:30～19:00）に実施した。各回、７人程度の小・中学生を対象に、弘前大学地域創生本部ボランティアセンターの学生１～２人が学習支援を行った。

⑤青森県警察サイバー防犯ボランティア

令和５年６月23日、弘前大学創立50周年記念会館において、「弘前大学学生に対する青森県警察サイバー防犯ボランティア委嘱状交付式」が執り行われた。

委嘱を受けた５人の学生は、任期である令和６年３月31日までの間、イベント内での青森県警察によるスマートフォン安全教室の運営補助やネット上の有害情報の通報などを通して、インターネットやSNS、スマホアプリなどの危険性や被害にあった際の対処法などの広報活動やサイバー空間の安全を守るための取組を行った。

⑥令和５年７月大雨災害支援活動

令和５年７月14日の大雨により、秋田県日本海側の多くの地域で甚大な被害が発生した。本センターは、特に被害の大きい秋田県五城目町へ、７月30日と８月９日の２回に渡って赴き、民家の中の泥出しや清掃などのボランティア活動を行った。ボランティア活動には、弘前大学地域創生本部ボランティアセンターの学生と教職員延べ22人が参加した。

⑦除雪ボランティア

平成24年度から弘前市内の歩道、通学路等の除雪ボランティア活動を行っている。

令和５年度は、積雪量、寄せ雪の状況により、活動回数は１回のみとなったが、令和６年１月28日に弘前市富田町で活動を実施し、弘前大学地域創生本部ボランティアセンターの学生と教職員11人が参加した。

⑧令和６年能登半島地震災害支援募金活動

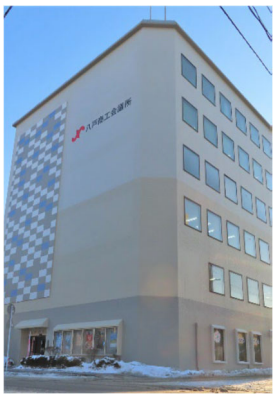
▼募金期間　令和６年１月15日～３月29日

▼募金総額　64,061円

▼募金先　　赤い羽根共同募金

Ⅲ．サテライト

１．八戸サテライト



八戸地域において、本学の分室としての機能を果たし、本学と地域社会との密接な連携を図ることを目的として、平成14年６月、八戸地域地場産業振興センター４階に「弘前大学八戸サテライト」を設置した。平成19年11月には、八戸市庁舎に隣接する八戸商工会館１階に移転している。八戸サテライトには地域連携コーディネーター２人、事務補佐員１人が常駐し、広報活動（入試情報等）や産学官連携に関する相談、公開講座等の開催など、地域における弘前大学の窓口機能を担っている。

［概要］

住　　所：八戸市堀端町２の３　八戸商工会館１階
電話番号：０１７８－４３－１６００
E-mail：hachisate@hirosaki-u.ac.jp
URL：https://chiiki.hirosaki-u.ac.jp/about/satellite/hachinohe/

［公開講座の実施］

ⅰ）主催セミナー

八戸サテライトにおいて、主催セミナー「大島理森と未来を語る」を計５回（令和５年５月20日、７月15日、９月16日、11月18日、令和６年１月20日）開催した。様々な国務大臣を歴任し、衆議院議長を務められた　大島　理森　氏を講師として、短期的な成果の顕在化や人材育成ではなく、多様な価値観、傾聴力、問題意識、突破力、人脈構築など、新たな知と行動を生み出す社会変革を担うことが出来る人材の素養について、参加者へ多角的な涵養を促すことを目的として実施した。本セミナーには、地域の高校生、大学生、社会人など延べ58人が受講した。

ⅱ）雇用対策・人材確保セミナー

令和６年２月21日、八戸プラザホテル（八戸市）において、八戸商工会議所及び八戸地区雇用対策協議会との共催により、雇用対策・人材確保セミナー「企業の採用力強化に向けて」を開催し、八戸市内の企業から78人が参加した。本学人文社会科学部　髙嶋　克史　准教授を講師として「最近の学生は企業のここを見ている」をテーマとした講演、㈱アンカリンク　安部　真之介　代表取締役を講師として「就職活動の実体験で見えたこと」をテーマとした講演がそれぞれ行われた後、本学学務部就職支援室　木村　洋　室長から「採用活動に臨むにあたって」と題して情報提供が行われ、参加者は、学生から選ばれる企業になるためのヒントを学んだ。

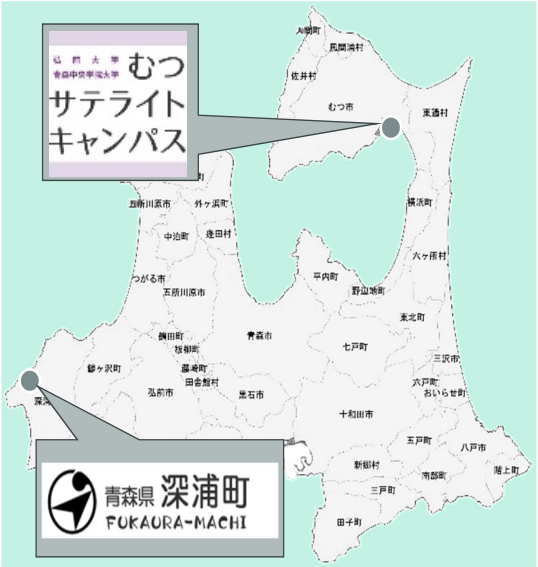
２．青森サテライト

青森地域において、本学の分室としての機能を果たし、本学と地域社会との密接な連携を図ることを目的として、令和４年10月、青森市柳川庁舎１階に「弘前大学青森サテライト」を設置した。青森サテライトには地域連携コーディネーター１人が常駐し、広報活動（入試情報等）や産学官連携に関する相談など、地域における弘前大学の窓口機能を担っている。

［概要］

住　　所：青森市柳川２－１－１　青森市柳川庁舎１階
電話番号：０１７－７６６－３５００
E-mail：aosate@hirosaki-u.ac.jp
URL：https://chiiki.hirosaki-u.ac.jp/about/satellite/aomori/

３．サテライトキャンパス



県内自治体との連携協定に基づき、自治体が事務局を担い、地域の活性化に資する事業を展開することを目的として、まち全体をキャンパスと見立てた大学固有の施設を有しないバーチャル型のサテライトキャンパスを設置している。むつ市には青森中央学院大学と共同で「むつサテライトキャンパス」を平成27年３月に開設、深浦町には「深浦エコサテライトキャンパス」を平成28年５月に開設している。

各サテライトキャンパスにおいて、公開講座を実施するとともに、「滞在型学習支援事業」として地域に滞在して現地住民と交流を図りつつ、地域の発展に取り組む教員・学生の活動費を支援している。

（URL）https://chiiki.hirosaki-u.ac.jp/about/satellite/mutsu-fukaura/

（１）むつサテライトキャンパスにおける事業

①むつサテライトキャンパス公開講座

実施日	内　容	受講者
７月28日	【食育健康講座】缶詰でも大丈夫！お魚の健康成分を食べよう 会場：蛯名川コミュニティセンター（むつ市） 講師：弘前大学農学生命科学部　准教授　前多　隼人 料理研究家　坂本　謙二	22人

実施日	内　容	受講者
８月25日	【食育健康講座】畑の肉！大豆製品を食べて健康に！ 会場：来さまい館（むつ市） 講師：弘前大学名誉教授　加藤　陽治 料理研究家　坂本　謙二	20人
８月26日	【ジオパーク講座】下北北通り西部の地形と地質 －ブラタモリのロケ地を巡る－ 会場：下北半島 講師：弘前大学大学院理工学研究科　講師　根本　直樹	16人
９月10日	【ジオパーク講座】下北半島の昆虫 会場：まさかりプラザ（むつ市） 講師：弘前大学農学生命科学部　教授　中村　剛之	15人
９月29日	【食育健康講座】きのこの栄養をしっかりとろう！ 会場：来さまい館（むつ市） 講師：弘前大学名誉教授　加藤　陽治 料理研究家　坂本　謙二	22人
10月20日	【食育健康講座】　キクラゲを食べてお腹と骨の健康に！ 会場：来さまい館（むつ市） 講師：弘前大学農学生命科学部　准教授　前多　隼人 料理研究家　坂本　謙二	22人

②滞在型学習支援事業の対象となった取組

本事業は、「むつサテライトキャンパス」において、恵まれた自然や魅力ある歴史・文化について、滞在して地域と交流しながら学び、また、地域課題へ対応し、地域社会の発展に取り組む本学教職員・学生に対し、現地における活動が円滑に行われるようサテライトキャンパスの利用及び学術活動を一体的に支援することを目的として、実施経費及び滞在時費用（宿泊費）の一部を助成するもの。

令和５年度は、７件の滞在型学習の実施経費及び延べ180人の宿泊費を助成した。

実施日	内　容	参加者
６月16日 ～６月17日	取組名　：下北観光の振興に関するフィールドワーク 担当教員：弘前大学人文社会科学部　教授　黄　孝春	教員　１人 学生　６人
８月30日 ～８月31日	取組名　：子どもの居場所「まるっと」での学習支援事業 担当教員：弘前大学地域創生本部ボランティアセンター長　李　永俊	教員　１人 学生　４人
９月14日 ～９月16日	取組名　：教育科学演習フィールドワークinむつ市 担当教員：弘前大学教育学部　准教授　越村　康英	教員　５人 学生　17人
９月20日 ～９月21日	取組名　：小学校児童を対象とした理科教育増進活動 担当教員：弘前大学教育学部　教授　長南　幸安	教員　３人 学生　５人
９月26日 ～９月27日	取組名　：下北交通とむつ市交通政策グループのヒアリングと会計スキルの向上合宿 担当教員：弘前大学人文社会科学部　教授　加藤　恵吉	教員　１人 学生　５人
９月27日 ～９月29日	取組名　：下北半島（下北ジオパーク）を対象とした野外実習 担当教員：弘前大学理工学研究科　教授　折橋　裕二	教員　４人 学生　18人
10月28日 ～10月29日	取組名　：むつ下北未来創生キャンパス祭 担当教員：弘前大学理事（社会連携担当）　橋本　恭男	教員　３人 学生　82人

※ 滞在型学習支援事業（むつ市）による補助
・実施経費に対する補助　　上限30,000円/件
・宿泊費に対する補助　　3,000円/泊・人
・自治体所有の公用バス等による送迎及び現地での移動支援

③むつ下北未来創生キャンパス祭

むつ市内にキャンパスを有する青森明の星短期大学及び青森大学と、特定の建物を持たずにむつ下北地域の全フィールドをむつサテライトキャンパスとして展開する弘前大学及び青森中央学院大学が、むつ下北地域の若者による賑わい創出を目的に、むつ市と共同で、令和５年10月29日、下北文化会館（むつ市）において「第２回むつ下北未来創生キャンパス祭」を開催した。

当日は、弘前大学の「ストリートダンスサークルA.C.T」から55人、「人文社会科学部地域行動コース」から26人、他の３大学からも約70人が参加し、総勢約150人の学生がステージパフォーマンスや展示・体験ブースにより、むつ下北地域の住民と交流し、延べ約3,000人が来場し、賑わいが創出された。

（２）深浦エコサテライトキャンパスにおける事業

①深浦エコサテライトキャンパス公開講座

実施日	内　容	受講者
10月３日	【公開講座】深浦の開拓地の記憶―戦後を切り拓いた人びと― 会　場：深浦町役場文化ホール 講　師：弘前大学教育学部　教授　髙瀬　雅弘	29人

②滞在型学習支援事業の対象となった取組

本事業は、「深浦エコサテライトキャンパス」において、恵まれた自然や魅力ある歴史・文化について、滞在して地域と交流しながら学び、また、地域課題へ対応し、地域社会の発展に取り組む本学教職員・学生に対し、現地における活動が円滑に行われるようサテライトキャンパスの利用及び学術活動を一体的に支援することを目的として、実施経費及び滞在時費用（宿泊費）の一部を助成するもの。

令和５年度は、新型コロナウイルスの感染防止の理由により、支援事業の実施を見合わせた。

※ 滞在型学習支援事業（深浦町）による補助
・実施経費に対する補助　　上限30,000円/件
・宿泊費に対する補助　　2,500円/泊・人
・自治体所有の公用バス等による送迎及び現地での移動支援

Ⅳ．各学部・研究科等における公開講座等の実施状況

１．実施件数・参加人数

令和５年度

実施部局等	実施件数	延べ参加人数
（1）人文社会科学部	10 件	527 人
（2）教育学部	18 件	1,148 人
（3）農学生命科学部	1 件	35 人
（4）大学院医学研究科	2 件	80 人
（5）大学院保健学研究科	11 件	966 人
（6）大学院理工学研究科	16 件	1,235 人
（7）大学院地域社会研究科	2 件	434 人
（8）大学院地域共創科学研究科	3 件	171 人
（9）医学部附属病院	11 件	464 人
(10) 被ばく医療総合研究所	2 件	951 人
(11) 地域戦略研究所	2 件	113 人
(12) 国際連携本部	1 件	43 人
(13) 地域創生本部	12 件	1,224 人
(14) 教育推進機構	6 件	208 人
(15) 研究・イノベーション推進機構	2 件	92 人
(16) 健康未来イノベーション研究機構	2 件	4,400 人
(17) 男女共同参画推進室	1 件	49 人
(18) 大学コンソーシアム学都ひろさき	1 件	150 人
計	103 件	12,290 人

２．公開講座等一覧

（１）人文社会科学部

地域未来創生塾＠中央公民館

開催日	①令和５年10月11日　②令和５年10月25日　③令和５年11月８日 ④令和５年11月22日　⑤令和５年12月13日
主催・共催	【主催】弘前大学人文社会科学部地域未来創生センター 【共催】弘前市教育委員会（中央公民館）
会場・対象 参加人数	【会場】弘前文化センター（弘前市）とオンラインのハイブリッド開催 【対象】弘前市及び近隣に住む高校生・一般の方 【参加人数】80人
講　師	①弘前大学人文社会科学部　助教　古川　祐貴 ②弘前大学人文社会科学部　助教　泉　直亮 ③弘前大学人文社会科学部　助教　安中　進 ④弘前大学人文社会科学部　教授　黄　孝春 ⑤弘前大学人文社会科学部　助教　片岡　美有季
内　容	「持続的で豊かな地域創造」をテーマとして開催。人口減少に伴う様々な地域課題の対策や地域文化資源の有効利用策、地域の防災・減災などを模索するため、地域の皆さまと弘前大学人文社会科学部の教員が講義形式で学びを深める。 ①「歴史的に見た弘前と対馬のつながり」 ②「人口と経済の関係：人口減と人口流出どちらがより問題か？」 ③「農家の経験値から学ぶ －短角牛の「よい母ウシ」とは？」 ④「りんご新品種の食味評価および今後の普及方法について」 ⑤「「小説」って何だろう～太宰治を読む～」

国際公開講座2023－日本を知り、世界を知る－「伝わる文化、受け継がれる文化」

開催日	令和５年11月３日
主催・共催	【主催】弘前大学人文社会科学部 【共催】弘前大学人文社会科学部地域未来創生センター
会場・対象 参加人数	【会場】弘前大学創立50周年記念会館岩木ホール 【対象】一般の方 【参加人数】50人
講　師	弘前大学人文社会科学部　助教　佐々木　あすか 弘前大学人文社会科学部　助教　永本　哲也 弘前大学人文社会科学部　教授　杉山　祐子
内　容	「過去と向き合う人文学―その未来を見通す力―」をテーマとして、弘前大学における多彩な「人文学」研究を３人の教員が紹介する。日本と世界各地の文化や歴史について、最新の研究成果に基づき、地域の皆さまにわかりやすく伝える。

シンポジウム「裁判員裁判の共有の意義」

開催日	令和５年11月３日
主催・共催	【主催】弘前大学人文社会科学部地域未来創生センター
会場・対象 参加人数	【会場】弘前大学人文社会科学部多目的ホールとオンラインのハイブリッド開催 【対象】一般の方 【参加人数】40人
講　師	裁判員経験者　田口　真義 専修大学法学部　教授　飯　考行

内　容	これまでのシンポジウムにおいて、裁判員の「経験」について考えてきた。令和５年度は、裁判員経験を「共有」することの意義がどこにあるのか、報告やパネルディスカッションを通じて来場の皆さまと一緒に考える。

公開特別経営セミナー「自然栽培による農業の経営実践～管理会計の視点から～」

開催日	令和５年６月10日
主催・共催	【主催】弘前大学人文社会科学部／(公財)牧誠財団
会場・対象 参加人数	【会場】弘前大学人文社会科学部視聴覚ルームとオンラインのハイブリッド開催 【対象】一般の方 【参加人数】103人
講　師	稲本農園　　稲本　薫 山下農場　　山下　育伸 無門福祉会　磯部　竜太 木村興農社　木村　秋則
内　容	自然栽培法による農業を実践し、その経営がビジネスとして成り立っている農業者・農業法人組織及びその取組を支援する地域の関係者が発表を行う。このような取組や成果を発表することで、自然栽培に携わる関係者及び関心のある方々と情報を共有し、農業関係者、研究者、その他参加者の知見や関心を深める。

ワークショップ「コメの自然栽培の可能性を再考する」

開催日	令和５年12月16日
主催・共催	【主催】弘前大学人文社会科学部地域未来創生センター 【共催】青森県木村式自然栽培実行委員会
会場・対象 参加人数	【会場】弘前大学八戸サテライト（八戸市） 【対象】自然栽培に興味のある方、自然栽培に取り組んでいる方、一般の方 【参加人数】18人
講　師	なりさわ生命食産　成澤　之男 奥州市コメ農家　　菊池　亮 (有)タクミライス　森越　安雄
内　容	自然栽培農家などの取組を紹介し、コメの自然栽培の可能性と課題をめぐって議論するとともに、地域の農家の皆さまへ価値ある情報を提供する。

フォーラム「市民協業時代における大学的フィールドワークの可能性」

開催日	令和５年12月16日
主催・共催	【主催】弘前大学人文社会科学部地域未来創生センター
会場・対象 参加人数	【会場】弘前大学人文社会科学部多目的ホール 【対象】一般、弘前大学と地域連携中の行政担当者、学生、高校生等 【参加人数】27人
講　師	弘前大学人文社会科学部　准教授　葉山　茂 弘前大学人文社会科学部　准教授　近藤　史 弘前大学人文社会科学部　准教授　白石　壮一郎 弘前大学地域創生本部　助教　　辻本　侑生 徳島大学総合科学部　准教授　　内藤　直樹 筑波大学人文社会系　准教授　　木村　周平
内　容	社会においてフィールドワークという活動は認知され、多くの場所で活用されるようになっている。一方で、行政や会社などが求めるフィールドワークと大学が求めるフィールドワークの間には顕著な違いがみられる。この両者の違いを確認した上で、大学のフィー

	ルドワーク、人類学とその近接領域を例に大学と地域コミュニティとの関わり方の諸相を概観して、市民協業時代における大学の問題発見型フィールドワークの可能性を検討する。

２国間国際共同研究フォーラム「地方大学生の地元愛着と就職地選択行動」

開催日	令和５年12月12日
主催・共催	【主催】弘前大学人文社会科学部地域未来創生センター
会場・対象 参加人数	【会場】弘前大学人文社会科学部多目的ホール 【対象】一般の方 【参加人数】30人
講　師	弘前大学人文社会科学部　教授　李　永俊 弘前大学人文社会科学部　准教授　花田　真一 青森県商工労働部労政・能力開発課　総括主幹　葛西　久美子 慶北大学校経済通商学部　名誉教授　嚴　昌玉 慶北大学校経済通商学部　教授　朴　相雨 韓国テグ市地域開発研究院　院長　魯　洸旭
内　容	地方から都市部への人口流出が深刻な社会問題となっている日韓両国において、地方大学生の地元愛着と地元定着の決定要因について４年間の追跡調査を実施してきた。本フォーラムでは、その成果を共有するとともに、地方の若者の地域定着の促進策を模索する。

消費者フォーラム in HIROSAKI

開催日	令和６年１月20日
主催・共催	【主催】弘前大学人文社会科学部／弘前大学教育学部／青森県消費者協会
会場・対象 参加人数	【会場】弘前大学創立50周年記念会館みちのくホール 【対象】一般の方 【参加人数】148人
講　師	みらいネット弘前　代表　社会福祉士　鹿内　葵
内　容	本学の消費者教育推進事業の一環として開催。令和５年度は、誰もが取り残されない地域づくりに向けたみらいねっと弘前の取組、大学生による消費者教育の実践、中・高生の消費者市民社会の構築に向けた探求学習について紹介する。

フォーラム「地域の脆弱性を可視化し住民に寄り添う除雪を科学する」

開催日	令和６年２月７日
主催・共催	【主催】弘前大学人文社会科学部 【共催】弘前大学人文社会科学部地域未来創生センター
会場・対象 参加人数	【会場】弘前大学人文社会科学部多目的ホール 【対象】一般の方 【参加人数】30人
講　師	弘前大学人文社会科学部　教授　李　永俊 弘前大学人文社会科学部　准教授　花田　真一 静岡大学　客員准教授　大友　翔一
内　容	地球温暖化による異常気象は正確な気象予測を困難にし、事前の備えを万全にすることがますます難しくなっている。特に、冬季は、豪雪と暖冬が不規則に現れ、一部の地域のみに豪雪が集中するなど、正確に予測し、万全の準備を備えるのがほぼ不可能になっている。このような状況下で、一人暮らしの高齢者や空き家・空き地が大幅に増えると、除雪されないことにより、通学路が途切れ、生活道路がふさがれるなど、社会機能が麻痺する負の外部性が生じる。快適な冬季の住民生活を維持するため、除雪を科学することが必要

	不可欠と言える。本フォーラムでは、データサイエンスを用いて、除雪に関する現状と課題を可視化し、その解決策を模索する。

弘前大学観光マイスター育成（社会人）プログラム（履修証明プログラム）

開催回数	64回
主催・共催	【主催】弘前大学人文社会科学部
会場・対象 参加人数	【対象】観光業に興味・関心のある社会人の方や観光業などに従事する社会人の方 【参加人数】１人
講　師	弘前大学人文社会科学部　教授　　森　樹男 弘前大学人文社会科学部　准教授　　熊田　憲 弘前大学人文社会科学部　准教授　　髙島　克史 (株)インアウトバウンド東北　代表取締役　西谷　雷佐（非常勤講師）
内　容	学部学生を対象とした「弘前大学観光マイスター育成プログラム」を拡充し、観光業などに従事する社会人を対象としたプログラムで、令和５年度から実施。観光業に関する様々な事項を体系的に学習することにより、青森県の観光産業を活性化させる人材を育成する。履修期間は１年間で全157.5時間開講。令和５年度は第１期生が履修し、修了した。

（２）教育学部

教員を目指す高校生のためのセミナー

開催日	①令和５年12月16日　②令和６年３月16日　③令和６年３月17日
主催・共催	【主催】弘前大学教育学部
会場・対象 参加人数	【会場】①弘前大学総合教育棟 ②青森県観光物産館アスパム　４階　十和田（青森市） ③ユートリー（VISITはちのへ）　８階　多目的中ホール（八戸市） 【対象】高校生 【参加人数】171人
講　師	①つがる市立稲垣中学校　木村　賢也 弘前大学教育学部　准教授　大谷　伸治 弘前大学教育学部長　福島　裕敏 ②八戸市立西園小学校　佐々木　柾斗 弘前大学教育学部　准教授　佐藤　剛 弘前大学教育学部長　福島　裕敏 ③青森市立大野小学校　齋藤　綾乃 弘前大学教育学部　准教授　田中　浩紀 弘前大学教育学部長　福島　裕敏
内　容	青森県内各地域の高校２年生を対象として、大学教員による講義・演習、現職教員による講話を通じて、教育・教職についての理解を深める機会とする。

令和５年度弘前大学免許法認定講習

開催日	①令和５年９月２日～９月３日　②令和５年10月14日～10月15日 ③令和５年11月18日～11月19日　④令和５年12月２日～12月３日 ⑤令和５年12月25日～12月26日　⑥令和６年１月20日～１月21日
主催・共催	【主催】弘前大学教育学部
会場・対象 参加人数	【会場】弘前大学

	【対象】小学校教諭普通免許状取得後、小学校（特別支援学校小学部を含む）における教諭又は講師（ただし非常勤の講師を除く）として３年以上の実務経験を有し、中学校教諭二種免許状（外国語（英語））を取得しようとする方 【参加人数】23人
講　師	弘前大学教育学部　教授　　野呂　徳治 弘前大学教育学部　准教授　　佐藤　剛 弘前大学教育学部　准教授　　土屋　陽子 弘前大学教育学部　助教　　吉崎　聡子 弘前学院大学文学部　教授　　Edward Forsythe 弘前医療福祉大学　非常勤講師　荒田弘美マクマナス 藤田医科大学　准教授　　近藤　亮一
内　容	小学校外国語教科化に対応した専門性向上のための免許法認定講習。

令和５年度弘前大学免許法認定講習

開催日	①令和５年12月25日～12月26日　　②令和６年１月９日～１月10日 ③令和６年１月20日～１月21日
主催・共催	【主催】弘前大学教育学部
会場・対象 参加人数	【会場】弘前大学 【対象】中学校教諭普通免許状を有しており、中学校教諭二種免許状（技術）を取得しようとする国・公・私立学校の教諭又は講師 【参加人数】16人
講　師	弘前大学教育学部　教授　上之園　哲也 弘前大学教育学部　教授　櫻田　安志
内　容	免許教科外教科担任となっている教員への研修の充実及び中学校教諭二種免許状（技術）を取得する機会の拡大のための免許法認定講習。

弘前大学教育学部附属四校園公開研究会

開催日	令和５年11月２日
主催・共催	【主催】弘前大学教育学部附属中学校・小学校・特別支援学校・幼稚園
会場・対象 参加人数	【会場】弘前大学教育学部附属小学校、中学校とライブ配信、テレビ会議によるハイブリッド開催 【対象】教育関係者等 【参加人数】340人（対面80人、オンライン260人）
講　師	(一社)ジェイス　代表理事　武田　信子
内　容	統一テーマを「自ら考え、自律的に行動する子の育成」とし、子どもたちのエージェンシー（自ら考え、主体的に行動して、責任をもって社会変革を実現していく姿勢・意欲）を育む教育の在り方を追究する。

特別支援教育セミナー「障害のある子どもの支援や教育を考えてみよう！」

開催日	令和６年３月27日
主催・共催	【主催】弘前大学教育学部
会場・対象 参加人数	【会場】弘前大学教育学部 【対象】高校生 【参加人数】46人

講　師	弘前大学教育学部　准教授　天海　丈久 弘前大学教育学部　教授　　増田　貴人 弘前大学教育学部　講師　　中山　忠政
内　容	障害による困難って何だろう？ 子どもたちは、どんな苦労をしているのだろう？ 「SDGs」と障害のある子どもの教育との関係は？ このセミナーで、障害のある子どもの支援や教育について考えてみよう！

大学で体験する・STEM×Aプログラム「遠近法の数学とルネサンスの絵画」

開催日	令和５年12月３日
主催・共催	【主催】アートワールドひろさき 【共催】弘前大学教育学部
会場・対象 参加人数	【会場】弘前大学教育学部美術制作室 【対象】弘前市と周辺地域の中学生・高校生 【参加人数】６人
講　師	弘前大学教育学部　准教授　山本　稔 弘前大学教育学部　准教授　出　佳奈子
内　容	イタリア・ルネサンスの画家たちが没頭した透視図法に注目し、その原理を幾何学的に紐解きながら実際に透視図を作成し、さらには、ルネサンスの時代に用いられていたテンペラ技法で絵画作品に仕上げるワークショップ。

「Life is smell～素数の森～」ワークショップ

開催日	令和５年11月３日～４日
主催・共催	【共催】弘前大学教育学部／青森公立大学国際芸術センター青森（ACAC）
会場・対象 参加人数	【会場】①弘前れんが倉庫美術館　スタジオB（弘前市） ②青森公立大学国際芸術センター青森　創作棟講義室（青森市） 【対象】小学４年生～大人 【参加人数】18人
講　師	現在美術家　　井上　尚子 青森公立大学国際芸術センター青森　学芸員　鹿野　結香 弘前大学教育学部　准教授　出　佳奈子
内　容	匂いの経験から自分自身や人生を振り返りながら、他者と語り合うワークショップ。地域の特性、文化や歴史と匂いの経験を重ね合わせ、地域のにおいを未来へつなぐことについて考える。

教員研修「サイエンス×アート・カフェ：教科横断のための話題提供と情報交換」

開催日	令和５年11月19日
主催・共催	【主催】弘前大学教育学部
会場・対象 参加人数	【会場】弘前大学教育学部中教室 【対象】教育関係者 【参加人数】６人
講　師	弘前大学教育学部　准教授　山本　稔 弘前大学教育学部　准教授　朝山　奈津子 弘前大学教育学部　准教授　島田　透 弘前大学教育学部　准教授　出　佳奈子

内　容	令和４年７月１日、教員免許更新制が発展的に解消されたことに伴い、弘前大学教育学部ではその後継である『新たな教師の学び』として、教員のための研修活動を新たに企画。 第１部　【調和を見る】数学と音楽 【調和を聴く】音楽と無理数 【青を生む】化学反応・発色・金属錯塩 【青で摺る】浮世絵・藍・プルシアンブルー 第２部　話題提供：STEAM教育ことはじめ

「Life is smell～素数の森～」展覧会

開催日	令和６年２月10日～３月３日
主催・共催	【共催】弘前大学教育学部／青森公立大学国際芸術センター青森（ACAC）
会場・対象 参加人数	【会場】青森公立大学国際芸術センター青森（青森市） 【対象】青森県民 【参加人数】204人
講　師	現在美術家　井上　尚子 青森公立大学国際芸術センター青森　学芸員　鹿野　結香 弘前大学教育学部　准教授　出　佳奈子
内　容	令和５年11月に開催した「Life is smell～素数の森～」ワークショップの成果展。他者の匂いの経験から垣間見える、地域の特性、文化や歴史から気づきを得ることで、それぞれの記憶に立ちかえり、過去・現在・未来への感覚をひらく。

五感であじわうアート体験　スイーツにするとこんな感じ

開催日	令和６年１月20日
主催・共催	【主催】弘前大学教育推進機構 【協力】弘前れんが倉庫美術館、弘前BRICK(株) 【後援】弘前大学教育学部
会場・対象 参加人数	【会場】CAFE & RESTAURANT BRICK（弘前れんが倉庫美術館カフェ・ショップ棟）（弘前市） 【対象】教育関係者 【参加人数】16人
講　師	弘前大学教育学部　准教授　出　佳奈子 弘前大学教育学部　准教授　朝山　奈津子 弘前れんが倉庫美術館　小杉　在良 アド・ミュージアム　学芸員　樽澤　武秀 HIROSAKI AIR　樽澤　優香
内　容	弘前大学の教養教育科目「キャリアデザイン：アート・インターンシップ」（受講生11人）で取り組んだ、美術作品と味覚の連動に関する試みの集大成として行ったワークショップ。弘前れんが倉庫美術館で開催した「松山智一展　雪月花のとき」のコラボ企画として、松山作品から発想した学生考案のスイーツをCAFÉ & RESTAURANT BRICKで参加者に紹介するほか、参加者が松山作品から発想したおつまみレシピを実際に作り、参加者同士で考えを共有する。

若手教師のためのリフレクション第一歩2023

開催日	①令和５年８月４日　②令和６年３月29日
主催・共催	【主催】弘前大学教育学部
会場・対象 参加人数	【会場】弘前大学教育学部　センター会議室 【対象】校種問わず若手教師 【参加人数】９人

講　師	弘前大学教育学部長　　福島　裕敏 弘前大学教育学部　教授　　宮﨑　充治 弘前大学教育学部　助教　　吉崎　聡子 弘前大学大学院教育学研究科　助教　若松　大輔
内　容	若手教師のためのリフレクション第一歩として、以下内容を実施。 ①やってみよう、省察！～省察とは何か：実践的に学ぶ～ ②自分を深堀しよう！～教師としての足場の再構築～

教員研修「道徳科授業 UPGRADE プログラム」

開催日	①令和５年８月７日　　②令和６年１月５日
主催・共催	【主催】弘前大学教育学部
会場・対象 参加人数	【会場】八戸市総合福祉会館「はちふくプラザねじょう」大会議室（八戸市） 【対象】教育関係者 【参加人数】16人
講　師	弘前大学教育学部長　　福島　裕敏 弘前大学教育学部附属中学校　教諭　佐々木　篤史
内　容	令和４年７月１日より教員免許更新制が発展的に解消されたことに伴い、弘前大学教育学部ではその後継の『新たな教師の学び』として、教員のための研修活動を新たに企画。

弘大講義　大学の数学

開催日	①令和６年３月16日　　②令和６年３月23日
主催・共催	【主催】弘前大学教育学部
会場・対象 参加人数	【会場】①ユートリー（VISITはちのへ）　５階　視聴覚室（八戸市） ②弘前大学教育学部　１階　大教室 【対象】高校生 【参加人数】23人
講　師	弘前大学教育学部　講師　吉川　和宏
内　容	弘前大学教育学部教員による、数学好き高校生のための大学の講義。講義を通して、大学で学ぶ数学の面白さ、奥深さを伝える。

小学校低学年を対象にした消費者教育講座

開催日	令和５年10月７日
主催・共催	【主催】弘前大学教育学部家庭科教育学研究室
会場・対象 参加人数	【会場】弘前市立文京小学校内　文京なかよし会（弘前市） 【対象】一般市民（小学校低学年の児童とその保護者） 【参加人数】25人
講　師	弘前大学教育学部　卒業生　　土井　うたの （指導）弘前大学教育学部　准教授　加賀　恵子
内　容	弘前大学教育学部家庭科教育学研究室で開発した消費者教育教材「きみとタノシーの一日すごろく～みんなでパーティー編～」を用いて、弘前市に住む小学校低学年の児童を対象として、楽しく遊びながら消費者としての学びの機会を提供する。また、児童の保護者へのミニ講座を開催して、消費者教育の啓発を図る。

幼い子どもと保護者を対象にした消費者教育講座

開催日	令和５年10月10日

主催・共催	【主催】弘前大学教育学部家庭科教育学研究室(2)
会場・対象 参加人数	【会場】弘前大学創立50周年記念会館 【対象】一般市民（幼い子どもとその保護者） 【参加人数】６人
講　師	弘前大学教育学部　卒業生　　土井　うたの （指導）弘前大学教育学部　准教授　加賀　恵子
内　容	弘前大学教育学部家庭科教育学研究室で開発した消費者教育教材「きみとタノシーの一日すごろく」を用いて、弘前市に住む幼い子どもとその保護者を対象として、親子で楽しく遊びながら消費者としての学びの機会を提供する。

高校生のためのデッサン教室「人物を描こう」

開催日	令和６年３月23日
主催・共催	【主催】弘前大学教育学部
会場・対象 参加人数	【会場】弘前大学教育学部美術制作室 【対象】高校生 【参加人数】10人
講　師	弘前大学教育学部　准教授　佐藤　絵里子
内　容	デッサンを学ぶことは作品を制作する上で大切な「観る力」「表す力」をつけることにとても役立つ。この教室では、モデルを使い、固定ポーズをじっくりと描き込むデッサンを体験する。基本的な形の捉え方、技法、画材の取扱い方など、実際に描くことを通して学ぶ。

【NITS・弘前大学教職大学院コラボ研修】令和５年度指導主事研修会

開催日	令和５年７月８日
主催・共催	【主催】弘前大学教職大学院 【共催】青森県教育委員会
会場・対象 参加人数	【会場】（弘前会場）弘前大学教育学部中教室、（八戸会場）ユートリー（VISITはちのへ）４階第４研修室（八戸市）とオンライン会場によるハイブリッド開催 【対象】青森県内の各機関に所属の指導主事等 【参加人数】37人
講　師	弘前大学大学院教育学研究科　教授　中野　博之 青森県立北斗高等学校　校長　　坂上　佳苗 (独)教職員支援機構　教授　　百合田　真樹人
内　容	指導主事を対象として、「学校現場にどう助言し関わるか」についての講義・演習、指導主事経験者による講演、指導主事としての役割や可能性について語り合う協議等で構成する研修会。

【NITS・弘前大学教職大学院コラボ研修】公開セミナー

開催日	①令和６年１月20日　　②令和６年２月３日
主催・共催	【主催】弘前大学教職大学院／(独)教職員支援機構 【共催】青森県教育委員会
会場・対象 参加人数	【会場】オンライン 【対象】教員、教職大学院生、高校生 【参加人数】176人
講　師	①認定NPO法人カタリバ　　山本　晃史 弘前大学教育学部　准教授　　森本　洋介 ②弘前大学大学院教育学研究科　准教授　藤江　玲子

	青森明の星短期大学　教授　　最上　和幸
内　容	最新の教育課題を幅広く扱い、専門家の方々から話を伺う。 ①「学校のルールをどうつくるか―生徒との対話と改訂生徒指導提要―」 「デジタル社会におけるさまざまなリテラシー――予測困難な時代を生きるチカラ―」 ②「子どもの回復力を育てる―学校で活かすストレス・マネジメント―」 「ヤングケアラーにどう対応するか―これからの福祉との連携―」

（３）農学生命科学部

公開講座「リンゴを科学する」

開催日	令和５年12月９日
主催・共催	【主催】弘前大学農学生命科学部附属生物共生教育研究センター 【共催】板柳町
会場・対象 参加人数	【会場】板柳町多目的ホールあぷる（板柳町） 【対象】リンゴ生産者、リンゴ産業関係者、一般の方 【参加人数】35人
講　師	弘前大学農学生命科学部　准教授　成田　拓未 北海道情報大学経営情報学部　准教授　栗原　純一 弘前大学農学生命科学部　教授　　伊藤　大雄 弘前大学農学生命科学部　助教　　林田　大志
内　容	リンゴに関する最新情報の提供及び取組事例の紹介等

（４）大学院医学研究科

令和５年度弘前大学大学院医学研究科公開講座「種々のアレルギー性疾患：その病態と治療」

開催日	令和５年９月８日
主催・共催	【主催】弘前大学大学院医学研究科 【共催】(公社)青森医学振興会
会場・対象 参加人数	【会場】弘前大学医学部講義棟 【対象】一般市民の方、教職員、学生 【参加人数】42人
講　師	弘前大学大学院医学研究科　耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座　教授　松原　篤 弘前大学大学院医学研究科　臨床検査医学講座　講師　糸賀　正道 弘前大学大学院医学研究科　皮膚科学講座　講師　　赤坂　英二郎
内　容	アレルギーに関する話題を専門の先生方に講演いただき、参加者からの質問に答えることで、正しいアレルギーの知識を得てもらい、悩み解消の一助とする。 講演１「腸内細菌はアレルギーと関係するか？」 講演２「気管支喘息と好酸球」 講演３「教えてーなるほど！ここまで進んだアトピー性皮膚炎の治療」

令和５年度弘前大学大学院医学研究科「健康・医療講演会」
「アレルギーの最近の話題について知ろう」

開催日	令和５年10月28日
主催・共催	【主催】弘前大学大学院医学研究科 【共催】三沢市立三沢病院／(公社)青森医学振興会

会場・対象 参加人数	【会場】きざん三沢　１階「ノーブル」（三沢市） 【対象】一般市民の方 【参加人数】38人
講　師	三沢市立三沢病院　小児科　鈴木　友希 弘前大学大学院医学研究科　耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座　教授　松原　篤
内　容	アレルギーに関する話題を専門の先生方に講演いただき、参加者からの質問に答えることで、正しいアレルギーの知識を得てもらい、悩み解消の一助とする。 講演１「食物アレルギーを正しく知るー最近の話題も含めてー」 講演２「アレルギーの感作と発症ー疫学調査から腸内細菌の話題を含めてー」

（５）大学院保健学研究科

育児中の母親のためのリフレッシュ講座

開催日	①令和５年６月14日　②令和５年６月16日　③令和５年７月７日 ④令和５年８月４日　⑤令和５年８月７日　⑥令和５年８月21日 ⑦令和５年８月29日　⑧令和５年９月７日　⑨令和５年10月６日 ⑩令和５年10月13日　⑪令和５年11月24日　⑫令和５年12月８日 ⑬令和６年１月12日　⑭令和６年１月26日　⑮令和６年２月９日 ⑯令和６年３月11日
主催・共催	【共催】弘前大学大学院保健学研究科 ①⑯大浦保育園地域子育て支援センター ②③⑥⑧⑨⑪⑫⑭弘前市駅前こどもの広場 ④中泊町教育委員会、こども園こどまりぽかぽかクラブ ⑤⑬みどり保育園地域子育て支援センター ⑦中泊町教育委員会、中里こども園子育て支援センター ⑩岩木児童センター ⑮弘前大学医学部附属病院　小児病棟
会場・対象 参加人数	【会場】①⑯大浦保育園（弘前市） ②③⑥⑧⑨⑪⑫⑭弘前市駅前こどもの広場（弘前市） ④こどまり保育園（中泊町） ⑤⑬みどり保育園（弘前市） ⑦中里こども園（中泊町） ⑩岩木児童センター（弘前市） ⑮弘前大学医学部附属病院　小児病棟 【対象】育児中の母親 【参加人数】66人
講　師	弘前大学大学院保健学研究科　看護学領域　准教授　北島　麻衣子 弘前大学大学院保健学研究科　看護学領域　助教　橋本　美亜 弘前大学大学院保健学研究科　看護学領域　助教　高間木　静香
内　容	地域で子育てをしている母親を対象としたリフレッシュ講座。講座の実施により、地域で子育てをしている母親が心身ともに健やかに生活していくための一助とすること、ならびに講座の開催を通じて教育・知的資源を地域社会へ還元すると同時に地域社会から学ぶ機会とする。講座は、精油を用いた制作体験（ハンドクリーム、エアーフレッシュナー、蜜蝋缶など）、ヨーガ、子どもの看護や子育てに関する講話など、ニーズに合わせて講座内容を工夫しながら実施。

弘前市民公開講演会「がんゲノムとは？」

開催日	令和６年２月３日
主催・共催	【共催】弘前大学大学院保健学研究科生体応答科学研究センター／青森労災病院

会場・対象 参加人数	【会場】弘前大学創立50周年記念会館とオンラインのハイブリッド開催 【対象】弘前市民（中学・高校生含む）、医療従事者、本学学生・教職員、その他 【参加人数】45人
講　師	青森労災病院　副院長　　真里谷　靖 弘前大学医学部附属病院　看護部　がん看護専門看護師　小野　晃子 弘前大学大学院保健学研究科　助教　宮崎　光江
内　容	青森労災病院との共催により、毎年、放射線治療に特化したテーマで市民公開講演会を開催している。令和５年度は「がんゲノムとは？遺伝子ががんにどう関わっているかを知ろう」をテーマに、「消化器がん高精度放射線治療の進歩」「がんゲノム検査をすすめられた方への看護支援の実際」「がんと遺伝子の密な関係」と題した講演を行う。

第８回放射線看護セミナー「放射線診療における看護に必要な基礎知識2023」

開催日	令和５年９月30日
主催・共催	【主催】弘前大学大学院保健学研究科被ばく医療人材育成推進委員会放射線看護教育部門
会場・対象 参加人数	【会場】オンライン開催 【対象】放射線看護に興味・関心のある医療職者 【参加人数】179人
講　師	弘前大学大学院保健学研究科　助教　小山内　暢 大阪大学大学院医学系研究科　重粒子線治療学寄附講座　教授　清水　伸一
内　容	放射線看護に携わる看護師のために、放射線の基礎を分かりやすく解説するとともに、核医学における看護師の役割について理解を深める。

2023年度放射線看護ベーシックトレーニング

開催日	令和５年12月３日
主催・共催	【共催】弘前大学大学院保健学研究科放射線看護教育支援センター／京都大学医学部附属病院総合臨床教育・研修センター／京都大学医学部附属病院放射線部
会場・対象 参加人数	【会場】オンライン開催 【対象】看護職の方、看護教育に関わる教育機関の先生方 【参加人数】117人
講　師	弘前大学大学院保健学研究科　助教　小山内　暢 弘前大学大学院保健学研究科　助教　寺島　慎吾 弘前大学被ばく医療連携推進機構災害・被ばく医療教育センター　助教　辻口　貴清
内　容	看護基礎教育において放射線看護を担当する教員、もしくは医療機関において放射線診療に関わる看護職者の放射線に関する知識・技術の充実を図る。講義とともに、放射線測定器等を使って自然放射線や移動型エックス線撮影装置からの放射線などの測定演習を行い、放射線基礎・防護方策の理解促進を図る。

はじめての放射線リスクコミュニケーション

開催日	令和５年８月18日
主催・共催	【主催】弘前大学大学院保健学研究科被ばく医療人材育成推進委員会放射線リスクコミュニケーション教育部門
会場・対象 参加人数	【会場】オンライン開催 【対象】放射線看護に興味・関心のある医療職者 【参加人数】179人
講　師	弘前大学大学院保健学研究科　助教　小山内　暢 大阪大学大学院医学系研究科　重粒子線治療学寄附講座　教授　清水　伸一

内　容	放射線看護に携わる看護師のために、放射線の基礎を分かりやすく解説するとともに、核医学における看護師の役割について理解を深める。

令和５年度被ばく医療研修

開催日	①令和５年９月２日　　②令和５年10月15日
主催・共催	【主催】弘前大学大学院保健学研究科被ばく医療人材育成推進委員会被ばく医療教育研修部門
会場・対象 参加人数	【会場】①オンライン開催 ②弘前大学保健学研究科 【対象】看護職者、診療放射線技師 【参加人数】35人
講　師	弘前大学大学院保健学研究科及び被ばく医療総合研究所の教員
内　容	被ばく医療や放射線に関する基礎的知識の習得、他職種との協働意識の向上を目的とする研修。講義や実践的な演習のほか、放射線被ばく事故を想定した受入れ医療処置に関する机上演習や学習者同士のディスカッションの時間を設け、初めて被ばく医療を学ぶ方、放射線の基礎知識の習得や復習を考えている方、他職種とのチーム連携や教育ネットワークの構築に興味のある方向けの内容となっている。

10th Educational Symposium on RADIATION AND HEALTH by young scientists (ESRAH 2023)

開催日	令和５年９月23日～24日
主催・共催	【主催】弘前大学大学院保健学研究科被ばく医療人材育成推進委員会グローバル人材育成推進部門
会場・対象 参加人数	【会場】弘前大学保健学研究科とオンラインのハイブリッド開催 【対象】弘前大学保健学研究科及び被ばく医療総合研究所の教職員・学生、北海道大学の学生、その他海外の関係機関の研究者 【参加人数】68人
講　師	①Tibor Kovács, University of Pannonia, Hungary ②Kevin Kelleher, Environmental Protection Agency, Ireland ③Radia Tamarat, IRSN, Institut de radioprotection et de sûreté necléaire, France ④Narongchai Autsavapromporn, Chiang Mai University, Thailand ⑤Siamak Haghdoost, University of Caen Normandy, France/ University of Stockholm, Sweden
内　容	大学院生や若手研究者が中心となって運営する国際シンポジウム。環境や人体への放射線影響、医療分野における放射線利用、緊急被ばく医療などに関する幅広い分野の情報交換や討論になる場を目指す。

第５回RNECセミナー「看護大学院教育：ハワイと米国の視点から」

開催日	令和６年２月29日
主催・共催	【主催】弘前大学大学院保健学研究科放射線看護教育支援センター
会場・対象 参加人数	【会場】弘前大学保健学研究科第33講義室とオンラインのハイブリッド開催 【対象】看護学生、看護職者、看護教育に関わる教員 【参加人数】50人
講　師	Dr.Courtnee Nunokawa (DNP,APRN-Rx,AGPCNP-BC,Doctor of Nursing Practice Program Director,Interim Instructor & AGPCNP Program Coordinator,Nancy Atmospera-Walch School of Nursing - University of Hawaii at Manoa)

内　容	アメリカにおける高度看護実践看護の教育（NP、CNS）について学ぶ。

世界自閉症啓発デー　発達障害啓発週間 in 青森　子どもの発達支援研究室公開講座

開催日	令和５年４月８日
主催・共催	【共催】弘前大学大学院保健学研究科／青森自閉症協会／青森県／青森県発達障害者支援センター「ステップ」
会場・対象 参加人数	【会場】オンライン開催 【対象】当事者、保護者、保育士・教師、療育・福祉関係者、教育関係者、自治体職員、学生、教員 【参加人数】91人
講　師	弘前大学大学院保健学研究科・医学部心理支援科学科　教授　斉藤　まなぶ ライフサポートあおば　所長　前中　貴次
内　容	青森市で開催される「世界自閉症啓発デー」イベントで公開講座を開講。青森県と本学で監修した「青森県子どもの発達支援ガイドブック」の概要と活用方法を紹介し、自閉症をはじめとする発達障害について県民に啓発を行う。

第２回子どもの発達支援研究室公開講座「初めて学ぶCAREプログラム」

開催日	令和６年２月28日
主催・共催	【共催】弘前大学医学部心理支援科学科斉藤研究室（子どもの発達支援研究室）／青森県／青森県発達障害者支援センター「ステップ」
会場・対象 参加人数	【会場】オンライン開催 【対象】大学教職員、東北圏内保健師、保育所・幼稚園・療育機関、母子保健等発達障害児支援に携わっている支援者 【参加人数】147人
講　師	秋田大学大学院医学系研究科作業療法講座　教授　太田　英伸
内　容	PCIT(Parent-Child Interaction Therapy) CARE(Child-Adult Relationship Enhancement) この２つのプログラムは、子どもとの間に、温かな、よりよい関係を築く時に大切な養育のスキルを体験的に学ぶことができるプログラムである。子どもとの遊び方、関わり方を医療従事者として養育者に効果的に伝える方法を学ぶことができる機会を提供する。青森県では５年前から発達障害者支援センターで研修を行っており、発達が心配なお子さんの早期療育に向けた保健指導として推奨されている。

第３回子どもの発達支援研究室公開講座「CLASP-3y 乳幼児発達障害研修会～青森県子どもの発達と行動に関するチェックシート活用に向けて～」

開催日	令和６年３月９日
主催・共催	【主催】弘前大学医学部心理支援科学科斉藤研究室（子どもの発達支援研究室）／青森県／青森県発達障害者支援センター「ステップ」
会場・対象 参加人数	【会場】オンライン開催 【対象】大学教職員、東北圏内保健師、保育所・幼稚園・療育機関、母子保健等発達障害児支援に携わっている支援者 【参加人数】165人
講　師	①吃音　北里大学医療衛生学部　教授　原　由紀 ②チック　東京大学大学院医学系研究科　准教授　金生　由紀子 ③読み書き　慶応義塾大学文学部/大学院社会学研究科　准教授　北　洋輔 ④運動　弘前大学医学部心理支援科学科　教授　斉藤　まなぶ ⑤知的発達症　(国研)国立精神・神経医療研究センター(NCNP)　稲垣　真澄 ⑥睡眠障害　大阪大学連合小児発達学研究科　准教授　毛利　育子

内　容	Check List of obscure disAbilitieS in Preschoolersは、目立ちにくい４つの状態（吃音・チック症・LD・DCD）の可能性に就学前に気づくためのチェックリストであり、CLASP-3yはさらに３歳児健診でチェックできるように開発中のチェックリストとなる。青森県では令和６年から３歳児健診で活用が推奨されるため、本研修会ではこの活用に向けて乳幼児の発達障害への理解を深める。

（６）大学院理工学研究科

2023年度日本火災学会研究発表会

開催日	令和５年５月27日～28日
主催・共催	【主催】日本火災学会 【共催】弘前大学大学院理工学研究科
会場・対象 参加人数	【会場】弘前大学総合教育棟とオンラインのハイブリッド開催 【対象】日本火災学会員、消防関係者 【参加人数】306人（会場238人、オンライン68人）
講　師	弘前大学大学院理工学研究科　教授　鳥飼　宏之
内　容	日本火災学会が開催する討論会。毎年、火災研究に関わる全国の大学、企業、研究機関、消防、警察等で実施された最新の研究成果を発表・討論する。

夏休みの数学2023

開催日	令和５年８月５日～６日
主催・共催	【主催】弘前大学理工学部
会場・対象 参加人数	【会場】弘前大学理工学部２号館10階1010号室、１号館５階第10講義室 【対象】中学校、高校の数学担当教員、数学関連諸科学に興味のある一般市民・高校生 【参加人数】96人
講　師	弘前大学大学院理工学研究科　教授　　金　正道 弘前大学大学院理工学研究科　准教授　江居　宏美
内　容	中学校や高等学校の数学の教科書に出てくる数学の世界のすぐ近くに面白い話題がたくさんあり、そのような数学の魅力の一端を高校生や一般の市民の方に知ってもらう。

2023年度「化学への招待」弘前大学一日体験化学教室

開催日	令和５年８月７日
主催・共催	【主催】日本化学会東北支部／弘前大学大学院理工学研究科
会場・対象 参加人数	【会場】弘前大学理工学部、教育学部、農学生命科学部 【対象】高校生（中学生・一般も可） 【参加人数】44人
講　師	弘前大学大学院理工学研究科　助教　　松田　翔風 弘前大学大学院理工学研究科　教授　　川上　淳 弘前大学大学院理工学研究科　准教授　北川　文彦 弘前大学大学院理工学研究科　准教授　野田　香織 弘前大学大学院理工学研究科　准教授　宮本　量 弘前大学教育学部　准教授　　廣瀬　孝 弘前大学大学院理工学研究科　准教授　山崎　祥平 弘前大学大学院理工学研究科　助教　　太田　俊 弘前大学農学生命科学研究科　准教授　栗田　大輔 弘前大学大学院理工学研究科　教授　　鷺坂　将伸

	弘前大学大学院理工学研究科　教授　　竹内　大介 弘前大学大学院理工学研究科　助教　　関口　龍太 弘前大学大学院理工学研究科　教授　　伊東　俊司 弘前大学大学院理工学研究科　助教　　呉羽　拓真 弘前大学大学院理工学研究科　教授　　阿部　敏之
内　容	先端科学・技術の一端を担う化学に興味を抱いてもらえるよう、中学・高校生を対象に開催する。

Dr.BaixinChen 講演会

開催日	令和５年８月24日
主催・共催	【主催】弘前大学大学院理工学研究科
会場・対象 参加人数	【会場】弘前大学理工学部２号館第12講義室 【対象】学生、教員、一般 【参加人数】25人
講　師	（スコットランド）ヘリオット・ワット大学　准教授　Dr.Baixin Chen
内　容	地球温暖化ガスであるCO2対策技術として期待されている海洋隔離について、フィールド実験とモデル開発を組み合わせて構築した研究成果事例をもとに説明する。

日本機械学会東北支部第59期秋季講演会

開催日	令和５年９月30日
主催・共催	【主催】日本機械学会 【共催】弘前大学大学院理工学研究科
会場・対象 参加人数	【会場】弘前大学理工学部とオンラインのハイブリッド開催 【対象】日本機械学会員 【参加人数】88人（会場68人、オンライン20人）
講　師	弘前大学大学院理工学研究科　准教授　森脇　健司 弘前大学大学院理工学研究科　准教授　矢野　哲也 弘前大学大学院理工学研究科　准教授　岡部　孝裕 弘前大学大学院理工学研究科　助教　　三浦　鴻太郎 弘前大学大学院理工学研究科　助教　　宮川　泰明 弘前大学大学院理工学研究科　教授　　笹川　和彦 弘前大学大学院理工学研究科　准教授　藤崎　和弘
内　容	日本機械学会東北支部が開催する講演会。毎年、機械工学に関わる東北地域の大学、高専、研究機関、企業などで実施された最新の研究成果を発表・討論する。

エアロ・アクアバイオメカニズム学会第47回定例講演会

開催日	令和５年９月26日
主催・共催	【主催】エアロ・アクアバイオメカニズム学会 【共催】弘前大学大学院理工学研究科
会場・対象 参加人数	【会場】弘前大学理工学部１号館５階第10講義室 【対象】学会員及び共催学会員、全国の研究者、弘前大学学生・教職員、自治体職員、教育関係者、一般市民など 【参加人数】58人
講　師	東北大学大学院　助教　照月　大悟 東京電機大学　教授　　横山　直人
内　容	エアロ・アクアバイオメカニズム学会が開催する講演会。年に２回、生物の飛翔・遊泳に関するバイオメカニズムの最新研究の成果を発表・討論する。

雪氷防災研究講演会　―津軽の雪を科学する―

開催日	令和５年11月１日
主催・共催	【主催】防災科学技術研究所 【共催】弘前大学大学院理工学研究科
会場・対象 参加人数	【会場】弘前大学創立50周年記念会館 【対象】一般、教職員、学生 【参加人数】53人
講　師	青森地方気象台　観測予報管理官　　福士　正輝 弘前大学大学院理工学研究科　教授　　谷田貝　亜紀代 弘前大学大学院理工学研究科　准教授　石田　祐宣 防災科学技術研究所雪氷防災研究センター雪氷環境実験室長　根本　征樹 防災科学技術研究所雪氷防災研究センター長　　中村　一樹
内　容	最近の雪氷防災に関わる取り組みや研究成果を広く一般の方々に知っていただき、雪国での生活の向上に寄与することを目的として開催する。

日本化学会東北支部青森地区講演会

開催日	令和５年11月17日
主催・共催	【主催】日本化学会東北支部 【共催】弘前大学大学院理工学研究科
会場・対象 参加人数	【会場】弘前大学創立50周年記念会館 【対象】一般市民（制限なし、アナウンスは主に弘前大学生、日本化学会会員） 【参加人数】90人
講　師	(一財)総合科学研究機構中性子科学センター長　柴山　充弘
内　容	日本化学会東北支部が開催する講演会。毎年、化学関連の研究の第一線で世界的に活躍されている研究者を招聘し、青森地域の方々、弘前大学や近隣大学の学生・教職員等を対象に、講演者の最先端研究について発表・討論する。

第11回弘前非線形方程式研究会

開催日	令和５年12月１日～２日
主催・共催	【主催】弘前非線形方程式研究会 【共催】弘前大学大学院理工学研究科
会場・対象 参加人数	【会場】弘前大学総合教育棟302号室とオンラインのハイブリッド開催 【対象】全国の研究者、弘前大学生・大学院生、教育関係者、高校生など 【参加人数】31人
講　師	東北大学　　青木　基記 東京理科大学　西井　良徳 弘前大学　　倉坪　茂彦 奈良女子大学　南　香名 静岡大学　　藤嶋　陽平 熊本大学　　勝呂　剛志 東京都立大学　下條　　昌彦
内　容	毎年全国から研究者が参加し、自然現象や社会現象などを記述する様々な非線形微分方程式の数学解析に関する最新の研究成果について発表・討論する。

日本鉄鋼協会「湯川記念講演会」

開催日	令和５年12月６日
主催・共催	【主催】日本鉄鋼協会東北支部 【共催】弘前大学大学院理工学研究科
会場・対象 参加人数	【会場】弘前大学創立50周年記念会館岩木ホール 【対象】会員及び共催会員、弘前大学生 【参加人数】40人
講　師	東北大学金属材料研究所　教授　　古原　忠 東北大学大学院工学研究科　教授　成島　尚之
内　容	日本鉄鋼協会が開催する講演会。毎年著名な研究者を招待し、学生、教員等を対象とした講演会を開催する。

国際交流協定校　中国太原理工大学研究者来日特別講演会
「カーボンニュートラルに向けた最新エネルギー技術」

開催日	令和５年12月21日
主催・共催	【主催】弘前大学大学院理工学研究科
会場・対象 参加人数	【会場】弘前大学理工学部２号館２階第12講義室 【対象】学生、教員、一般 【参加人数】30人
講　師	太原理工大学　教授／中国山西省化学工学会　理事長　HAO　XIAOGANG 太原理工大学　副教授／中国山西省化学工学会　理事　ZHANG ZHONGLIN
内　容	弘前大学大学院理工学研究科は、本学の協定校である太原理工大学と長年にわたり学術交流推進に取り組んでいる。これまでの交流実績に基づき、太原理工大学は本学との国際交流の一層の拡大を推進するために、中国文部科学省（教育部）に国際交流推進プロジェクトを申請し採択された。本講演会はその第１弾として、来学した教員からエネルギー資源の高効率分離・回収技術と、カーボンリサイクル・次世代石炭ガス化燃焼技術を焦点に講演いただく。

第36回理論懇シンポジウム「高赤方偏移のフロンティア」

開催日	令和５年12月25日～27日
主催・共催	【主催】理論天文学宇宙物理学懇談会 【共催】弘前大学大学院理工学研究科
会場・対象 参加人数	【会場】弘前大学創立50周年記念会館とオンラインのハイブリッド開催 【対象】全国の研究者、弘前大学学生・教職員 【参加人数】274人（会場185人、オンライン89人）
講　師	国立天文台　吉浦　伸太郎 高エネルギー加速器研究機構　助教　向田　享平 富山大学　助教　廣島　渚 東京大学宇宙線研究所　助教　播金　優一 筑波大学　助教　橋本　拓也 弘前大学大学院理工学研究科　助教　野村　真理子 マドリード自治州立大学　黒柳　幸子 スタンフォード大学　内海　洋輔 千葉大学　准教授　石山　智明 東北大学　教授　當真　賢二
内　容	近年のALMA望遠鏡による電波観測やJWSTの赤外線観測などの活躍により、遠方銀河の新しい発見が相次ぎ、いよいよ赤方偏移z=10を超えるような宇宙に手が届きつつある。さらには、EHTによる巨大ブラックホールの直接撮像、重力波の直接観測、GAIA衛星による精

	密位置天文など、これまでとは質的に異なる情報によって、我々の宇宙像の理解も飛躍的に深化しつつある。このようにフロンティアが急速に広がり予想外の観測結果が得られる時代にあって、理論研究者がすべきことは何かを議論する場を提供する。

国際交流協定校教員による特別講演会
「カーボンニュートラルに向けた最新エネルギー技術」

開催日	令和６年１月15日
主催・共催	【主催】弘前大学大学院理工学研究科
会場・対象 参加人数	【会場】弘前大学理工学部１号館２階第３講義室 【対象】学生、教員、一般 【参加人数】21人
講　師	鄭州大学　副教授　　ZOU LINA 太原理工大学　副教授　YANG JINGXUAN
内　容	弘前大学大学院理工学研究科は、本学の協定校である鄭州大学と太原理工大学と長年にわたり学術交流推進に取り組んでいる。これまでの交流実績に基づき、鄭州大学と太原理工大学の教員は弘前大学との国際交流の一層の拡大を推進するために、中国文部科学省（教育部）に国際交流推進プロジェクトを申請し採択された。本講演会は、協定校より来学した教員からセンサー技術とその応用、バイオマスエネルギーの高度利用技術を焦点に講演いただく。

日本金属学会東北支部講演会

開催日	令和６年１月31日
主催・共催	【主催】日本金属学会東北支部 【共催】弘前大学大学院理工学研究科、軽金属学会東北支部
会場・対象 参加人数	【会場】弘前大学創立50周年記念会館岩木ホール 【対象】学会員及び共催学会員、弘前大学学生 【参加人数】40人
講　師	京都大学大学院工学研究科　教授　　乾　晴行 物質・材料研究機構　博士　　上路林　太郎 弘前大学大学院理工学研究科　准教授　峯田　才寛
内　容	日本金属学会東北支部が開催する講演会。毎年、著名な研究者を招待し、最新研究の成果を発表する。

令和５年度情報処理学会東北支部研究会

開催日	令和６年２月27日
主催・共催	【主催】情報処理学会東北支部 【共催】弘前大学理工学部電子情報工学科
会場・対象 参加人数	【会場】弘前大学理工学部１号館４階第８講義室 【対象】全国の研究者 【参加人数】36人
講　師	弘前大学大学院理工学研究科　准教授　成田　明子 弘前大学大学院理工学研究科　教授　　小野口　一則 弘前大学大学院理工学研究科　准教授　水田　智史 弘前大学大学院理工学研究科　教授　　銭谷　勉 弘前大学大学院理工学研究科　准教授　丹波　澄雄
内　容	情報処理学会東北支部が東北地区の大学で年に７回程度開催している。広い意味での情報処理分野に関する研究について、幅広い視点からの議論を交す。

医工学技術者養成講座（履修証明プログラム）

開催回数	75回
主催・共催	【主催】弘前大学大学院理工学研究科
会場・対象 参加人数	【対象】地域の製造業及びその関連産業等に従事している方 【参加人数】３人
講　師	弘前大学大学院医学研究科　教授　　掛田　伸吾 弘前大学医学部附属病院　医員　　山本　祐司 弘前大学大学院医学研究科　准教授　　浅野　研一郎 弘前大学大学院医学研究科　教授　　皆川　正仁 弘前大学大学院医学研究科　准教授　　木村　正臣 弘前大学大学院医学研究科　教授　　佐々木　賀広 弘前大学大学院医学研究科　教授　　松原　篤 弘前大学大学院医学研究科　准教授　　鈴木　幸彦 弘前大学医学部附属病院　講師　　諸橋　一 弘前大学大学院医学研究科　教授　　玉田　嘉紀 弘前大学医学部附属病院　講師　　福原　理恵 弘前大学医学部附属病院　講師　　対馬　史泰 弘前大学大学院医学研究科　教授　　廣田　和美 弘前大学大学院医学研究科　教授　　青木　昌彦 弘前大学医学部附属病院　講師　　岡本　哲平 弘前大学大学院医学研究科　教授　　小林　恒 弘前大学大学院保健学研究科　講師　　野坂　大喜 弘前大学大学院保健学研究科　講師　　藤岡　美幸 弘前大学大学院保健学研究科　非常勤講師　池田　浩司 弘前大学大学院保健学研究科　非常勤講師　間々田　圭祐 弘前大学大学院理工学研究科　教授　　佐川　貢一 弘前大学大学院理工学研究科　准教授　岡部　孝裕 弘前大学大学院理工学研究科　教授　　城田　農 弘前大学大学院理工学研究科　准教授　矢野　哲也 弘前大学大学院理工学研究科　助教　　宮川　泰明 弘前大学大学院理工学研究科　准教授　齊藤　玄敏 弘前大学大学院理工学研究科　准教授　藤﨑　和弘 弘前大学大学院理工学研究科　准教授　森脇　健司 弘前大学大学院理工学研究科　教授　　花田　修賢 弘前大学大学院理工学研究科　准教授　陳　暁帥 弘前大学大学院理工学研究科　教授　　笹川　和彦 弘前大学大学院理工学研究科　教授　　鳥飼　宏之 弘前大学大学院理工学研究科　教授　　今井　雅 弘前大学大学院理工学研究科　教授　　黒川　敦 弘前大学大学院理工学研究科　教授　　金本　俊幾 弘前大学大学院理工学研究科　教授　　中澤　日出樹 弘前大学大学院理工学研究科　教授　　小林　康之 弘前大学大学院理工学研究科　助教　　尾﨑　翔
内　容	本講座は、精密機器関連の新しい産業、特に医療に関連する様々な製造業のイノベーションを生み出せる民間人材の育成を目的としている。地域の製造業及びその関連産業に従事されている社会人を対象とし、医工学に関連する大学院レベルの教育を提供することによって青森県ないし北東北でイノベーションを起こせる民間人材の育成をサポートする。

（７）大学院地域社会研究科

弘前大学大学院地域社会研究科　令和５年度公開セミナー『地域社会を探究する』

開催日	①令和５年11月７日　②令和５年11月21日　③令和５年11月27日
主催・共催	【主催】弘前大学大学院地域社会研究科
会場・対象 参加人数	【会場】土手町コミュニティパーク（弘前市）とオンライン配信（アップルストリーム）のハイブリッド開催 【対象】興味のある方 【参加人数】409人
講　師	①弘前大学教育学部　教授　勝川　健三 弘前大学教育学部　講師　大谷　伸治 ②弘前大学教育学部　准教授　蒔田　純 弘前大学人文社会科学部　准教授　花田　真一 ③弘前大学人文社会科学部　教授　森　樹男 弘前大学人文社会科学部　教授　加藤　惠吉 弘前大学人文社会科学部　准教授　大倉　邦夫 弘前大学人文社会科学部　教授　黄　孝春
内　容	弘前大学大学院地域社会研究科の授業内容を地域住民に公開することにより、地域住民が大学院レベルの専門的知識を用いて、地域の課題解決のための担い手となる人財育成を目的とする。 令和５年度は、20年にわたり研究してきた本研究科の３つの講座がそれぞれの特徴を活かしたテーマを設定し、講義する。

弘前大学大学院地域社会研究科シンポジウム2023
「地域企業の持続的発展に大学はいかに貢献できるのか」

開催日	令和６年３月１日
主催・共催	【主催】弘前大学大学院地域社会研究科
会場・対象 参加人数	【会場】弘前大学創立50周年記念会館とオンラインのハイブリッド開催 【対象】興味のある方 【参加人数】25人
講　師	信州大学副学長　林　靖人
内　容	地域企業の持続的発展を考えるにあたり、大学はどのような役割を果たしていくべきか、先進的な取り組みを踏まえながら本シンポジウムを通して考えることを目的として開催する。

（８）大学院地域共創科学研究科

弘前大学大学院地域共創科学研究科　令和５年度シンポジウム
『地域食産業の高度化を進めるための地域共創や連携のこれから』

開催日	令和５年12月８日
主催・共催	【主催】弘前大学大学院地域共創科学研究科
会場・対象 参加人数	【会場】弘前大学創立50周年記念会館とオンラインのハイブリッド開催 【対象】興味のある方 【参加人数】60人
講　師	弘前大学大学院地域共創科学研究科　准教授　君塚　道史 弘前大学大学院地域共創科学研究科　准教授　西塚　誠 (株)合食　技術本部商品開発部　小澤　祐介

	弘前大学大学院地域共創科学研究科　教授　　内山　大史
内　容	青森県において農林水産業、食品加工・製造業等を含め食産業は重要な産業群である。これまで弘前大学で蓄積した食に関する研究シーズ、共同研究や連携の事例あるいは課題等について、食品工学、農芸化学、付加価値創造科学を専門とする３名の教員と、大学と共同研究で製品開発を行った民間企業研究者の講演と議論を通じて、地域の食産業の高度化、そのための地域共創や連携のあり方について考える。

令和５年度公開講演会「日本海中部地震から40年、防災科学の進歩」

開催日	令和５年７月18日
主催・共催	【主催】弘前大学大学院地域共創科学研究科、大学院理工学研究科、大学院理工学研究科附属地震火山観測所、農学生命科学部 【後援】青森県、弘前市、弘前地区消防事務組合、東奥日報社、陸奥新報社、NHK青森放送局
会場・対象 参加人数	【会場】弘前大学創立50周年記念会館 【対象】興味のある方 【参加人数】64人
講　師	京都大学名誉教授、防災科学技術研究所前理事長　林　春男 弘前大学大学院理工学研究科　教授　　前田　拓人 弘前大学大学院理工学研究科　教授　　梅田　浩司 弘前大学農学生命科学部　教授　　森　洋
内　容	令和５年は日本海中部地震発生から40年目の節目にあたる。地震当時に問題とされたことに対する知見・技術は格段に進歩しており、40年間を振り返って、当時、弘前大学が学界に寄与した事項を中心に、その後の防災科学・防災技術の進歩を紹介する。また、特にこの地震災害をきっかけに社会科学分野の多くの研究者が災害研究を行うようになったが、その母体として弘前大学があった。当時の様子を知り、防災研究の最前線で活躍された講師から講演をいただくことで、防災リテラシーの向上を図り、将来に備えるきっかけとする。

弘前大学大学院地域共創科学研究科研究プロジェクトシンポジウム
『りんご新品種の普及と活用を考える』

開催日	令和５年12月14日
主催・共催	【主催】弘前大学大学院地域共創科学研究科
会場・対象 参加人数	【会場】弘前市総合学習センター（弘前市） 【対象】興味のある方 【参加人数】47人
講　師	弘前大学人文社会科学部　教授　黄　孝春 Venture Fruit　ゼネラルマネージャー　Morgan Rogers (地独)青森県産業技術センター　りんご研究所品種開発部長　木村　佳子 弘前大学　名誉教授　ビクター・カーペンター コレジオジャパン　ゼネラルマネージャー　今　智之 日本ピンクレディー協会事務局長　堀　恵介
内　容	りんご産業の発展には、良食味の新品種への更新による消費拡大も重要とされる。民間も含めて数多くの新品種が育成され、さらに海外からも日本に品種登録申請する新品種が増加し、これまでそれらを総合的に評価することが行われていない。また、海外では新品種の知財を活用したクラブ制が導入され、それが品種のブランド化、品質、価格の安定化そしてりんごの消費拡大や品種育成のための研究資金の獲得に寄与しているといわれている。弘前大学大学院地域共創科学研究科研究プロジェクトでは、青森県内にある国内外の新品種を収集し、総合的に試食評価を行うとともに、青森県内でクラブ制を利用することの是非についてアンケート調査を行ってきた。今回のシンポジウムでは、地域のりんご関係者とこの研究成果を共有する。

（９）医学部附属病院

青森県民公開講座

開催日	①令和５年９月11日　②令和５年10月26日　③令和５年11月14日 ④令和６年１月25日　⑤令和６年２月20日
主催・共催	【主催】弘前大学医学部附属病院脳卒中・心臓病等総合支援センター
会場・対象 参加人数	【会場】弘前大学医学部コミュニケーションセンター、弘前大学医学部附属病院脳卒中・心臓病等総合支援センターとオンラインのハイブリッド開催 【対象】青森県民 【参加人数】92人
講　師	①弘前大学大学院医学研究科　循環器腎臓病内科学講座　教授　富田　泰史 弘前大学医学部附属病院　慢性心不全看護認定看護師　佐藤　みな ②弘前大学医学部附属病院　管理栄養士　嶋﨑　真樹子 弘前大学医学部附属病院　薬剤師　大久保　翔 ③弘前大学医学部附属病院　管理栄養士　嶋﨑　真樹子 弘前大学医学部附属病院　薬剤師　相内　尚也 ④弘前大学医学部附属病院　理学療法士　石岡　新治 ⑤弘前大学医学部附属病院　理学療法士　佐藤　翔 弘前大学医学部附属病院　社会福祉士　佐藤　誠人
内　容	①心臓病と脳卒中をテーマに、青森県民に予防の重要性を伝える ②脳卒中の予防をテーマに、食事や服薬についての重要性を伝える ③心臓病の予防をテーマに、食事や服薬についての重要性を伝える ④心臓リハビリで心臓病の再発を予防する必要性を伝える ⑤社会福祉制度をテーマに役立てられる情報を伝える。入院中～施設、在宅でのリハビリについて伝える

「聞けて良かった」会

開催日	①令和５年10月19日　②令和５年12月５日
主催・共催	【主催】弘前大学医学部附属病院脳卒中・心臓病等総合支援センター
会場・対象 参加人数	【会場】弘前大学医学部附属病院　脳卒中・心臓病等総合支援センター 【対象】青森県民 【参加人数】15人
講　師	弘前大学医学部附属病院　社会福祉士　佐藤　誠人
内　容	社会福祉制度をテーマに、役立てられる情報を伝える。 第１回「介護保険でなにができるの？」 第２回「介護施設ってどう探せばいいの？」

青森県医療者講演会「脳卒中・心臓病のケアと医療を考える」

開催日	①令和５年10月19日　②令和５年12月５日
主催・共催	【主催】弘前大学医学部附属病院脳卒中・心臓病等総合支援センター
会場・対象 参加人数	【会場】オンライン 【対象】青森県の医療従事者、介護・福祉関係者 【参加人数】149人
講　師	①弘前大学大学院医学研究科　脳神経外科学講座　教授　斉藤　敦志 弘前大学医学部附属病院　脳卒中リハビリテーション看護認定看護師　福岡　幸子 ②弘前大学大学院医学研究科　医療安全学講座　教授　大徳　和之

内　容	①脳卒中治療の最前線と、シームレスな地域連携を目指す必要性を伝える。 ②小児期から成人期までの一貫した循環器病の診療支援、循環器病を有する患者・家族への支援体制の構築について伝える。

緩和ケア研修会

開催日	令和５年９月16日
主催・共催	【主催】弘前大学医学部附属病院
会場・対象 参加人数	【会場】弘前大学医学部附属病院 【対象】青森県内でがん等の診療に携わる医療従事者で規定のe-learning研修の受講を修了した者 【参加人数】30人
講　師	弘前大学大学院医学研究科地域侵襲制御医学講座（麻酔科）准教授　木村　太　他
内　容	がん等の診療に携わる医療従事者が基本的な緩和ケアについて正しく理解し、緩和ケアに関する知識や技術、態度を修得する。

第32回　弘前大学医学部附属病院緩和ケア公開講座

開催日	令和６年３月８日
主催・共催	【主催】弘前大学医学部附属病院腫瘍センター 【共催】東北広域次世代がんプロ養成プラン
会場・対象 参加人数	【会場】弘前大学医学研究科健康未来イノベーションセンター 【対象】弘前大学病院内教職員、医療従事者、福祉関係者 【参加人数】17人
講　師	弘前大学医学部附属病院　麻酔科　　伊藤　磨矢 弘前大学医学部附属病院　神経科精神科　片貝　公紀
内　容	がん等の診療に携わる医療従事者がより質の高い緩和ケアを提供できるようになるための一助となることを目的とした講座。

第３回青森県感染対策協議会（AICON）市民公開講座

開催日	令和５年７月15日
主催・共催	【主催】青森県感染対策協議会（AICON） 【共催】弘前大学医学部附属病院
会場・対象 参加人数	【会場】弘前市民文化交流館ホール（弘前市）とオンラインのハイブリッド開催 【対象】一般市民 【参加人数】９人
講　師	弘前大学医学部附属病院　感染制御センター長　齋藤　紀先
内　容	一般市民に対し、ウイルス感染症について正しい知識と対策を知ってもらうこと、また、吐物処理について家庭内でも対策を行いながら処理できることを目的として開催。

第16回　弘大病院がん診療市民公開講座

開催日	令和５年12月３日
主催・共催	【主催】弘前大学医学部附属病院 【共催】東北広域次世代がんプロ養成プラン
会場・対象 参加人数	【会場】弘前市民会館（弘前市）とオンラインのハイブリッド開催 【対象】一般市民 【参加人数】45人

講　師	弘前大学大学院医学研究科　地域医療学講座　講師　菊池　英純 弘前大学医学部附属病院　消化器外科,乳腺外科,甲状腺外科　講師　三浦　卓也 弘前大学大学院医学研究科　腫瘍内科学講座　助教　斎藤　絢介
内　容	弘前大学医学部附属病院におけるがん診療を広く市民の皆さまに知っていただくことを目的として開催。がんについて、専門家がそれぞれの立場からわかりやすく講演する。

第25回　家庭でできる看護ケア教室

開催日	令和５年10月３日
主催・共催	【主催】弘前大学医学部附属病院看護部
会場・対象 参加人数	【会場】弘前大学医学部コミュニケーションセンター 【対象】一般市民 【参加人数】25人
講　師	弘前大学医学部附属病院　脳卒中リハビリテーション看護認定看護師　福岡　幸子 弘前大学医学部附属病院　薬剤師　大久保　翔、薬剤師　相内　尚也
内　容	一般市民の方々を対象として、専門分野で働く看護師等が講師となり、家庭で実践できる看護ケア等について学ぶ機会を提供する。

第30回アレルギー週間　市民公開講座「アレルギーとの上手な付き合い方」

開催日	令和６年２月23日
主催・共催	【共催】青森県アレルギー拠点病院・弘前大学医学部附属病院／日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会青森県地方部会／青森県アレルギー懇話会
会場・対象 参加人数	【会場】中三弘前店（弘前市） 【対象】一般市民 【参加人数】30人
講　師	弘前大学医学部附属病院　耳鼻咽喉科頭頸部外科　講師　高畑　淳子 弘前大学医学部附属病院　呼吸器内科　講師　糸賀　正道 弘前大学大学院医学研究科　皮膚科学講座　教授　赤坂　英二郎
内　容	アレルギー疾患についての正しい知識と対策を啓蒙する。

第18回　訪問看護師対象学習会

開催日	令和６年２月３日
主催・共催	【主催】弘前大学医学部附属病院総合患者支援センター
会場・対象 参加人数	【会場】弘前大学医学部附属病院総合患者支援センターとオンラインのハイブリッド開催 【対象】津軽・西北五地区の訪問看護師 【参加人数】29人
講　師	弘前大学医学部附属病院　循環器内科　西崎　史恵 弘前大学医学部附属病院　看護部　慢性心不全看護認定看護師　佐藤　みな
内　容	訪問看護師を対象として、心不全患者の見方やケアなど、在宅療養に必要な情報を提供する。

呼吸器ハンズオンセミナー2023

開催日	令和５年８月27日
主催・共催	【主催】弘前大学大学院医学研究科呼吸器内科学講座 【共催】NPO法人北東北呼吸器医療推進機構

会場・対象 参加人数	【会場】青森県立中央病院（青森市） 【対象】青森圏内医師、初期研修医、医学部実習学生 【参加人数】29人
講　師	弘前大学大学院医学研究科呼吸器内科学講座　教授　田坂　定智
内　容	症例検討及び内視鏡のデモンストレーションを行い、実際にNPPV、スパイロメーターなどの機器に触れてもらいながら、臨床医として習得しておきたい呼吸器診療の教育、普及を行う。

（10）被ばく医療総合研究所

令和５年度　弘前大学浪江町復興支援活動成果報告会・交流会

開催日	令和５年11月25日
主催・共催	【主催】弘前大学被ばく医療総合研究所
会場・対象 参加人数	【会場】道の駅なみえ（福島県浪江町） 【対象】福島県浪江町民、近隣市町村住民等 【参加人数】23人
講　師	弘前大学被ばく医療総合研究所長　教授　床次　眞司 弘前大学被ばく医療総合研究所　教授　三浦　富智 弘前大学被ばく医療総合研究所　教授　赤田　尚史 弘前大学医学部附属病院高度救命救急センター長　花田　裕之 弘前大学被ばく医療総合研究所　准教授　大森　康孝 弘前大学大学院保健学研究科　大学院生　中山　亮 弘前大学大学院保健学研究科　大学院生　田岡　愛弥 弘前大学教育学部　学部学生　木村　壮志
内　容	平成23年９月29日、福島県浪江町と連携に関する協定を締結した。本学は、浪江町と協力しながら町民の健康相談、環境放射線モニタリングなど、様々な支援活動に継続して取り組んでおり、その支援活動の成果について紹介する。

災害支援医療従事者養成講座（履修証明プログラム）

開催回数	32回
主催・共催	【主催】弘前大学被ばく医療連携推進機構災害・被ばく医療教育センター
会場・対象 参加人数	【対象】青森県内の医療機関、原子力関連機関所属者等 【参加人数】928人
講　師	弘前大学大学院地域共創科学研究科　教授　片岡　俊一 弘前大学大学院理工学研究科　准教授　石田　祐宣 弘前大学農学生命科学部　講師　鄒　青穎 弘前大学大学院理工学研究科　講師　佐々木　実 弘前大学大学院理工学研究科　教授　鳥飼　宏之 弘前大学被ばく医療連携推進機構災害・被ばく医療教育センター　助教　辻口　貴清 弘前大学被ばく医療連携推進機構災害・被ばく医療教育センター　教授　伊藤　勝博 青森地方気象台　防災管理官　佐々木　幸夫 弘前大学大学院教育学研究科　教授　小岩　直人 青森県危機管理局　総括主幹　屋崎　雪絵 弘前大学被ばく医療連携推進機構災害・被ばく医療教育センター　技術補佐員　三上　直伸 日本ＤＭＡＴ事務局　室長補佐　小早川　義貴 青森県立中央病院　災害医療管理監　小笠原　賢 東北大学病院　講師　藤田　基生 弘前大学大学院保健学研究科　准教授　漆坂　真弓

	弘前大学大学院医学研究科　教授　花田　裕之 青森県医療薬務課　グループマネージャー　相馬　佳和 弘前医療福祉大学　准教授　若松　淳 青森県立保健大学　講師　千葉　武揚 愛知医科大学　教授　津田　雅庸 量子科学技術研究開発機構　看護師　高舘　久美子 札幌東徳州会病院救急センター　主任　井沼　浩政 青森県立中央病院　主査　雪田　大樹 弘前大学医学部附属病院　講師　奈良岡　征都 東北大学病院　助手　阿部　喜子
内　容	青森県内の医療機関、原子力関連機関に所属しする者等を対象として、今後予想される日本海溝・千島海溝を震源とする巨大地震、原子力災害を含めた各種災害発生時に医療従事者として支援が可能な人材を育成することを目的として開講する。

(11) 地域戦略研究所

第22回弘大食料研サイエンスカフェ「日本の食文化を支えるネバネバのひみつ」

開催日	令和５年８月19日
主催・共催	【主催】弘前大学地域戦略研究所
会場・対象 参加人数	【会場】あおもりスタートアップセンター（青森市）とオンラインのハイブリッド開催 【対象】一般市民 【参加人数】17人
講　師	岐阜大学応用生物科学部　教授　矢部　富雄
内　容	弘前大学地域戦略研究所食料科学研究部門に所属する教員や関連の研究者が話題を提供しつつ、一般の方と食品研究など身近な科学について語り合う場。研究者と参加者が同じテーブルでコーヒーを片手に、気軽にトークを楽しみながら科学に親しむ。

弘前大学地域戦略研究所シンポジウム「青森の水資源と防災・エネルギー」

開催日	令和６年２月27日
主催・共催	【主催】弘前大学地域戦略研究所
会場・対象 参加人数	【会場】弘前大学創立50周年記念会館とオンラインのハイブリッド開催 【対象】弘前大学生、教職員、自治体職員、企業関係者、市民一般 【参加人数】96人
講　師	パシフィックコンサルタンツ(株)　小森谷　哲夫 弘前大学地域戦略研究所長　教授　本田　明弘
内　容	「青森の水資源と防災・エネルギー」をテーマに、砂防堰堤を用いた小水力発電の最新動向について、外部講師に講演いただく。

(12) 国際連携本部

外国人留学生から直接聞ける世界のおはなし

開催日	①前期　令和５年７月８日 ②後期　令和６年１月27日
主催・共催	【主催】弘前市教育委員会（弘前市立中央公民館） 【共催】弘前大学国際連携本部

会場・対象 参加人数	【会場】①弘前市文化センター（弘前市） ②弘前市総合学習センター大会議室（弘前市） 【対象】弘前市在住の方または市内に通勤、通学されている方 【参加人数】43人
講　師	弘前大学で日本語を学ぶ外国人留学生
内　容	弘前大学で日本語を学ぶ外国人留学生が、母国について日本語で紹介することで、学習成果を発表する場となると同時に、外国人留学生と市民との交流の場となり、市民が外国の文化を知る機会を創出。

（13）地域創生本部

弘大じょっぱり起業家塾2023

開催日	Ⅰ．基礎コース 令和５年６月22日、７月６日、７月20日、８月31日、９月14日 Ⅱ．実践コース 令和５年10月５日、10月19日、10月26日、11月16日、11月30日、12月21日
主催・共催	【主催】弘前大学地域創生本部
会場・対象 参加人数	【会場】弘前大学創立50周年記念会館 【対象】大学生、高校生、一般市民 【参加人数】122人
講　師	Ⅰ．基礎コース USAGI SG pte ltd　Co-founder　重野　由佳 (株)日本政策金融公庫弘前支店長　古屋　洋樹 sekka　代表　土屋　牧子 弘前忍者屋敷　オーナー　佐藤　光麿 わかる事務所　代表　玉樹　真一郎 (株)ノイエ　代表取締役　熊谷　淳一 Ⅱ．実践コース 弘前大学大学院地域共創科学研究科　教授　石塚　哉史 弘前大学大学院地域共創科学研究科　教授　森　樹男
内　容	地域活性化に向けた人材育成の一環として、学生や一般市民等を対象に、起業家による講演や事業計画の策定・演習等を通して、柔軟な発想力や高い企画提案力を身につけることを狙いとした教育プログラム。

令和５年度市民ボランティア講座

開催日	①令和５年９月21日　②令和５年11月26日
主催・共催	【共催】①弘前大学地域創生本部ボランティアセンター、(一社)みらいねっと弘前 ②(一社)男女共同参画地域みらいねっと、弘前大学地域創生本部ボランティアセンター、GECM_net
会場・対象 参加人数	【会場】①弘前大学人文社会科学部多目的ホール ②弘前大学大学会館３階大集会室 【対象】①市民、学生、教職員など ②学生、地域の方 【参加人数】47人
講　師	①NPO法人八王子つばめ塾理事長兼事務局長　小宮　位之 青森家庭少年問題研究会共同代表、青森明の星短期大学　教授　最上　和幸 よこうちキッズぷれいす　代表　小野　康一郎 ②(一社)男女共同参画地域みらいねっと　代表理事　小山内　世喜子

内　容	①経済的な事情で塾に通えない児童、学生に対して学習支援を無料で行っている団体の実例から、学習支援のノウハウや居場所づくりについて学びながら、学習支援の必要性を共有し、子どもたちが安心して楽しく学べる場を広げることについて考える。 ②様々な要配慮者を想定した避難所スペース設営やルールづくり等の訓練を行うことで、地域防災力の向上を促進する。

令和５年度弘前大学地域創生本部ボランティアセンター活動報告会

開催日	令和６年３月10日
主催・共催	【主催】弘前大学地域創生本部ボランティアセンター
会場・対象 参加人数	【会場】弘前市民文化交流館ホール（弘前市） 【対象】市民、学生、行政関係者、教職員 【参加人数】14人
講　師	福知山公立大学地域経営学部　准教授　大門　大朗 弘前大学地域創生本部ボランティアセンター 理工学部　２年　羽原　拓哉 人文社会科学部　３年　加藤　里花 大学院理工学研究科　１年　木村　聡志 大学院人文社会科学研究科　２年　塚本　晴智
内　容	令和６年能登半島地震の被害状況や現状に関する講演を聞き、近年頻繁に発生する災害への支援活動について考える。また、令和５年度の本学ボランティアセンターの活動を振り返りながら、今後の課題や方策について意見交換を行い、翌年度以降のセンター運営を検討するとともに、弘前市民のボランティア活動への理解を深める。

むつサテライトキャンパス公開講座「食育健康講座」

開催日	①令和５年７月28日　②令和５年８月25日　③令和５年９月29日 ④令和５年10月20日
主催・共催	【共催】むつサテライトキャンパス、弘前大学、むつ市
会場・対象 参加人数	【会場】①海老川コミュニティセンター（むつ市） ②③④むつ来さまい館Bホール（むつ市） 【対象】むつ市民及び周辺市町村民 【参加人数】86人
講　師	①④弘前大学農学生命科学部　准教授　前多　隼人、料理研究家　坂本　謙二 ②③弘前大学　名誉教授　加藤　陽治、料理研究家　坂本　謙二
内　容	下北地方における特産の農水産物を素材に、弘前大学等のシーズを活用し、その機能性や機能を活かした調理方法や加工技術を紹介する。食育文化の向上により、生産者はもとより加工業者や販売にかかわる業者のモチベーションを高め、地域産業の活性化に大きな波及効果が期待される。 ①「缶詰でも大丈夫！お魚の健康成分を食べよう」 ②「畑の肉！大豆製品を食べて健康に！」 ③「きのこの栄養をしっかりとろう！」 ④「キクラゲを食べてお腹と骨の健康に！」

むつサテライトキャンパス公開講座「ジオパーク講座」

開催日	①令和５年８月26日　②令和５年９月10日
主催・共催	【共催】むつサテライトキャンパス、弘前大学、むつ市
会場・対象 参加人数	【会場】①下北地域 ②下北文化会館（むつ市） 【対象】むつ市民及び周辺市町村民

	【参加人数】36人
講　師	①弘前大学大学院理工学研究科　講師　根本　直樹 ②弘前大学農学生命科学部　教授　　中村　剛之
内　容	①下北北通り西部の地形と地質－ブラタモリのロケ地を巡る－ ②下北半島の昆虫について

令和５年度　雇用対策・人材確保セミナー「企業の採用力強化に向けて」

開催日	令和６年２月21日
主催・共催	【共催】八戸商工会議所、八戸地区雇用対策協議会、弘前大学八戸サテライト
会場・対象 参加人数	【会場】八戸プラザホテル（八戸市） 【対象】八戸商工会議所会員事業所の経営者・採用担当者など 【参加人数】78人
講　師	弘前大学人文社会科学部　准教授　髙島　克史 (株)アンカリンク　代表取締役　　安部　真之介 弘前大学学務部学生就職支援室長　木村　洋
内　容	「欲しい人材が採用できない」と悩んでいる企業に対して、学生に選ばれる企業になるためのヒントとして、学生の採用就職に近い立場の指導教員、就職活動を実際に体験した卒業生の経験を元に講演し、企業の具体的な取り組みに繋がるきっかけづくりや、県南地域における弘前大学生の円滑な就職とキャリア形成に寄与する。

「放課後の子どもの居場所づくりを考える研修会」

開催日	①令和５年６月19日　②令和５年７月22日　③令和５年９月９日 ④令和５年10月14日　⑤令和６年２月13日
主催・共催	【共催】弘前大学地域創生本部地域創生人材育成部門、弘前市子ども家庭課
会場・対象 参加人数	【会場】①弘前市民文化交流館ホール（弘前市） ②弘前市みやぞの児童センター（弘前市） ③弘前市西部児童センター（弘前市） ④弘前市裾野なかよし会（弘前市） ⑤弘前市民文化交流館ホール（弘前市） 【対象】児童厚生員、放課後児童支援員など 【参加人数】246人
講　師	①岩手大学教育学部　准教授　深作　拓郎 京都市修徳児童館　館長　木戸　玲子 弘前市岩木地区地域おこし協力隊　太田　歩 弘前市岩木児童センター　館長　竹内　佐智子 弘前市岩木児童センター　髙橋　絵理 ②岩手大学教育学部　准教授　深作　拓郎 愛媛県えひめこどもの城　児童厚生員　上木　秀美 ③岩手大学教育学部　准教授　深作　拓郎 宮城県名取市下増田児童センター　館長　渡邊　由貴 ④岩手大学教育学部　准教授　深作　拓郎 愛知県東郷町立兵庫児童館　館長　髙阪　麻子 ⑤岩手大学教育学部　准教授　深作　拓郎 全国児童厚生員研究協議会　会長　木戸　玲子 宮城県名取市下増田児童センター　館長　渡邊　由貴
内　容	利用児童が増加している学童保育に従事するスタッフや児童館に勤務する児童厚生員を主な対象として、子どもたちにとって居心地のよい居場所や環境について考え、学ぶための研修会。講義や実践研修に取り組むことで、子どもの発達課題や遊びの意義、適切な関

	わり方について考える機会とし、学童保育に従事するスタッフの資質向上を図り、子どもたちにとって居心地のよい居場所づくりを目指す。

パパラボ遊び研究所 vol. 7

開催日	令和５年11月23日
主催・共催	【共催】弘前大学地域創生本部地域創生人材育成部門、弘前市こども家庭課
会場・対象 参加人数	【会場】ヒロロ３階　駅前こどもの広場イベントスペース（弘前市） 【対象】育児中の父親、これから育児を行おうと思っている男性 【参加人数】38人
講　師	仙台　運動遊び研究サークル「きんにく～ず」代表　前田　高幸 仙台　運動遊び研究サークル「きんにく～ず」　　久松　史奈
内　容	弘前市では子育てに参画している父親は少なくないと思われるが、これまでのイベント等の振り返りによると、父親の子育てに対する意識は従属的で「子育てを手伝っている」という意識が強いものと考えられる。父親が得意な子どもとの関わり方を知り、父親・母親ともに承認欲求が満たされるような仕掛け作りを行うことで、父親が子育てを「楽しい」と感じ、自信を持って主体的に子育てに関わることができるような意識を啓発する。

弘前市公民館関係職員研修会

開催日	①令和５年５月26日　　②令和５年10月６日　　③令和６年１月25日
主催・共催	【共催】弘前大学地域創生本部地域創生人材育成部門、弘前市教育委員会
会場・対象 参加人数	【会場】弘前市中央公民館　長慶閣 【対象】弘前市立中央公民館職員、地区公民館職員 【参加人数】250人
講　師	①千葉大学　名誉教授　　長澤　成次 弘前大学教育学部　准教授　　越村　康英 弘前大学教育学部　講師　　深作　拓郎 弘前市公民館等活性化アドバイザー　野口　拓郎 ②弘前大学教育学部　准教授　　越村　康英 弘前市公民館等活性化アドバイザー　野口　拓郎 ③帝京大学教育学部　准教授　　生島　美和 弘前大学教育学部　准教授　　越村　康英 弘前市公民館等活性化アドバイザー　野口　拓郎
内　容	少子高齢化に伴い、社会保障や労働力不足などの様々な課題がある一方、地域活性化、住民の「絆づくり」など、身近な生活にも課題は生じており、地域の学びの拠点である公民館の役割も重要とされている。 この研修会では、公民館が抱える問題の把握に務め、その解決方法について、地域連携の実践例などから、ヒントを得るとともに、社会教育・生涯学習担当職員として必要な専門的知識技能の習得により職員の資質向上を目指す。

むつ市子どもの学び応援隊育成研修会

開催日	令和５年６月10日
主催・共催	【共催】弘前大学地域創生本部地域創生人材育成部門、むつ市教育委員会
会場・対象 参加人数	【会場】下北文化会館（むつ市） 【対象】放課後児童クラブ指導員等、むつ市地域学校協働本部関係者、市内教育関連団体、ＰＴＡを始めとした子どもの学びを応援する市民、子どもに関連するボランティア団体等 【参加人数】21人

講　師	岩手大学　教育学部　准教授　深作　拓郎
内　容	子どもたちを取り巻く環境の変化に伴い、子どもたちを見守る立場である大人たちにも、変わりゆく時代や状況に即した対応力が求められていることから、これまで培ったスキルのブラッシュアップと、更なる地域の教育力の向上を図る。

鶴田町放課後児童支援員研修会

開催日	①令和５年４月26日　　②令和５年７月８日　　③令和５年12月15日
主催・共催	【共催】弘前大学地域創生本部地域創生人材育成部門、鶴田町教育委員会
会場・対象 参加人数	【会場】①③鶴田町学童保育施設サンシャインスクール ②鶴田町立鶴田小学校体育館 【対象】サンシャインスクールに登録する放課後児童支援員、放課後児童支援補助員、子ども教室指導員、地域学校協働活動推進員 【参加人数】180人
講　師	①弘前大学教育学部　講師　深作　拓郎 ②岩手大学教育学部　准教授　深作　拓郎 宮城県名取市下増田児童センター　館長　渡邊　由貴 ③岩手大学教育学部　准教授　深作　拓郎 岩手県立いわてこどもの森　チーフプレーリーダー　長﨑　由紀
内　容	学童保育（サンシャインスクール）の指導員（放課後児童支援員、子ども教育指導員）を対象に、子どもたちの心地よい放課後環境をどのように作りだすのかを学ぶことで、各指導員の資向上と意識改革を図る。

青森県児童館職員・放課後児童支援員等研修会

開催日	令和５年11月７日
主催・共催	【共催】弘前大学地域創生本部地域創生人材育成部門、青森県社会福祉協議会
会場・対象 参加人数	【会場】アピオあおもり（青森市）とオンラインのハイブリッド開催 【対象】児童健全育成関係者（児童館職員・放課後児童支援員等） 【参加人数】111人（会場82人、オンライン29人）
講　師	岩手大学教育学部　准教授　深作　拓郎 東北福祉大学総合福祉学部福祉心理学科　講師　柴田　理瑛 青森中央短期大学　非常勤講師　松浦　淳 宮城県名取市下増田児童センター　館長　渡邊　由貴
内　容	放課後児童健全育成事業に携わる関係者が、発達障害などの配慮を必要とする子どもに対して適切な対応を行うための方法を学習するとともに、意見・情報交換により、今後の子どもの放課後支援について考え、現場での円滑な活動に活かす。

（14）教育推進機構

弘前大学イングリッシュ・ラウンジ・セミナー（前期）

開催回数	57回
主催・共催	【主催】弘前大学教育推進機構教養教育開発実践センター
会場・対象 参加人数	【会場】オンライン 【対象】青森県内の弘前大学との協定校の高等学校の生徒（担当教員の推薦必要） 【参加人数】122人

講　師	弘前大学教育推進機構教養教育開発実践センター　准教授　バードセール・ブライアン 弘前大学教育推進機構教養教育開発実践センター　講師　ソロモン・ジョシュア 弘前大学教育推進機構教養教育開発実践センター　助教　ヤグノ・ライク
内　容	2021年から、弘前大学イングリッシュ・ラウンジにおいて大学の学生のために行われている英語セミナーを、青森県内の協定校の高等学校の生徒に公開する。

高校生のための弘前大学イングリッシュ・ラウンジ　セミナー説明会

開催日	①令和５年４月14日　　②令和５年10月６日
主催・共催	【主催】弘前大学教育推進機構教養教育開発実践センター
会場・対象 参加人数	【会場】オンライン 【対象】青森県内の弘前大学との協定校の高等学校の生徒（担当教員の推薦必要） 【参加人数】10人
講　師	弘前大学教育推進機構教養教育開発実践センター　助教　ヤグノ・ライク
内　容	弘前大学イングリッシュ・ラウンジの英語セミナーに参加する青森県内の協定校の高等学校の生徒が参加できるワークショップ。

第３回　英語を使ってみよう、弘前大学イングリッシュ・ラウンジで

開催日	令和５年８月19日
主催・共催	【主催】弘前大学教育推進機構教養教育開発実践センター
会場・対象 参加人数	【会場】オンライン 【対象】日本全国の英語が好きな小・中学生 【参加人数】６人
講　師	弘前大学教育推進機構教養教育開発実践センター　講師　ソロモン・ジョシュア 弘前大学教育推進機構教養教育開発実践センター　助教　ヤグノ・ライク
内　容	小・中学生の夏休み期間中に行う、英語が好きな生徒のためのアクティビティを中心とした英語講座。Zoomで日本全国から参加できる。

第４回　弘前大学イングリッシュ・ラウンジ～市民のための英語講座

開催日	令和５年10月20日
主催・共催	【主催】弘前大学教育推進機構教養教育開発実践センター
会場・対象 参加人数	【会場】弘前大学イングリッシュ・ラウンジセミナールーム 【対象】弘前市及び周辺地域の英語が好きで、学びたい意欲のある方 【参加人数】３人
講　師	弘前大学教育推進機構教養教育開発実践センター　講師　ソロモン・ジョシュア 弘前大学教育推進機構教養教育開発実践センター　助教　ヤグノ・ライク
内　容	市民のための地元を英語で語るための講座。

弘前大学イングリッシュ・ラウンジ・セミナー（後期）

開催回数	57回
主催・共催	【主催】弘前大学教育推進機構教養教育開発実践センター
会場・対象 参加人数	【会場】オンライン 【対象】青森県内の弘前大学との協定校の高等学校の生徒（担当教員の推薦必要） 【参加人数】29人

講　師	弘前大学教育推進機構教養教育開発実践センター　准教授　バードセール・ブライアン 弘前大学教育推進機構教養教育開発実践センター　講師　ソロモン・ジョシュア 弘前大学教育推進機構教養教育開発実践センター　助教　ヤグノ・ライク
内　容	2021年から、弘前大学イングリッシュ・ラウンジにおいて大学の学生のために行われている英語セミナーを、青森県内の協定校の高等学校の生徒に公開する。

高校生のための弘前大学イングリッシュ・ラウンジ　英語スキル獲得ワークショップ

開催日	①令和５年５月27日 ②令和５年11月
主催・共催	【主催】弘前大学教育推進機構教養教育開発実践センター
会場・対象 参加人数	【会場】オンライン 【対象】青森県内の弘前大学との協定校の高等学校の生徒（担当教員の推薦必要） 【参加人数】38人
講　師	①弘前大学教育推進機構教養教育開発実践センター　講師　ソロモン・ジョシュア 弘前大学教育推進機構教養教育開発実践センター　助教　ヤグノ・ライク ②弘前大学教育推進機構教養教育開発実践センター　講師　ソロモン・ジョシュア 弘前大学教育推進機構教養教育開発実践センター　助教　片桐　早苗 弘前大学農学生命科学部　非常勤講師　ヤグノ・オルショヤ
内　容	弘前大学イングリッシュ・ラウンジの英語セミナーに参加する青森県内の協定校の高等学校の生徒が参加できるワークショップ。

(15) 研究・イノベーション推進機構

弘前大学知財塾

開催日	令和５年12月１日
主催・共催	【主催】弘前大学研究・イノベーション推進機構 【共催】弘前大学健康未来イノベーション研究機構、ひろさき産学官連携フォーラム、大学コンソーシアム学都ひろさき、みちのくアカデミア発スタートアップ共創プラットフォーム
会場・対象 参加人数	【会場】オンライン 【対象】弘前大学教職員、青森県内大学生・大学院生、ひろさき産学官連携フォーラム会員、イノベーション・ネットワークあおもりメンバー、MASP参画大学の教職員・学生 【参加人数】83人
講　師	京都七条特許事務所　共同代表　弁理士　伊藤　洋介
内　容	本学の教育・研究活動によって得られた知的財産の保護及び有効な活用により、社会の持続的発展に貢献することを目的として開催。令和５年度は「アカデミアの特許出願」をテーマに、研究者による研究成果の社会実装に向けて、特許出願時の特許明細書作成のポイント等について、特許事務所の弁理士の先生が講演する。

青い森の食材研究会セミナー

開催日	令和６年２月20日
主催・共催	【主催】ひろさき産学官連携フォーラム　青い森の食材研究会
会場・対象 参加人数	【会場】青森県立保健大学（青森市）とオンラインのハイブリッド開催 【対象】研究会会員及び一般 【参加人数】56人（対面：23人、オンライン：33人）

講　師	青森県中小企業団体中央会　弘前支所　所長　古川　博志
内　容	「食」の機能性等を研究している、青森県内の大学や試験研究機関が青森県産食材の栄養や機能性の情報を広く発信するために開催しているセミナー。令和５年度は青森県産の黒にんにくが地域産業として成り立つまでの取り組み等について講演する。

(16) 健康未来イノベーション研究機構

弘前大学COI-NEXT Well-being イノベーションフォーラム2023

開催日	令和５年10月13日
主催・共催	【主催】弘前大学、弘前市、青森県
会場・対象 参加人数	【会場】一橋大学一橋講堂（東京都）とオンラインのハイブリッド開催 【対象】一般市民、学生、大学、企業、研究機関等 【参加人数】2,200人
講　師	・弘前大学長　福田　眞作 ・青森県知事　宮下　宗一郎 ・弘前市長　櫻田　宏 ・文部科学省科学技術・学術政策局　科学技術・学術総括官　山下　恭徳 ・COI-NEXT共創分野・地域共創分野第１領域プログラムオフィサー　澤谷　由里子 ・弘前大学COI-NEXT拠点長(PL)/弘前大学学長特別補佐/健康未来イノベーション研究機構長・教授　村下　公一 ・COI-NEXT共創の場形成推進会議顧問（(株)三菱総合研究所理事長/プラチナ構想ネットワーク会長/東京大学第28代総長）　小宮山　宏 ・内閣府科学技術・イノベーション推進事務局長　松尾　泰樹 ・(株)資生堂　副社長　チーフイノベーションオフィサー　チーフブランドイノベーションオフィサー　岡部　義昭 ・弘前市副市長/弘前大学COI-NEXT　PL補佐　出﨑　和夫 ・弘前大学生協学生委員会代表/弘前大学農学生命科学部２年　文屋　慎太郎 ・NPO法人ココキャン/医Café SUP　白戸　蓮 ・NPO法人ココキャン/医Café SUP　佐々木　慎一朗 ・京都大学大学院医学研究科　特定助教/京都大学サテライト拠点長代理（サイバー戦略TL代理）　内野　詠一郎 ・東京大学医科学研究所 教授/東京大学サテライト拠点長（サイバー戦略TSL）　井元　清哉 ・九州大学大学院医学研究院　教授　二宮　利治 ・京都府立医科大学副学長・大学院医学研究科　教授/京都府立医科大学サテライト拠点的場　聖明 ・名桜大学学長　砂川　昌範 ・東京大学大学院薬学系研究科　客員准教授　五十嵐　中 ・DeSCヘルスケア(株)　代表取締役社長/弘前大学COI-NEXT副拠点長・社会実装統括(IL)瀬川　翔 ・弘前大学大学院医学研究科附属健康・医療データサイエンス研究センター長・教授　玉田嘉紀 ・京都府医科大学大学院医学研究科　教授　成本　迅 ・花王(株)　研究開発部門特命エキスパート/弘前大学COI-NEXT社会実装副統括(SIL)　桂木能久 ・(株)ミルテル　代表取締役社長　加藤　俊也 ・明治安田生命保険(相)サービス開発部　部長　打木　靖人 ・クラシエ(株)R&D本部ウェルビーイングリサーチセンター　主任研究員　渡部　晋平 ・味の素(株)R&B企画部インキュベーションGマネージャー　山田　敏之 ・マツダ(株)　統括研究長　本田　正徳 ・(株)プリメディカ　代表取締役社長兼CEO　富永　朋

	・シスメックス(株)　テクノロジーイノベーション本部データサイエンスセンター　主任研究員　田島　慶彦 ・(株)宮田総研　代表取締役社長/(株)ヘルスケアイノベーション　代表取締役社長　宮田　満 ・COI-NEXT共創の場形成推進会議委員/名古屋大学医学部附属病院先端医療開発部部長　先端医療・臨床研究支援センター長　水野　正明 ・弘前大学COI-NEXT副拠点長・研究統括(RL)/弘前大学大学院医学研究科長・教授　廣田　和美 ・青森県医師会健やか力推進センター長/弘前大学COI-NEXT拠点・最高顧問（学長特別補佐）　中路　重之 ・弘前市企画部長　外川　吉彦 ・青森県商工労働部新産業創造課長/弘前大学COI-NEXT PL補佐　栗島　宜郎 ・(株)社資生堂みらい開発研究所　研究員　森戸　勇介 ・日本コープ共済生活協同組合連合会総合マネジメント本部組合員参加推進部　部長　田中　美樹 ・セントラルスポーツ(株)経営企画室　シニアマネージャー　引地　雄介 ・小林製薬(株)ビューティー＆オーラルケアカテゴリー　ビューティーケア研究開発グループ長　林　忠紘 ・弘前大学理事（研究担当）/副学長　教授　曽我　亨
内　容	新たに健康を基軸とした「経済発展モデル」と「全世代アプローチ」でWell-beingな地域共創社会の実現をめざす。これまでのCOIでの活動成果を基盤にしつつ健康(QOL)の本質的課題解決へ向けてさらに力強く挑戦する。STI for SDGsの理念のもと、地域から世界の健康づくり(SDGs)への貢献をめざす、新たなる健康未来イノベーション戦略の全体像を披露するとともに、未来の地域社会モデル、ヘルスケア産業創出戦略等について第一線の産学官金民関係者が一大集結し、熱く議論する。

弘前大学COI-NEXT Well-being イノベーションサミット2024

開催日	令和６年２月２日
主催・共催	【主催】弘前大学、青森県、弘前市 【共催】青森県医師会健やか力推進センター、ひろさき産学官連携フォーラム
会場・対象 参加人数	【会場】アートホテル弘前シティ・プレミアホール（弘前市）とオンラインのハイブリッド開催 【対象】一般市民、学生、大学、企業、研究機関等 【参加人数】2,200人
講　師	・弘前大学長　福田　眞作 ・青森県知事　宮下　宗一郎 ・弘前市長　櫻田　宏 ・文部科学省科学技術・学術政策局　科学技術・学術総括官　山下　恭徳 ・内閣府科学技術・イノベーション推進事務局長　松尾　泰樹 ・COI-NEXT共創分野・地域共創分野第１領域副プログラムオフィサー　吉田　輝彦 ・弘前大学COI-NEXT拠点長(PL)/弘前大学学長特別補佐/健康未来イノベーション研究機構長・教授　村下　公一 ・経済産業省商務情報政策局商務・サービスグループヘルスケア産業課　総括補佐　藤岡　雅美 ・料理研究家　浜内　千波 ・弘前市健康こども部長　佐伯　尚幸 ・つがる市民生部長　成田　毅彦 ・(株)ミワ電工　取締役営業部次長　島谷　昌孝 ・中南地区連携推進協議会作業部会長/弘前大学教育学部地域連携支援室長・教授　上野　秀人 ・弘前保健所管内食生活改善推進員連絡協議会会長/ 青森県食生活改善推進員連絡協議会副会長　斎藤　明子 ・黒石市教育委員会教育長　山内　孝行 ・青森県教育庁スポーツ健康課体育・健康グループ　指導主事　三上　孝志

	・弘前大学生協学生委員会　笹森　穂花（弘前大学教育学部２年） ・弘前大学大学院保健学研究科　教授　斉藤　まなぶ ・東京大学大学院薬学系研究科　客員准教授　五十嵐　中 ・DeSCヘルスケア(株)　代表取締役社長/弘前大学COI-NEXT副拠点長・社会実装統括(IL)　瀬川　翔 ・花王(株)研究開発部門　特命エキスパート/弘前大学COI-NEXT社会実装副統括(SIL)　桂木　能久 ・東京大学大学院情報学環　准教授　上村　鋼平 ・名古屋大学大学院医学系研究科　准教授　中杤　昌弘 ・東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科臨床統計学分野博士課程２年　渡部　正也 ・和歌山県立医科大学保健看護学部　教授　宮井　信行 ・明治安田生命保険(相)　サービス開発部長　打木　靖人 ・青森県生活協同組合連合会　専務理事　三浦　雅子 ・カゴメ(株)食健康研究所　所長　鈴木　重徳 ・ハウス食品グループ本社(株)研究開発本部　基礎研究部長　平尾　宜司 ・雪印メグミルク(株)　執行役員ミルクサイエンス研究所長　中埜　拓 ・ヒューマン・メタボローム・テクノロジーズ(株)　執行役員事業統括本部プロジェクト推進管掌兼事業開発部長　亀谷　直孝 ・(株)テクノスルガ・ラボ　代表取締役社長　望月　淳 ・(株)バリューHR健康経営＆データヘルス推進室　分析チームリーダー・データサイエンティスト　坂田　圭史郎 ・マルマンコンピュータサービス(株)企画・営業部一般・医療営業課　シニアマネージャー　宮本　真弓 ・東北化学薬品(株)アカデミア・ライフサイエンス営業グループ部長　小野　寿雄 ・ICI(株)　代表取締役副社長　工藤　憲一 ・(株)宮田総研　代表取締役社長/(株)ヘルスケアイノベーション　代表取締役社長　宮田　満 ・COI-NEXT共創の場形成推進会議委員/名古屋大学医学部附属病院先端医療開発部部長　先端医療・臨床研究支援センター長　水野　正明 ・弘前大学COI-NEXT副拠点長・研究統括(RL)/弘前大学大学院医学研究科長・教授　廣田　和美 ・青森県医師会健やか力推進センター長/弘前大学COI-NEXT拠点・最高顧問（学長特別補佐）　中路　重之 ・青森県商工労働部新産業創造課長/弘前大学COI-NEXT PL補佐　栗島　宜郎 ・NPO法人ココキャン　代表理事　佐々木　慎一朗 ・NPO法人ココキャン　理事　白戸　蓮 ・親子体操普及員　境　江利子 ・カゴメ(株)健康事業部　シニアスペシャリスト　菅沼　大行 ・弘前大学理事（研究担当）/副学長　教授　曽我　亨
内　容	健康を基軸とした「経済発展モデル」と「全世代アプローチ」でwell-beingな地域共創社会の実現をめざす。これまでのCOI活動成果を基盤に、健康(QOL)の本質的課題解決へ向けてさらに力強く挑戦し、STI for SDGsの理念のもと、地域から世界の健康づくり(SDGs)への貢献をめざす。新健康未来イノベーション戦略の実現に向け、未来の地域社会モデル、ヘルスケア産業創出等について第一線の産学官金民関係者が大集結一し、熱く議論する。

(17) 男女共同参画推進室

男女共同参画トップセミナー

開催日	令和５年12月18日
主催・共催	【主催】弘前大学男女共同参画推進室
会場・対象 参加人数	【会場】弘前大学創立50周年記念会館とオンラインのハイブリッド開催 【対象】弘前大学、北東北ダイバーシティ研究環境推進コミッティ、北東北国立３大学連携推進会議連携協議会、あおもりダイバーシティ研究環境推進ネットワークの役

	職員ほか 【参加人数】49人
講　師	Facilitator's LABO〈えふらぼ〉主宰　栗本　敦子
内　容	すべての人が安心して能力を発揮できる組織をめざして～ジェンダー・ダイバーシティと心理的安全性～

(18) 大学コンソーシアム学都ひろさき

大学コンソーシアム学都ひろさき５大学合同シンポジウム

開催日	令和５年12月９日
主催・共催	【主催】大学コンソーシアム学都ひろさき 【共催】弘前市
会場・対象 参加人数	【会場】土手町コミュニティパーク（弘前市）とオンライン（アップルストリーム配信）のハイブリッド開催 【対象】学生、市民、大学関係者、行政関係者等 【参加人数】150人（会場50人、オンライン100人）
講　師	東京大学大学院工学系研究科　特任講師　鳴海　紘也
内　容	来場者が興味を持ちやすいテーマを設定し、市民向けの公開シンポジウムを開催することにより、コンソーシアム及び構成大学の取組をより多くの人に知っていただけるようＰＲ活動をする。 テーマ：「ファブをしよう」

Ⅴ．各学部・研究科等の地域連携・地域貢献に関する取組事例

学部等	人文社会科学部
取組名	「ダイアローグ：松丘保養園と出会う」（弘前大学資料館第33回企画展）
内容等	本企画展は、青森市石江にある国立療養所松丘保養園にまつわるもので、弘前大学人文社会科学部准教授　白石壮一郎を代表とし、澤田大介（松丘保養園社会交流会館学芸員）、木村直（東京藝術大学修士課程）、廣瀬俊介（風土形成事務所／東京大学）、田原範子（四天王寺大学教員）、伊地知紀子（大阪公立大学教員）、岩谷洋史（姫路独協大学教員）という、文化人類学・社会学・芸術学・地誌景観論などの分野からの専門家、現場経験豊富な松丘保養園学芸員がメンバーとなり実施。 この企画展では、松丘保養園にかかわる展示作品とじっくり向き合うことによって、現在の地域社会が同園の生活史をどのようなものとして想像できるかなどを、来観者同士で話し合いながら、あるいは一部の作品に直接触れながら考えることができる内容となった。 白石准教授が担当する教養講義「地域研究入門」（１年次学生中心、学部越境）では、国内ハンセン病問題の概略レクチャーを受けたうえで、展示を熟覧し、出展者を迎えたアーティストトークに参加するという、同企画展と連動したアクティブ・ラーニングを実施した。企画展は、学部学生・教員のほか、弘前市民、県内外からの来観者もあり、また、地元新聞に取材されるなど、松丘保養園の普段目にしない面をみたとの感想もあった。 本企画展は、web版『美術手帖』（美術出版社）の「有識者が選ぶ2023年の展覧会ベスト３」（国際芸術センター青森学芸員慶野結香選）に選ばれている。 ［参考URL］https://human.hirosaki-u.ac.jp/irrc/?p=414

学部等	人文社会科学部
取組名	五戸町有古文書調査
内容等	（研究目的） ・五戸町が所有する古文書（近世主体）の調査研究を行い、五戸町の歴史を明らかにする。 ・調査研究の成果をごのへ郷土館で一般公開することで、ごのへ郷土館への誘客を図り、地域活性化につなげる。また、成果の一部を郷土学習教材として活用し、地域理解促進や郷土愛醸成の一助とする。 （研究内容） ・古文書調査研究（整理、解読） ・古文書の一般公開（目録作成、一般向け解説パネル・シート等作成） （研究成果の概要） 令和５年度は、古文書の大部分を占めている圓子家文書を対象に、２回調査を実施した。当初1,600点を完了させる予定であったが、プラス１回の調査を実施することができたことで、調査点数も目標の1.5倍強の2,810点を数え、調査要領やペースを掴むことができた。令和５年度は研究初年度であり、令和12年度まで実施する予定。 ［参考URL］https://www.town.gonohe.aomori.jp/kouhou/2023_09.pdf

学部等	教育学部
取組名	教員を目指す高校生のためのセミナー
内容等	弘前大学教育学部では、教育・教職について理解を深めてもらうため、高校１、２年生を対象とした「教員を目指すためのセミナー」を弘前市・八戸市・青森市で開催した。 セミナーでは、本学教育学部教員による講義・演習の他、現場教員による講話を通して、教員の魅力や生きがいなどの情報を提供。参加した生徒からは、「県内高校生の教職への理解が深まった」、「進路形成にとって有意義な機会となった」等の感想があった。

学部等	教育学部
取組名	弘前大学教育学部附属四校園　公開研究会
内容等	「自ら考え自律的に行動する子の育成」を研究テーマとした合同公開研究会を弘前大学教育学部附属小学校・附属中学校で開催した。令和５年度は３回目の開催となり、各教科の授業を対面とライブ配信で行い、研究協議会をテレビ会議で行うハイブリッド型で実施した。 参加者からは「オンラインでのハイブリッド式での開催は大変助かる。今後もこのような学ぶ機会をいただければ有り難い。内容も充実しており、感銘を受けた」と開催方法への感想や、「附属四校園が同じ方向を向いて実践を重ねているというのは素晴らしいと思う。ただ、研究会となると情報や内容が盛りだくさんになってしまうことから、もう少し整理されるとありがたい」ど次年度以降への期待などの感想もいただき、大変有意義な公開研究会となった。 ［参考URL］ https://sites.google.com/fuchu.edu.hirosaki-u.ac.jp/public-research-conference https://www.hirosaki-u.ac.jp/topics/90450/

学部等	教育学部
取組名	政策形成をテーマとした学生による小学校出前授業
内容等	弘前大学教育学部政治学研究室（蒔田純准教授）の学生３人が開発した、政策形成がテーマの小学生向けゲーム「公園をつくろう！ゲームの木」を使って出前授業を行い、児童が作りたい公園の実現に向け議論を行った。 従来の教育では、選挙に重点が置かれ、政策形成にあまり焦点が当たらなかったが、遊びながら学習できるゲームを通じて、児童が政策や政治に興味が湧いていく姿が伺えた。また、学生にとっても小学生に指導をする機会が得られ有意義な出前授業となった。 ［参考URL］https://mutsushimpo.com/news/y2ycbgvg/

学部等	農学生命科学部
取組名	弘前大学農学生命科学部アグリ・カレッジ2023
内容等	日本農業・地域農業と農村地域の将来が危ぶまれる今日、地域に開かれた大学が果たすべき役割として、高校生を対象に将来の地域農業・農村地域の担い手を育成することがある。具体的には、高校生がオンラインで（週１日×２回）講義を受講することによって、将来の地域農業・農村地域の担い手を目指す意識を育てようとするものである。青森県内の高校生を対象に広く広報し、県内10校から38人が参加し、28人が修了した。 ［参考URL］https://nature.hirosaki-u.ac.jp/tell/16851/

学部等	農学生命科学部
取組名	リンゴとチューリップのフェスティバル2023
内容等	リンゴやチューリップの花が咲きそろう時期に弘前大学農学生命科学部附属農場（藤崎農場）を一般公開した。地域のみなさまに楽しんでいただくと共に、弘前大学における教育・研究及び社会貢献の成果を知ってもらうことで、地域との結びつきをより深めることができた。 ［参考URL］https://www.hirosaki-u.ac.jp/events/85528/

学部等	農学生命科学部
取組名	白神山地世界自然遺産登録30周年記念講演会
内容等	弘前大学農学生命科学部及び附属白神自然環境研究センターは、白神山地が世界自然遺産に登録され今年（令和５年）で30周年を迎えることを記念し、令和５年11月４日、弘前大学創立50周年記念会館みちのくホールにおいて講演会を開催、弘前大学の学生や教職員のほか、一般市民を含め200人以上が来場した。「自然に学ぶ」をテーマに、2000年にノーベル化学賞及び文化勲章を受賞された筑波大学名誉教授　白川　英樹　先生、2017年にイグ・ノーベル賞を受賞された北

	海道大学大学院農学研究院准教授　吉澤　和徳　先生、弘前大学農学生命科学部附属白神自然環境研究センター長　中村　剛之　教授による講演が行われ、来場者は３人の先生それぞれの「自然に学ぶ」ことの大切さに耳を傾けていた。 ［参考URL］https://www.hirosaki-u.ac.jp/topics/90329/

学部等	農学生命科学部
取組名	農学生命科学部附属白神自然環境研究センター「ふるさとの植物　保全育成事業」
内容等	2017年度に日本国内の２か所目の分布地としてつがる市で発見された希少植物ガシャモクの生育地外系統保存事業を主に青森県立木造高等学校と協働で行った。木造高等学校では、実際にガシャモクを育成し、増殖に向けて活動を行っている。令和５年７月・９月に生育地観察会及び切れ藻の移植などを行い、また、飼育の規模をこれまでよりも拡大し、系統保存事業を前進させた。９月の活動の際にはテレビ局３社から取材を受け、本事業の活動を広く周知することができた。また、NPO法人環境会議所東北が主催する「第23回環境甲子園」に活動報告し、奨励賞を受賞した。 ［参考URL］探究ブログ - 青森県立木造高等学校（asn.ed.jp）

学部等	農学生命科学部
取組名	農学生命科学部附属白神自然環境研究センター 市民参加型生物多様性調査イベント「白神 BioBlitz 2023」
内容等	白神山地が世界自然遺産に登録され30周年を迎えることを記念する行事として、青森県内外から動植物の専門家、市民を集め、青森県鰺ヶ沢町黒森の「白神の森 遊山道」において、市民参加型生物多様性調査イベント「白神 BioBlitz 2023」を開催した。令和５年６月24日・25日の２日間で100人以上の市民や研究者などの参加があり、約1,000種類の生物が確認された。

学部等	大学院理工学研究科
取組名	地域と連携した環境・エネルギー教育の取組
内容等	弘前大学大学院理工学研究科は、平成27年から青森中央学院大学の授業「自然とエネルギー」を継続して担当している。この授業では、人間と自然の共生に関する諸問題を、環境とエネルギー消費の視点から理解を深め、併せて自然と健康に益する安全・安心なエネルギー社会構築の重要性について学び、持続可能な循環型社会実現に向けて、地域がその特性を活かした強みを発揮し、地域ごとに資源が循環する自立・分散型の社会形成について理解を深める教育プログラムを実施している。令和５年度の受講者は97人で、これまで合計941人の学生が受講した。 ［参考URL］https://www.aomoricgu.ac.jp/guide/ml/curriculum_syllabus

学部等	大学院理工学研究科
取組名	弘前市防災マイスター育成講座
内容等	弘前市では、地域防災の推進者となる「防災リーダーの育成」を目的として、弘前市防災マイスター育成講座を平成24年度から実施している。弘前大学大学院理工学研究科は、この企画の発案当時から援助を行っており、毎年、複数の教員を講師として派遣している。

学部等	大学院地域社会研究科
取組名	尻屋地域（東通村）活性化調査研究事業
内容等	令和３年１月の村内ヒアリングから始まり、令和４年度までに役場中堅職員14人を対象に地域資源を活用した新事業開発に向けた支援人財育成事業を進めてきた。令和５年度は、役場から推薦された若手職員４人とワークショップを開催。「地域資源を活用して域外から稼ぐ仕事を考える」ことをテーマに、第１ステップでは、第２期東通まち・ひと・しごと創生総合戦略の施策から任意に一つ選択し、村内外の関連事例を調査し、各自のアイデアをヘッドライン化したうえで

	その詳細についての言語化を行った。第２ステップでは、２人１組のグループを形成しグループとしての提言をまとめることとした。この際、昨今の状況を踏まえ遠隔地におけるオンライン上での共同作業を可能にするツールの経験もした。 ［参考URL］https://tlag.hirosaki-u.ac.jp/wp-content/uploads/2024/04/news15.pdf

学部等	大学院地域社会研究科
取組名	市有財産の利活用に関する調査研究
内容等	弘前大学と包括連携協定を締結している平川市において、2019（令和元）年度から市役所本庁舎の建て替えによる機能移転に伴い余剰スペースが生まれる尾上分庁舎（旧尾上町役場）の利活用計画づくりのプロジェクトを実施している。令和５年度は、４月に住民説明会を開催した後、このコンセプトを体現する施設の改修工事に向け、７月に公募型プロポーザルを実施して設計事業者を選定した。この事業者が中心となって、関連部署の職員と市民有識者をメンバーとする協議体「おのえワクワク会議」を組織し、設計業者の提案の改良に向けた検討や具体的な空間のあり方についてのアイデア出しを行った。11月にはこれらの意見を反映させた基本設計案がまとまり、２度目の住民説明会を経て、12月に基本設計が完成し公表された。 ［参考URL］https://tlag.hirosaki-u.ac.jp/wp-content/uploads/2024/04/news15.pdf

学部等	大学院地域共創科学研究科
取組名	地域共創科学研究科　令和５年度シンポジウム
内容等	弘前大学大学院地域共創科学研究科産業創成科学専攻を中心に、「地域食産業の高度化を進めるための地域共創や連携のこれから」をテーマとしたシンポジウムを会場とオンラインのハイブリッド形式で開催した。食品工学、農芸化学、付加価値創造科学を専門とする３人の教員と、大学と共同研究で製品開発を行った民間企業研究者が講演・議論を行った。 ［参考URL］https://scs.hirosaki-u.ac.jp/symposium/

学部等	大学院地域共創科学研究科
取組名	魅力ある地域を創る珈琲を用いた芸術文化
内容等	弘前大学大学院地域共創科学研究科独自の研究助成制度である「共創研究助成制度」を利用し、珈琲によるアート作品の制作と弘前大学の学術指導を活用して、地域企業・大学生・市民の協同による「魅力ある地域づくりの新しい可能性」を探求した。 また、本研究において、旧制弘前高等学校外国人教師館（国登録有形文化財）を使用した地域における文化芸術活動のための環境づくりを発信することができた。地域住民がこの活動に意欲を持って楽しみながら参加し、地域への愛着と誇りを深め、郷土愛を育む新しいアプローチとなることが期待できる。 ［参考URL］https://scs.hirosaki-u.ac.jp/research/

学部等	被ばく医療総合研究所
取組名	災害支援医療従事者養成講座（履修証明プログラム）
内容等	青森県内の医療機関、原子力関連機関所属者などを対象に、今後予想される日本海溝・千島海溝を震源とする巨大地震、原子力災害を含めた各種災害発生時に医療従事者の支援が可能な人材育成を目的に、新たな取組みとして令和５年度に開講した。 本講座では、「災害原理と防災」（オンデマンド授業15回）、「災害医療の基礎」（オンライン授業15回）、「災害・被ばく医療」（対面授業２日間）のカリキュラムを実施し、修了生29人に「災害支援医療従事者」の称号を付与した。 ［参考URL］https://remcp.hirosaki-u.ac.jp/2024/03/29/r6_traning/

学部等	地域戦略研究所

取組名	青森県内で初栽培を目指している熱帯高原果樹（チェリモヤ）の持続的試験栽培
内容等	深浦町の閉館した温泉施設の温泉水を利用してビニールハウスを温め、熱帯高原果樹を栽培する試みを行っている。令和５年度は、初めて接ぎ木に成功した。また、温度条件や潅水条件が明らかになってきたため、１年を通して試験栽培を継続させることができた。その成果を学会発表や青森県主催のテックカフェ等で発表し、PRをした。特に地元の企業の方々には好評だった。地元の資源を活かした特産品づくりに学生たちが興味を持って取り組んでおり、人材育成にもつながっている。 ［参考URL］https://note.com/s_wakasa2019_/

学部等	地域戦略研究所
取組名	県内海岸漂着プラスチックのリサイクル化支援事業
内容等	青森県は、長大な海岸線を有し、場所によっては多量のプラスチックが漂着している。これらは、景観を悪化させ、環境破壊を引き起こすため、適正な処理が必要であるが、最終処分場での埋め立てによってしか処理できない現状がある。しかし、実施者らの調査により、県内企業の既存設備により、塩分や砂を含む海岸漂着プラスチックを再資源化できる可能性が示唆された。 そこで、環境浄化と海岸漂着プラスチックの有効利用を実証するため、令和５年８月５日、学生アルバイト40人と共に、海岸漂着物による汚染が深刻な青森県つがる市出来島海岸で漂着プラスチックを収集した。収集した８ｔトラック満載（約２トン）のプラスチックは、産業廃棄物として東京鐵鋼(株)八戸工場に送り、同社の設備を活用して、製鋼用の炭素材料へと変換できることを確認した。この際、塩分の付着量は同社の受け入れスペック以下であることを確認し、また、砂は同社設備で適正に除去できることを確認した。

学部等	教育推進機構
取組名	弘前大学イングリッシュ・ラウンジ・セミナー（前期・後期）
内容等	2021（令和３）年から引き続き、弘前大学イングリッシュ・ラウンジにおいて大学生のために行われている英語セミナーを、青森県内協定校の高等学校の生徒に公開している。高等学校の先生からは、インタラクティブなセミナーなので、生徒が生の英語を聞いたり、実際に話したりすることができ、楽しんで学修に取り組んでいると好評をいただいている。 ［参考URL］https://home.hirosaki-u.ac.jp/salc/

学部等	教育推進機構
取組名	高校生のための弘前大学イングリッシュ・ラウンジ　セミナー説明会
内容等	弘前大学イングリッシュ・ラウンジの英語セミナーに、青森県内協定校の高等学校の生徒が参加できるワークショップ。通常夕方４時から開催しているオンラインセミナーに参加できない生徒のために、ワークショップ形式で週末に開催している。高等学校の先生からは、インタラクティブなセミナーなので、生徒が生の英語を聞いたり、実際に話したりすることができ、楽しんで学修に取り組んでいると好評をいただいている。 ［参考URL］https://home.hirosaki-u.ac.jp/salc/

学部等	教育推進機構
取組名	第３回　英語を使ってみよう　弘前大学イングリッシュ・ラウンジで
内容等	弘前大学で実践しているアクティブ・ラーニングによる英語学習を体験できるオンライン講座。小・中学生の夏休み期間中、英語が好きな生徒のためのアクティビティを中心とした英語講座で、参加者は楽しんで積極的に英語を話していた。オンラインで日本全国から参加できるので、保護者の方の弘前大学の認知定着にも貢献している。 ［参考URL］https://home.hirosaki-u.ac.jp/salc/

学部等	教育推進機構
取組名	第４回　弘前大学イングリッシュ・ラウンジ～市民のための英語講座
内容等	一般市民のための、地元を英語で語るための講座。参加者は楽しんで英語を学んでいたようで、本学が開講している弘前大学グリーンカレッジの履修にもつながっている。 ［参考URL］https://home.hirosaki-u.ac.jp/salc/

学部等	教育推進機構
取組名	高校生のための弘前大学イングリッシュ・ラウンジ　英語スキル獲得ワークショップ
内容等	弘前大学イングリッシュ・ラウンジの英語セミナーに、青森県内協定校の高等学校の生徒が参加できるワークショップ。高等学校の考査期間中を避けるとともに、オンライン開催とした。 ［参考URL］https://home.hirosaki-u.ac.jp/salc/

総合窓口

地域活性化や地域課題に関する相談窓口

地域創生推進室

弘前大学 地域創生本部 地域創生推進室

TEL 0172-39-3413

※地域連携推進部門、地域創生人材育成部門も同じ連絡先です。

〒036-8560　青森県弘前市文京町1番地　総合教育棟1階

chiiki_honbu@hirosaki-u.ac.jp

その他お問い合わせ先

ボランティアセンター

弘前大学　地域創生本部　ボランティアセンター

TEL 0172-39-3268　FAX 0172-34-5251

〒036-8560　青森県弘前市文京町1番地　大学会館2階

huvc@hirosaki-u.ac.jp

八戸サテライト

弘前大学　八戸サテライト

TEL・FAX 0178-43-1600

〒031-8511　青森県八戸市堀端町2-3　八戸商工会館1階

hachisate@hirosaki-u.ac.jp

青森サテライト

弘前大学　青森サテライト

TEL 017-766-3500

〒038-8505　青森県青森市柳川2-1-1
青森市役所柳川庁舎内1階

aosate@hirosaki-u.ac.jp

国立大学法人　弘前大学　〒036-8560　青森県弘前市文京町1番地

TEL　0172-36-2111（代表）　弘前大学ホームページ　https://www.hirosaki-u.ac.jp

編集・発行　　弘前大学社会連携部社会連携課（2024(令和６)年11月発行）